

Reflection Desktopへル プ

ユーザーガイド

21.1

ナビゲーション

Reflection FTPクライアント	6
はじめに	7
はじめに	8
[FTP サイトに接続] ダイアログボックス	9
ローカルPCファイルの表示	10
サーバファイルの表示	11
FTP クライアント設定ファイル	12
FTP クライアント転送の自動化オプション	13
FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続	14
FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続	14
サイトへの接続	14
接続一覧への新しいサイトの追加	15
接続情報の表示	16
サーバへの接続の保持	17
安全な FTP クライアント接続	18
FTP クライアント設定ファイルの操作	40
FTP クライアント設定ファイルの操作	40
FTP クライアント設定の保存	41
保存されている FTP クライアント設定の読み込み	42
FTP クライアント設定のインポート	43
FTPクライアントへのWS_FTP設定のインポート	44
[終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス	44
[FTP設定のエクスポート]ダイアログボックス	45
サイトおよびグローバルプロパティの構成	47
サイトおよびグローバルプロパティの構成	47
FTP クライアントの全体設定の変更	48
FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更	55
ファイルの転送	75
ファイルの転送	75

FTP クライアントでのファイルの転送	76
ファイル転送方式の設定(転送方式)	77
スマートファイル転送するファイルの種類の追加	78
スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加	80
既存のファイルの処理方法(転送モード)	80
ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定	82
2つのリモートサイト間でのファイルの転送	83
ダウンロード時のファイル名の変更	84
アップロード時のファイル名の変更	85
未完了のサーバファイル転送の再開	86
[文字セット] ダイアログボックス	88
[スマートファイル拡張子の追加]ダイアログボックス	91
[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス	92
[ファイル置換の確認]ダイアログボックス	93
ファイルとフォルダの管理	95
ファイルとフォルダの管理	95
ファイルの操作	96
ローカルフォルダの操作	97
ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成	98
サーバディレクトリの操作方法	99
既定ホームディレクトリの設定	100
ファイル名の文字について	102
サーバファイルの一覧のフィルタリング	104
ディレクトリ定義ウィザードの実行	106
ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定	107
[サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス	109
[サーバ ファイルのプロパティ] ダイアログボックス	110
[フォルダへ移動] ダイアログボックス	111
FTP クライアントの起動のカスタマイズ	112
FTP クライアントの起動のカスタマイズ	112
設定ファイルを読み込むショートカットの作成	113

サイトに接続するショートカットの作成	113
FTP クライアント起動スイッチ	114
起動コマンドの例	117
起動時にスクリプトファイルを実行する	118
スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例	119
FTP クライアントの問題解決	120
FTP クライアントの問題解決	120
問題の原因を突き止める方法	121
FTP クライアント接続の問題解決	122
ファイル転送の問題解決	125
FTP ディレクトリー覧の問題解決	127
Secure Shell のログファイル	128
FTP サイト間のファイル転送の問題解決	129
FTP クライアントエラーメッセージ	131
Windows Sockets のエラーメッセージ	134
エラーメッセージ	137
FTP コマンドラインの使用	140
FTP コマンドラインの使用	140
FTP コマンドウィンドウ	140
コマンドウィンドウのクリア	141
FTPコマンドラインの使用	142
FTP および SFTP コマンド構文	143
FTP または SFTP コマンド内の引用符	144
FTP スクリプト	145
FTP スクリプト	145
FTP クライアントスクリプト	146
スクリプトの記録	147
スクリプトの実行	148
スクリプトの編集	148
FTP クライアントのスクリプトファイル形式	149
スクリプトの収録機能で捕捉される操作	150

スクリプト内のパスワードの機密保持	153
エラー処理に使用するコマンド	154
バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行	155
スクリプトのログファイルを作成する場合	156
コマンドの解説	157
コマンドの解説	157
FTP コマンド	158
SFTP コマンド	212
保証と著作権	233

1. Reflection FTPクライアント

FTP クライアントを使用して、ローカルコンピュータとリモートホスト間でファイルを転送するこ とができます。クライアントは、FTP と SFTP(SSH)サーバ両方からの送受信をサポートしていま す。Reflection FTP クライアントを使用すると、FTP サイトに接続し、FTP プロトコル使ってファ イルを素早く転送することができます。以下の機能が備わっています。

- ・画面が分割されているため、ローカルファイルとサーバファイルの両方を参照することが できます。[表示] メニューのオプションにより、希望に合ったファイルの表示設定を選択で きます。
- ・Windows 標準のドラッグ ドロップ操作およびコピーと貼り付け操作により、サーバと PC 間でファイルを転送できます。
- ・SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティ プロトコルに対応しています。
- [FTPサイトの追加ウィザード]を使って、FTPサイトの構成に必要なlistitemsの案内をします。ウィザードを起動するには、[FTP サイトに接続]ダイアログボックスで[新規サイト] をクリックします。
- ・標準的なほとんどの FTP サーバは、自動的に認識されます。サーバの問題を解決するオプ ションには、簡略化されたファイル一覧の作成機能や **[ディレクトリ定義ウィザード]** など があります。
- オプションのコマンドウィンドウを使うと、FTP クライアントとサーバ間で送信されたす
 べてのメッセージを表示できます。このウィンドウでは、標準の FTP コマンドをコマンド
 ラインに直接入力することにより、FTP サーバと通信することもできます。
- ・スマートファイル転送方式により、指定された種類のファイルに適した転送方式 (テキスト またはバイナリ) が自動的に認識されます。
- ・スクリプトの収録機能により、FTP クライアントを使って実行した操作をコマンドスクリ プトとして捕捉し、後で再生して接続とファイルの転送を自動化することができます。
- ・OLE オートメーションへの対応により、外部アプリケーションから FTP 転送のスクリプト を作成できます。

2.はじめに

2.1 はじめに

Reflection FTP クライアントを使用すると、FTP サイトに接続し、FTP プロトコル使ってファイル を素早く転送することができます。以下の機能が備わっています。

- ・画面が分割されているため、ローカルファイルとサーバファイルの両方を参照することが できます。[表示] メニューのオプションにより、希望に合ったファイルの表示設定を選択で きます。
- ・Windows 標準のドラッグ ドロップ操作およびコピーと貼り付け操作により、サーバと PC 間でファイルを転送できます。
- ・SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティ プロトコルに対応しています。
- [FTPサイトの追加ウィザード]を使って、FTPサイトの構成に必要なlistitemsの案内をします。ウィザードを起動するには、[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規サイト] を クリックします。
- ・標準的なほとんどの FTP サーバは、自動的に認識されます。サーバの問題を解決するオプ ションには、簡略化されたファイル一覧の作成機能や **[ディレクトリ定義ウィザード]** など があります。
- オプションのコマンドウィンドウを使うと、FTP クライアントとサーバ間で送信されたす
 べてのメッセージを表示できます。このウィンドウでは、標準の FTP コマンドをコマンド
 ラインに直接入力することにより、FTP サーバと通信することもできます。
- ・スマートファイル転送方式により、指定された種類のファイルに適した転送方式 (テキスト またはバイナリ) が自動的に認識されます。
- ・スクリプトの収録機能により、FTP クライアントを使って実行した操作をコマンドスクリ プトとして捕捉し、後で再生して接続とファイルの転送を自動化することができます。
- ・OLE オートメーションへの対応により、外部アプリケーションから FTP 転送のスクリプト を作成できます。

- ・FTP クライアントでのファイルの転送
- ・[FTP サイトに接続] ダイアログボックス
- ・ローカルPCファイルの表示
- ・サーバファイルの表示
- ・FTP クライアント設定ファイル
- ・FTP クライアント転送の自動化オプション

2.2 **[FTP サイトに接続] ダイアログボックス**

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスは、FTP クライアントの起動時に開きます。また、[接続] -[接続] を選択して開くこともできます。このダイアログボックスには、現在の設定ファイルに定義 および保存されているすべてのサイトが表示されます。

[接続]	選択されたサイトに接続します。クライアントが、そのサイト用に構成し た設定を使用して接続します。
[新規]	FTP サイトを追加します。[FTP サイトの追加] ウィザードが開きます。
[プロパ ティ]	選択されたサイトの設定を表示、または変更します。

[セキュリ

ティ]

選択されたサイトへのセキュアな接続を設定します。

詳細

- ・接続一覧への新しいサイトの追加
- ・サイトへの接続
- ・安全な FTP クライアント接続
- ・FTP クライアント接続の問題解決
- ・FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続

2.3 ローカルPCファイルの表示

ローカル PC 上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアント の左画面を使用 します。[**ファイル**] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在ア クティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

ローカル PC ファイルを表示するには

- 1. FTP クライアントを起動します。
- 2. 左画面をクリックしてアクティブにします。
- 3. 左画面を使って、フォルダおよびファイルを参照します。

∂ ×€

- ・すべてのフォルダの階層を表示および移動するには、作業中の画面に移動し、[別の フォルダへ移動]リストボックスをクリックし、開くフォルダを選択します。
- ・ファイルの表示方法を変更するには、アクティブな画面に移動して、[表示]メニューの コマンドまたはツールバーにある4つの表示用ボタンを使用します。

詳細

ファイルとフォルダの管理

2.4 サーバファイルの表示

サーバ上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアントの右画面を使用します。 [**ファイル**] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブ な画面上のフォルダとファイルに適用されます。

サーバファイルを表示するには

- 1. FTP クライアントを起動して、リモートサイトに接続します。
- 2. 右画面をクリックしてアクティブにします。
- 3. フォルダまたはファイルを開くかプログラムを起動するには、それをダブルクリックしま す。
- 3. ファイルの内容を表示したり、プログラムを実行したりするには、FTP クライアントはまず サーバのファイルを、既定のローカルホームフォルダにコピーします。

ନ୍ଧ 🖓

- ・FTP接続 (ただし、SFTP接続を除く)の場合、ファイルの表示フィルタを使うと、現在のディレクトリー覧に特定の種類のファイルだけを表示できるようになります。[表示]
 -[フィルタ] コマンドをクリックします。
- ・すべてのフォルダの階層を表示および移動するには、作業中の画面に移動し、[別の フォルダへ移動]リストボックスをクリックし、開くフォルダを選択します。
- ・ファイルの表示方法を変更するには、アクティブな画面に移動して、[表示]メニューの コマンドまたはツールバーにある4つの表示用ボタンを使用します。

- ・サーバディレクトリの操作方法
- ・サーバファイルの一覧のフィルタリング
- ・既定ホームディレクトリの設定
- ・ディレクトリ定義ウィザードの実行

2.5 FTP クライアント設定ファイル

Reflection FTP クライアントは、設定ファイルを使って構成を保存します。設定ファイルには、次の情報が含まれます。

- ・ユーザが設定したすべてのサイト。サイトのプロパティも含まれます。パスワードを保存するように選択した場合、パスワードは暗号化テキストとして設定ファイルに保存されます。
- ・[転送方式] と [ファイル既存の場合に] の設定。
- ・[オプション] ダイアログボックスで構成した設定。

既定では、クライアントを起動すると、「Settings.rfw」という名前の付いた設定ファイルが自動的に開きます。クライアントを起動して任意の設定ファイルを自動的に開くショートカットを作成できます。クライアントのタイトルバーには、現在開いている設定ファイルの名前が表示されます。設定ファイルの拡張子は、RFW です。

∂ × €

- ・設定ファイルを開くと、そのファイルに保存されている設定が現在の設定に置き換えられます。
- •[設定のインポート]コマンドを使用して、クライアントの設定を変更することもできま す。この場合、インポートした設定は現在の設定に追加されます。セッションのタイト ルは変更されません。
- ・一部の表示設定は、設定ファイルではなくWindowsレジストリに保存されます。これには、コマンドウィンドウ、ローカルウィンドウ、サーバウィンドウの表示設定が含まれます。これらの設定を変更した場合は、現在開いている設定ファイルに関係なく、すべてのクライアントセッションに影響します。
- ・13.0より前のバージョンでは、設定はWindowsレジストリに保存されていました。旧 バージョンからアップグレードした場合、これらの設定はクライアントの初回起動時に 設定ファイルに自動的に移行されます。

- ・FTP クライアント設定ファイルの操作
- ・設定ファイルを読み込むショートカットの作成
- ・FTP クライアント設定のインポート

2.6 FTP クライアント転送の自動化オプション

FTP クライアントには、ファイル転送を自動化するための次のオプションが備わっています。

- ・クライアント内からの接続およびファイル転送を自動化するには、FTP クライアントスク リプトを使用します。詳細については、FTP スクリプトおよびコマンドの解説を参照して ください。
- ・外部アプリケーションからの転送を自動化するには、FTP クライアントオートメーション API を使用します。APIのマニュアルは、Reflection FTPクライアントAPIで確認できます。

3. FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続

3.1 FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続

このセクションの内容

- ・サイトへの接続
- ・接続一覧への新しいサイトの追加
- ・ 接続情報の表示
- ・サーバへの接続の保持
- ・安全な FTP クライアント接続

3.2 サイトへの接続

以下のいずれかの方法で、FTP または SFTP サーバに接続することができます。

- ・クライアントの起動時に表示される [FTP サイトに接続] ダイアログボックスを使用しま す。
- ・設定ファイルを読み込んで自動的にサイトに接続するショートカットを作成します。
- •FTP コマンドラインに **OPEN** コマンドを入力します。詳細については、「コマンドの解 説」の「Open」の項目を参照してください。
- ・スクリプトを実行するかまたはサーバに接続して、自動的にファイル転送コマンドを実行 する起動コマンドを使って、クライアントを起動します。
- •[接続] [サイト2に接続] コマンドを使って同じセッションで2つ目のサイトに接続します。

- ・[FTP サイトに接続] ダイアログボックス
- ・サイトに接続するショートカットの作成
- ・FTP クライアント起動スイッチ
- ・接続一覧への新しいサイトの追加
- ・FTP クライアントの起動のカスタマイズ
- ・安全な FTP クライアント接続

3.3 接続一覧への新しいサイトの追加

[FTP サイトに接続] ダイアログボックスを使って、接続一覧へ新しいサイトを追加します。

接続一覧に新しい FTP または SFTP サイトを追加するには

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. [FTP サイトに接続] ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイ アログボックスが開いていない場合は、[接続] - [接続] コマンドをクリックします)。
- 2. [新規サイト] をクリックして、[FTP サイトの追加] ウィザードを起動します。
- 3. FTP (または SFTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力して、[次へ] をクリックしま す。
- 4. ユーザ名を使ってログインするか、anonymous ログインを使用するかを指定します(SFTP 接続では、anonymous ログオンは使用できません)。
- 5. (オプション) サイトのプロパティを構成するには [ログイン情報] パネルの [詳細設定] ボタン をクリックします。
- 6. (オプション) 安全な接続を構成するには、[ログイン情報] パネルの [セキュリティ] ボタンをク リックします。

ନ୍ଧ 🖓

セキュリティ構成、およびその他のプロパティは後で変更することもできます。これを行う には、[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択してから、[セキュリティ] ま たは [プロパティ] をクリックします。

- 7. 登録ユーザ用の接続を構成している場合は、[FTP ユーザログイン] パネルが表示されます。 ユーザ名を入力します。難読化されたテキストとしてパスワードを設定ファイルに保存する こともできます。
- 8. [接続] パネルで、このサイトに使用する説明的な名前を入力します。この名前は [FTP サイト に接続] ダイアログボックスで使用されます。
- 9. すぐにサイトに接続するかどうかを指定して、[完了] をクリックします。
- 10. [ファイル] [保存] コマンドを選択して、現在の設定ファイルへの変更を保存します。

- ・FTP サーバまたは SFTP サーバへの接続
- ・サイトに接続するショートカットの作成
- ・安全な FTP クライアント接続

3.4 接続情報の表示

ホストへ接続している場合は、サーバおよび接続に関する情報を表示できます。

接続情報を表示するには

- 1. [接続] [サイトプロパティ] コマンドをクリックします。
- 2. [情報] タブをクリックします。

[情報] タブには、次の統計情報が表示されます。

- ・サーバの種類
- ・接続日と時刻
- ・通信時間
- ・前回の転送時間
- ・前回の転送効率
- ・現在のセッション中に行われたすべてのファイル転送の平均速度
- ・現在のセッションに関するセキュリティ情報

3.5 サーバへの接続の保持

ほとんどのサーバでは、活動が検出されない場合にユーザのセッションを継続する時間を指定す ることができます。この時間を超過すると、サーバとの接続が切断されます。サーバが不活動状態 を理由に接続を切断してしまうのを防ぐため、「キープアライブ」コマンドを送信するよう FTP クライアントを構成できます。

サーバへの接続を保持するには

- 1. **[サイトプロパティ]** ダイアログボックスを開いて、**[接続]** タブをクリックします。
- 2. [**キープアライブの送信間隔]**チェックボックスをオンにして、連続したキープアライブ (NOOP) コマンドの送信間隔を秒数で指定します。
- 3. [**OK**] をクリックします。

∀×€

この設定はSFTP接続には影響を与えません。SFTP 接続の場合は、[Reflection Secure Shell の設定] ダイアログボックスの [全般] タブにある [サーバキープアライブ] コマンドを使用します。

3.6 安全な FTP クライアント接続

3.6.1 安全な FTP クライアント接続

SOCKS、SSL/TLS、Secure Shell、ファイアウォールサーバなど、さまざまなセキュリティプロト コルに対応しています。

このセクションの内容

- ・SOCKS プロキシサーバを使った接続
- ・ファイアウォール経由での接続
- ・Secure Shell 接続 (FTP クライアント)
- ・SSL/TLS 接続 (FTP クライアント)

3.6.2 SOCKS プロキシサーバを使った接続

サイトで SOCKS プロキシサーバを使用している場合は、以下の手順を使用して FTP クライアント での接続を構成します。

SOCKS プロキシサーバを使って接続するには

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスが開きます(FTPクライアントがすでに実行中でこの ダイアログボックスが開いていない場合は、**[接続]>[接続]**をクリックします。)
- 2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しい サイト の作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP ア ドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボッ クスで、[ユーザ] を選択します。

宛先	操作
既存サ イトの 変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] をクリックします。

4. SOCKS の構成は、FTP 接続と SFTP 接続で次のように異なります。

宛先	操作
FTP 接続 を構成す る	[SOCKS] タブで、[SOCKS を使用] チェックボックスをオンにします。[構 成]をクリックして、SOCKSプロキシサーバを構成します。
SFTP 接 続を構成 する	[Secure Shell]タブで、[構成]をクリックして[Secure Shellの設定] ダイアログボックスを開きます。[全般] タブで [SOCKS プロキシを使用す る] チェックボックスをオンにします。[SOCKSの構成(Configure SOCKS)]をクリックして、SOCKSプロキシサーバを構成します。

目的	操作
新しい サイト の作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉 じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックス で、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。[終 了]をクリックします。

目的	操作
既存サ イトの 変更	[OK]をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

♀ 注

SOCKSサーバの既定のポート番号は1080です。

3.6.3 ファイアウォール経由での接続

ファイアウォール経由での接続

ファイアウォール経由で FTP または SFTP サーバに接続している場合は以下の手順を使用します。

ファイアウォールを介して接続するには

1. FTP クライアントを起動します。

1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイ アログボックスが開いていない場合は、**[接続]** - **[接続]** コマンドをクリックします)。

宛先	操作
新しい サイト の作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP ア ドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボッ クスで、[ユーザ] を選択します。

宛先	操作
既存サ イトの 変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [セキュリティ] をクリックします。

- 4. [ファイアウォール] セクションで、 [ファイアウォールを使用] を選択します。
- 5. [スタイル] から、ファイアウォールで使用する認証コマンドシーケンスを選択します(選択す るスタイルによって、設定できるオプションが異なります)。
- 6. サーバに適切な認証情報を構成します。

目的	操作
新しい サイト の作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉 じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックス で、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。 [終 了]をクリックします。

目的	操作
既存サ イトの 変更	[OK]をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

γ ×€

- ・SFTP接続では、 [ファイアウォール] タブは使用できません。
- [セキュリティのプロパティ]ダイアログボックスの[ファイアウォール]タブの設定は、
 ファイアウォールを介して接続するよう設定した、すべてのサイトに対して使用されます。
- 「パッシブモードを使用する]チェックボックスをオンにすると (既定値)、FTPクライアン トはディレクトリー覧とファイル転送用に別々のデータ接続を確立します。一部のファ イアウォールを経由する接続では、この設定は必須です。passive モードをオフにしてい て、ディレクトリー覧が表示されなかったり、「425 Can't open data connection」(デー タ接続を開くことができません) というエラーが返される場合は、このチェックボック スをオンにしてください。

- ・ファイアウォールの認証スタイル (FTP クライアント)
- ・[接続] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

ファイアウォールの認証スタイル (FTP クライアント)

FTP クライアントでは、ユーザが指定したサーバの形式に基づいてファイアウォールサーバにさ まざまなコマンドを送信し、FTP サーバに接続します。この認証シーケンスの実行中、FTPクライ アントでは、 [サイトのプロパティ] ダイアログボックスと、 [セキュリティのプロパティ] ダイ アログボックスの [ファイアウォール] セクションで設定した情報が使用されます。これらの情報 の一部を指定していない場合、接続するたびに情報を指定するよう求められます。

次のスタイルがあります。

・[SITE サーバ名]

中継サーバが SITE コマンドを送信して FTP サーバに接続する場合は、この形式を使用しま す。詳細については、「[SITEサーバ名]認証コマンドシーケンス」を参照してください。

・[ユーザ名@サーバ名]

中継サーバが [ユーザ名@サーバ名] 形式のサーバログオンを必要とする場合は、この形式を 使用します。詳細については、「[ユーザ名@サーバ名]認証コマンドシーケンス」を参照し てください。

• [USER-PASS-ACCT]

自動的にファイアウォールを経由して接続が行われるようにネットワークが設定されてい て、プロキシサーバを指定する必要がない場合は、このスタイルを使用します。このログ オンシーケンスでは、FTP サイトとファイアウォール両方のユーザ名が1回の USER コマ ンドによって送信され、ファイアウォールのパスワードは ACCT コマンドによって送信さ れます。詳細については、「[USER-PASS-ACCT]認証コマンドシーケンス」を参照してくだ さい。

・透明

自動的にファイアウォールを経由して接続が行われるようにネットワークが設定されてい て、プロキシサーバを指定する必要がない場合は、このスタイルを使用します。このスタ イルの接続では、一連の USER コマンドと PASS コマンドによってファイアウォールのログ オン情報が送信され、それに引き続き、FTP サーバのログオン情報が送信されます。詳細 については、「[透過]認証コマンドシーケンス」を参照してください。

・チャレンジ/レスポンス方式

使用しているサーバで、接続時にハードウェアトークンを使用して識別情報を指定する必要がある場合は、このスタイルを使用します。このスタイルを選択した場合、パスワード 情報を事前に設定しておくことはできません。ログオン処理中、試行を求めるメッセージ が表示されます。このメッセージが表示されたら、トークンを使用して正しい情報を指定 してください。詳細については、「[試行/応答]認証コマンドシーケンス」を参照してください。

・[ユーザ ID@ファイアウォール ID@リモートホスト]

サーバがユーザ ID@ファイアウォール ID@リモートホスト形式のログオンを必要とする場合は、この形式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP クライアントには下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイアウォールユーザ名、ファイアウォールパスワード、FTP サーバアドレス、FTP ユーザ名。

・[ファイアウォールのユーザ名@FTP サーバ]

サーバがファイアウォールユーザ@FTP サーバ形式のログオンを必要とする場は、この形 式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP クライアントに は下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイアウォールユーザ 名、ファイアウォールパスワード、FTP ユーザ名。詳細については、「[ファイアウォール ユーザ@FTPサーバ名]認証コマンドシーケンス」を参照してください。

• [FtpUser@FtpServer FirewallUser]

サーバがFTP ユーザ@FTP サーバファイアウォールユーザ形式のログオンを必要とする場 合は、この形式を使用します。その他のボックスを空白のままにすると、接続時に FTP ク ライアントには下記の順に情報を表示されます: ファイアウォールアドレス、ファイア ウォールユーザ名、ファイアウォールパスワード、FTP ユーザ名、FTP パスワード。詳細 については、「[FtpUser@FtpServer FirewallUser]認証コマンドシーケンス」を参照してくだ さい。

詳細

ファイアウォール経由での接続

[SITEサーバ名] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、 **[セキュリティのプロパティ**] ダイアログボックスの **[ファイアウォール**] セクションで **[スタイル**] を **[SITEサーバ名**] に構成した場合、次のコマンドシーケンスを使用 して接続を行います。

OPEN <proxy_server> USER <firewall_username> PASS <firewall_password> SITE <FTP_server> USER <FTP_server_username> PASS <fTP_server_password>

詳細

ファイアウォール経由での接続

[ユーザ名@サーバ名] 認証コマンドシーケンス

[セキュリティのプロパティ]ダイアログボックスの[**ファイアウォール**]セクションで[**スタイ ル**]を[**ユーザ名**@**サーバ名**]に構成した場合、FTPクライアントでは接続時に次のコマンドシー ケンスのいずれかが使用されます。

[パススルー認証] チェックボックスをオンにした場合:

OPEN oproxy_server>
USER <firewall_username>
PASS <firewall_password>
USER <username>@<FTP_server>
PASS <FTP_server_password>

[中継の認証] チェックボックスをオフにした場合:

OPEN <proxy_server> USER <username>@<FTP_server> PASS <FTP_server_password>

詳細

ファイアウォール経由での接続

[USER-PASS-ACCT] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、 **[セキュリティのプロパティ**] ダイアログボックスの **[ファイアウォール**] セクションで、 **[スタイル**] を **[USER-PASS-ACCT**] に構成した場合に、次のコマンドシーケン スを使用して接続を行います。

```
OPEN <FTP_server>
USER <FTP_server_username> <firewall_username>
PASS <FTP_server_password>
ACCT <firewall_password>
```

詳細

ファイアウォール経由での接続

[透過] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、 **[セキュリティのプロパティ**] ダイアログボックスの **[ファイアウォール**] セクションで、 **[スタイル**] を **[透過**] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接 続を行います。

OPEN <FTP_server> USER <firewall_username> PASS <firewall_password> USER <FTP_server_username> PASS <FTP_server_password>

詳細

ファイアウォール経由での接続

[試行/応答] 認証コマンドシーケンス

FTP クライアントは、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [ファイアウォール] タブで、[スタイル] を [試行/応答] に構成した場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

OPEN <FTP_server> USER <firewall_username> PASS <challenge_response_from_token> USER <fTP_server_username> PASS <FTP_server_password>

詳細

ファイアウォール経由での接続

[ファイアウォールのユーザ名@FTPサーバ] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、 **[セキュリティのプロパティ**] ダイアログボックスの **[ファイアウォール**] セクションで、 **[スタイル**] を **[ファイアウォールのユーザ名**@**FTPサーバ**] に構成した場合に、 次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

OPEN <Firewall_server> USER <Firewall_username>@<FTP_server> PASS <Firewall_password> USER <FTP_username>

詳細

ファイアウォール経由での接続

[FTPユーザ@FTPサーバファイアウォールのユーザ] 認証コマンドシーケンス

FTPクライアントは、 **[セキュリティのプロパティ**] ダイアログボックスの **[ファイアウォール**] セクションで、 **[スタイル**] を **[FTPユーザ**@**FTPサーバファイアウォールのユーザ**] に構成した 場合に、次のコマンドシーケンスを使用して接続を行います。

```
OPEN <Firewall_server>
USER <FTP_username>@<FTP_server> <Firewall_username>
PASS <FTP_server_password>
```

ACCT <Firewall_password>

詳細

ファイアウォール経由での接続

3.6.4 Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

Secure Shell 接続は、サーバ認証とユーザ認証の両方を要求します。Secure Shell プロトコルは、 データ暗号化も行います。FTP クライアントを使用して Secure Shell 接続を構成するとき、次のい ずれかの方法を使用して、転送されるすべてのデータを確実に安全に暗号化できます。

- ・SFTP プロトコルを使用してファイルを転送する。
- ・FTP プロトコルを使用してファイルを転送し、トンネリングを使用してすべての通信を安 全な SSH トンネルを介して転送する。

詳細

- ・Secure Shell を使った接続 (FTP クライアント)
- ・FTP 通信の転送

Secure Shell を使った接続 (FTP クライアント)

FTP クライアントでの認証および暗号化に Secure Shell を使用するには、以下の手順に従います。

FTP クライアントで Secure Shell 接続を構成するには

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイ アログボックスが開いていない場合は、**[接続]** - **[接続]** コマンドをクリックします)。
- 2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しいサイ トの作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。
	[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前ま たは IP アドレスを入力し、 [次へ] をクリックします。
	[ログイン情報] ダイアログボックスで、 [ユーザ] を選択します。

宛先	操作

既存サイト [FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。 の変更

- 3. [セキュリティ] をクリックします。
- 4. [Secure Shell] セクションを選択します。
- 5. [Reflection Secure Shellを使用] を選択します。
- 6. 次のいずれかのオプションを選択します。

[SFTP]	Reflection は SFTP (Secure FTP) プロトコルを使用して接続します。 SFTP では、対応するコマンドの数が、完全な FTP プロトコルより 少なくなります。
[ポート転送を 使用した FTP コマンドのト ンネリング]	[ローカルポート] に指定したポートが SSH トンネルを介して保護されます。このように設定した場合、すべての FTP コマンドが使用できるようになります。すべての通信は SSH トンネルを介して送信されます。これには、ユーザ名やパスワードなどの FTP コマンド、およびディレクトリー覧や転送するファイルの内容などのすべての転送データが含まれます。

- 7. (オプションで) **[SSH 構成セクション]** を指定します(**[SSH 構成セクション]** を空白にすると、 行ったあらゆる変更は、現在のホストと同じ名前の SSH 構成セクションに保存されます)。
- 8. (オプション) [構成] をクリックして [Secure Shellの設定] ダイアログボックスを開きま す。このダイアログボックスを使用して、ユーザ認証とそのほかの Secure Shell の設定を構成 します。
- 9. 次のいずれかのタスクを実行します。

目的	操作
新しいサイト の作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボック スを閉じ、[次へ] をクリックします。
	[FTPユーザログイン]ダイアログボックスで、FTPサーバでのユーザ名 を入力して、[次へ]をクリックします。
	[完了] をクリックします。

目的 操作

既存サイトの [OK] をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。 変更

γ ×€

- ・ホスト認証により、Secure ShellクライアントはSecure Shellサーバを確実に識別することができます。この認証は、公開鍵認証を使用して行われます。ホストの公開鍵がクライアントに事前にインストールされていない場合は、初回の接続試行時に、不明なホストであることを示すメッセージが表示されます。このメッセージにはホストを識別する指紋が含まれています。ホストが実際に自分のホストであることを確認するには、正しい指紋であるかどうかを確認できるホストのシステム管理者に問い合わせる必要があります。ホストが実際に自分のホストであることを確認するまでは、別のサーバがユーザのホストを装う「中間者」攻撃を受ける危険性があります。
- ・ほとんどの場合、ホストに接続して既定のSecure Shell構成を使用し、パスワードでログ インできるようになります。別のユーザ認証方法を構成する必要がある場合、または Secure Shell構成にほかに変更を加える必要がある場合は、[Secure Shellの設定]ダイア ログボックスを使用します。
- ・FTPクライアントの[サーバの種類]の既定値は[自動検出]です。この設定は、Secure Shell が SFTP 用に構成されている場合は無効になります。SFTPを使用するようにSecure Shellを構成した場合、FTPクライアントはこの設定を自動的に[自動検出]から[UNIX]に変 更します。サーバの種類を変更するには、Secure Shellの設定を構成した後に、[サイト]
 [プロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブを使用します。

詳細

Secure Shell 接続 (FTP クライアント)

FTP 通信の転送

この手順を使用してSecure Shellポート転送を使用したFTPプロトコル通信(FTPコマンドチャネ ルおよびすべてのデータチャネルを含む)を暗号化します。ポート転送を使用することで、FTP サーバに安全に接続でき、SFTP 接続では使用できないオプションやコマンドも含め、すべての FTP オプションおよびコマンドにアクセスできます。

γ ×€

データチャネルの転送を有効にするためには、FTPクライアントは、パッシブ(PASV)モード(既 定値)で通信するように構成されている必要があります。

FTP通信を転送するには

- 1. FTPクライアントを起動します。 [FTPサイトに接続] ダイアログボックスが開きます。(クラ イアントがすでに実行中なのでダイアログボックスが開いていない場合は、[接続] - [接続] コ マンドをクリックします)。
- 2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しい サイト の作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加]ダイアログボックスで、FTPサーバホストの名前またはIPア ドレスを入力し、[次へ]をクリックします。[ログイン情報]ダイアログ ボックスで、[ユーザ]を選択します。
既存サ イトの 変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

- 3. [セキュリティ] をクリックします。
- 4. [Secure Shell] タブをクリックします。
- 5. [Reflection Secure Shellを使用] を選択します。
- 6. [ポート転送を使用した FTP コマンドのトンネリング] チェックボックスをオンにします。
- 7. この手順は、Secure Shell サーバが FTP サーバとは別のホスト上にある場合のみ、実行する 必要があります。

[FTP ホストが Secure Shell ホストと異なる] チェックボックスをオンにします。

- 「FTPホストがSecure Shellホストと異なる」をオンにした場合、FTPコマンドとデー タは、クライアントコンピュータからSecure Shellサーバに安全なトンネルを介して安 全に送信されます。コマンドとデータは、Secure ShellサーバとFTPサーバ間で暗号化 されずに送信されます。
- ・ [SSHサーバアドレス] で、Secure Shellサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。
- ・ [SSHユーザ名] で、Secure Shellサーバでのログイン名を入力します。

目的	操作
新しい サイト の作成	[OK]を選択して[セキュリティのプロパティ]ダイアログボックスを閉 じ、[次へ]を選択します。[FTPユーザログイン]ダイアログボックスで、 FTPサーバでのユーザ名を入力して、[次へ]を選択します。[完了]を選択 します。

目的	操作
既存サ イトの 変更	[OK] を選択して、開いているダイアログボックスを閉じます。

♀ ×€

Secure ShellサーバとFTPサーバの両方に認証を行う必要があります。

3.6.5 SSLとTLS接続 (FTPクライアント)

SSL/TLS 接続 (FTP クライアント)

Secure Socket Layer (SSL) プロトコルと、その後に開発された Transport Layer Security (TLS) プロ トコルにより、公衆通信回線を介して、クライアントとサーバ間で暗号化された安全な接続を確立 できます。SSL/TLS を使用した接続では、クライアント側でサーバを認証してから接続を確立 し、クライアントとサーバ間でやりとりされる全データが暗号化されます。サーバ構成によって は、サーバはクライアントの認証も行います。

説明

SSL/TLS の構成 (FTP クライアント)

SSL/TLS の構成 (FTP クライアント)

ନ ଜ ×∓

SSL/TLS接続では認証のためにデジタル証明書が使用されます。証明書がどのように発行され たかによって、およびホストがどのように構成されているかによって、SSL/TLSを使用して接 続するためにホストや個人の証明書をインストールしなければならないことがあります。

FTP クライアントで安全な SSL/TLS 接続を構成するには

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. **[FTP サイトに接続]** ダイアログボックスが開きます(クライアントがすでに実行中なのでダイ アログボックスが開いていない場合は、**[接続]** - **[接続]** コマンドをクリックします)。
- 2. 次のいずれかのタスクを実行します。

宛先	操作
新しい サイト の作成	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスで [新規] をクリックします。[FTP サイトの追加] ダイアログボックスで FTP サーバホストの名前または IP ア ドレスを入力し、[次へ] をクリックします。[ログイン情報] ダイアログボッ クスで、[ユーザ] を選択します。

宛先	操作
既存サ イトの 変更	[FTP サイトに接続] ダイアログボックスでサイトを選択します。

- 3. **[セキュリティ**]を選択します。
- 4. [セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスの [SSL/TLS] セクションで、 [SSL/TLS セキュリティを使用] を選択します。
- 5. (オプション) SSL/TLS 接続の暗号化の最小許容レベルを指定するには、**[暗号化レベル]**一覧 のレベルを選択します。指定したレベル以外が使用されていると接続に失敗します。

暗号強度 のオプ ション	説明
推奨され るサイ ファ	FTPクライアントはホストシステムと交渉して、ホストとクライアントの 両方でサポートされる最強の暗号化レベルを選択します。この新しい設定 には、Open Textで推奨されている暗号化レベルが含まれ、定期的に変更 されます。
	注 : FIPSモードで実行していて、[推奨されるサイファ]を選択した場 合、FTPクライアントはFIPS準拠の暗号化レベルのみを使用するように交 渉します。
暗号強度 のオプ ション	説明
--------------------	---
カスタム サイファ	[カスタムサイファ]を選択した場合は、 [カスタムサイファ] リスト ビュー内の使用可能なサイファー覧から選択するように求められます。 注: デフォルト、168、128、または256ビットの暗号化強度を使用してい る以前のバージョンのReflectionからのセッションファイルは、カスタム サイファとしてインポートされ、これらの設定オプションに対して旧バー
	ジョンで使用されていたリストが維持されます。

6. (オプション)左側のメニューで [PKI] セクションを選択します。

6. これにより、 [PKIの構成] 設定が開き、認証に使用するデジタル証明書を管理できます。

6. Reflection証明書マネージャを使用するには

- 1. [PKIの構成] 設定から [Reflection証明書マネージャ] を選択します。
- [Reflection証明書マネージャ]ダイアログボックスで、[信頼された認証局(Trusted Certificate Authorities)] タブを選択します。
- 3. [インポート]を選択し、サーバのCA証明書を参照して選択します。
- 4. 必要に応じて、既定の設定を変更します(例えば、Reflection 証明書マネージャの格納場 所だけを使用するには、「システムの格納場所にある証明書を使用して SSL/TLS に接続す る]をオフにする必要があります。このオプションをオンにすると、Reflection FTPクライ アントは、Reflection証明書マネージャの格納場所とWindows証明書ストアの両方で証明 書を検索します)。

∀ ×モ

デフォルトのPKI設定のいずれかをカスタマイズすると、 pki_config ファイルが作成されま す。

- 1. [証明書マネージャ] ダイアログボックスを閉じ、[OK] をクリックして、開いているほかの ダイアログボックスを閉じます。
- 1. インポートされた証明書は trust_store.p12 ファイルに保存されます。
- 1. 接続が確立されたら、ツールバーの[保存]ボタンをクリックしてセッションドキュメ ントを保存します。

目的	操作
新しい サイト の作成	[OK] をクリックして、[セキュリティのプロパティ] ダイアログボックスを閉 じ、[次へ] をクリックします。[FTP ユーザログイン] ダイアログボックス で、FTP サーバでのユーザ名を入力して、[次へ] をクリックします。[終 了]をクリックします。

目的	操作
既存サ イトの 変更	[OK]をクリックして開いているダイアログボックスを閉じます。

γ×€

- Reflectionでは、SSL/TLS接続を確立する前にホストシステムを認証します。認証のためにホストから提示される証明書は、信頼された認証局からのものである必要があります。コンピュータが認証局を認識できない場合は、SSL/TLS接続を確立することはできません。ホストの証明書が発行された方法によっては、コンピュータに証明書をインストールする必要があります。
- ・SSL/TLS接続を行うと、データストリームが暗号化されていることを示す南京錠のアイ コンが表示されます。キーアイコンはコマンドチャネル (入力されたパスワードを含む) が暗号化されていることを示します。

4. FTP クライアント設定ファイルの操作

4.1 FTP クライアント設定ファイルの操作

Reflection FTP クライアントは、設定ファイルを使って構成を保存します。設定ファイルの拡張子は、RFW です。

- ・FTP クライアント設定の保存
- ・保存されている FTP クライアント設定の読み込み
- ・FTP クライアント設定のインポート
- ・FTP クライアントへの WS_FTP 設定のインポート
- ・[終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス
- ・[FTP 設定のエクスポート] ダイアログボックス

詳細

FTP クライアント設定ファイル

4.2 FTP クライアント設定の保存

FTP クライアント を Windows の [スタート] メニューから起動すると、「 Settings.rfw 」という 名前の付いた設定ファイルが自動的に開き、構成に対して行ったすべての変更がこのファイルに保 存されます。必要に応じて、別の設定ファイルを作成することもできます。

[ファイル] - [<ファイル名>の上書き保存] コマンドをクリックします。

別の設定ファイルに設定を保存するには

- 1. [ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。
- 2. 保存するファイルの名前を入力します。
- (オプション) クライアント起動時にこの設定ファイルを開くショートカットをデスクトップ に保存する場合は、[ショートカットをデスクトップに保存する] チェックボックスをオンにし ます。
- 4. [保存] をクリックします。

- ・FTP クライアント設定ファイル
- ・保存されている FTP クライアント設定の読み込み
- ・FTP クライアント設定のインポート
- ・設定ファイルを読み込むショートカットの作成

4.3 保存されている FTP クライアント設定の読み込み

FTP クライアント を Windows の [スタート] メニューから起動すると、「 Settings.rfw 」という 名前の付いた設定ファイルが自動的に開き、構成に対して行ったすべての変更がこのファイルに保 存されます。その他の設定ファイルを作成している場合は、これらのファイルを開くのに次のいず れかの方法を使用できます。

[ファイル]-[開く] コマンドを選択し、保存されているファイルを検索して指定します。

Windows ショートカットを使用して設定ファイルを開くには

1. 設定ファイルを保存したら、ショートカットを作成します。

2. このショートカットを使って、クライアントを起動し設定ファイルを読み込みます。

- ・FTP クライアント設定の保存
- ・設定ファイルを読み込むショートカットの作成
- ・FTP クライアント設定のインポート
- ・FTP クライアント設定ファイル

4.4 FTP クライアント設定のインポート

[設定のエクスポート] コマンドを使って FTP クライアント設定を XML フォーマットにエクスポートできます。この手順では、設定を XML ファイルからインポートします。

設定を XML ファイルからインポートするには

- 1. [ファイル] [設定のインポート] コマンドを選択します。
- 2. サイト構成が保存されている XML ファイルを検索して見つけます。
- 3. [**開く**] をクリックします。
- 3. サイトが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
- 4. **[OK**] をクリックします。

۶ × ۶

インポートファイルに含まれている設定が現在の設定に追加されます。セッションタイトル は変更されません。これは、保存されている設定ファイル(*.rfw)を開く場合と異なりま す。設定ファイルを開いた場合は、そのファイルに含まれている設定によって現在のクライ アントの設定が上書きされ、開いた設定ファイルの名前がセッションタイトルになります。

- ・FTP クライアント設定の保存
- ・保存されている FTP クライアント設定の読み込み
- ・FTP クライアント設定ファイル
- ・[FTP 設定のエクスポート] ダイアログボックス

4.5 FTPクライアントへのWS_FTP設定のインポート

WS_FTPから移行している場合は、FTPクライアントに設定をインポートできます。

まず、wsftp_options.iniファイルを見つけます。通常は、以下の場所にあります。

C:\Users*\AppData\Roaming\IPSwitch\WS_FTP C:\Documents and Settings*\Application Data\Ipswitch\WS_FTP

WS_FTP設定をインポートするには

- 1. FTP クライアントの [ファイル] メニューから、[設定のインポート] を選択します。
- 2. **[ファイルの種類]** ドロップダウンリストから、[インポート WS_FTP (wsftp_options.ini)] を選 択します。
- 3. wsftp_options.ini ファイルを参照して指定し、[開く] をクリックして、[OK] をクリックします。
- 4. 設定が正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
- 5. [ファイル] > [保存] をクリックして、インポートした設定を保存します。

詳細

FTP クライアント設定の保存

4.6 [終了時に変更内容を保存] ダイアログボックス

現在のセッションで設定に変更を加えた場合は、Reflection FTP クライアントで [終了時に変更内 容を保存] ダイアログボックスが表示されます。オプションは次のとおりです。

[保存]	すべての設定ファイルに加えた変更を保存します。
[破棄]	現在のセッション中に行われた変更内容を保存せずに終了します。

[キャンセ	[終了] コマンドをキャンセルして、変更を保存しないで Reflection セッ
ル]	ションに戻ります。

4.7 [FTP設定のエクスポート] ダイアログボックス

表示方法

FTP クライアントで、**[ファイル]**-**[設定のエクスポート]** コマンドを選択します。

[サイト]	サイト固有の設定は、[サイト]>[プロパティ]ダイアログボックスまたは[ディ レクトリ定義ウィザード]を使用して構成されます。サイトごとに、ユーザ名 とパスワードを除くすべての設定がエクスポートされます。ユーザ名とパス ワードも一緒に保存するには、[ユーザ設定] チェックボックスをオンにしま す。 どのサイトの構成を設定ファイルにエクスポートするかを選択します。エク スポート対象から除外するサイトがある場合は、そのサイトを選択し、[削除] をクリックしてください。
[アプリ ケー ション 設定]	アプリケーション設定は、サイトやユーザとは独立した、FTP クライアント の動作に関連する設定です。次の情報が含まれています。 [オプション] ダイアログボックスの [全般] タブの [既定のローカルホーム フォルダ] [オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブの全設定項目 [オプション] ダイアログボックスの [ユーザ設定] タブの全設定項目
ユーザ 設定	次の情報が含まれています。 [サイトプロパティ] ダイアログボックスの [ユーザ名] と [パスワード] [オプション]ダイアログボックスの[全般]タブの[anonymousパスワード] ディレクトリ定義ウィザードで作成した独自の設定

ファイ エクスポートされた設定ファイルのパスおよびファイル名を入力します。既
 ル名 定のファイル名を変更する場合は、拡張子付きでファイル名を指定してください。

- ・FTP クライアントの全体設定の変更
- ・FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更
- ・ディレクトリ定義ウィザードの実行

5. サイトおよびグローバルプロパティの構 成

5.1 サイトおよびグローバルプロパティの構成

- ・FTP クライアントの全体設定の変更
- ・FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更

5.2 FTP クライアントの全体設定の変更

5.2.1 FTP クライアントの全体設定の変更

グローバル設定では、すべてのサーバへの接続に使用する既定値を設定できます。

グローバル設定を構成するには

[ツール]-[オプション] コマンドを選択します。

詳細

- ・[全般] タブ ([オプション] ダイアログボックス)
- ・[ファイルの種類] タブ ([オプション] ダイアログボックス)
- ・[ユーザ設定] タブ ([オプション] ダイアログボックス)
- ・ [ファイル属性] タブ([オプション] ダイアログボックス)
- ・ [ディレクトリ属性] タブ([オプション] ダイアログボックス)
- ・FTPサイトまたはSFTPサイトの設定の変更

5.2.2 [全般]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

i 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

[anonymous パ	FTP サイトへの anonymous 接続で使用する、既定のパスワードを入
スワード]	カします。
	SFTP 接続では、この機能は使用できません。

[既定のローカクライアントの起動時に自動的に表示され、サーバから転送されたルホームフォファイルを受信するフォルダを指定します。Windows ユーザフォルダルダ]が既定のフォルダです。

[既定のローカルホームフォルダ] はグローバルな既定設定です。[サイ ト]>[プロパティ]ダイアログボックスの[ディレクトリ]タブにある[ホー ムフォルダ]にサイト固有の値を指定した場合、この既定設定は無視さ れます。

ローカルのホームフォルダを指定するには、次のようなUNCパスを使 用できます。

\\<computername>\<sharename>\<pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname></pathname>

詳細

[ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

5.2.3 [ファイルの種類]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

i 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

このタブを使用し、スマートファイル転送を構成します。スマートファイル転送を使用可能にする と、定義された拡張子を持つファイルはすべてその拡張子に割り当てられている転送方式で転送さ れます。スマートファイル転送を有効にするには、[ツール] - [転送方式] - [スマート] コマンドを選 択します。

[スマート ファイル 転送方式]	転送方式に割り当てられているすべてのファイルの種類を一覧表示しま す。
[新規]	[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックスを開きます。
[削除]	現在選択されているファイルの種類 (拡張子) を一覧から削除します。
[変更]	現在選択されているファイルの種類 (拡張子) を編集します。

[未定義拡 転送方式に関連付けられていない拡張子の既定の転送方式を指定します。
 張子の転
 送方式] [ユーザに尋ねる]を指定した場合は、その拡張子を持つファイルの転送時に、転送方式を指定するよう求めるメッセージが表示されます。その時点で、特定の転送方式を選択するか、または [必ずユーザに尋ねる]を選択できます。

詳細

・ファイル転送方式の設定(転送方式)

・[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

5.2.4 [ユーザ設定]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

1 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

[FTP クライアン トの終了時に]	クライアントが設定の変更を処理する方法を選択します。[構成を自 動的に保存する] を選択すると、変更は現在の設定ファイルに保存さ れます。
[ファイル削除の 確認ダイアログ ボックスを表示 する]	ファイルまたはフォルダを削除する前に、削除してよいかを確認す るかどうかを選択します。
[進行状況ウィン ドウを表示しな い]	接続進行状況、転送進行状況、エラー通知の各ダイアログボックス を表示しないように設定します。
[アニメーション を使用しない]	既定では、一部の操作の実行中にアニメーションが表示されます。 例えば、ディレクトリ一覧の取得中には、懐中電灯が振られている アニメーションが表示されます。アニメーションの表示をオフにす ると、Reflection が応答しなくなるなどの問題を解決できる場合が あります。

[サイト間の転送	すべてのサイト間転送を、強制的に、ファイルを最初にローカルコ
を、強制的に	ンピュータヘコピーしてから次に転送先サーバにコピーして行いま
ローカルマシン	す。サイト間での直接転送に対応していない FTP サーバの場合に使
を経由して行う]	用します。
	注意: いずれかのサーバへの接続でセキュリティ機能を使用している
	か、転送方式が[バイナリ]でない場合、クライアントは、この設定の
	値に関係なくファイルを常にこの方法で転送します。

- ・FTP クライアント設定ファイル
- ・FTP クライアント設定ファイルの操作
- ・2つのリモートサイト間でのファイルの転送

5.2.5 [ファイル属性]タブ ([オプション]ダイアログボックス)

〕 表示方法

FTPクライアントの[**ツール**]メニューから[オプション]を選択します。

このタブを使用して、ファイル転送のための既定の属性を構成します。

[アップロー	サーバにコピーされたファイルの既定のアクセス権を設定します。[アッ
ド時に既定の	プロード時に既定のファイル属性を設定] をオンにすると、[許可モード]
ファイル属性	ボックスを使用するか、 [所有者]、[グループ]、 および [公開] を使用し
を設定]	て、アクセス権を指定できます。

注意:

ファイル転送中に既定以外のアクセス許可を指定するには、[サイト のプロパティ] - [転送] - [転送前にアップロードオプションを表示す る] を構成します。

この設定を有効にすると、ファイルをサーバに転送する前に、[ファ イルアップロードオプション]ダイアログボックスが表示されます。

[**アップロード時に既定のファイル属性を設定**] を選択すると、クラ イアントは chmod コマンドをサーバに送信して、ユーザが指定し たアクセス許可を設定します。サーバがこのコマンドに対応してい ない場合は、chmod コマンドが認識されないことを示すサーバエ ラーメッセージが送信されます。 [ダウンロー クライアントにコピーされたファイルの既定の属性を設定します。[ダウンロード時に既定のファイル属性を設定] を選択すると、[読み取り専用] ファイル属性 チェックボックスまたは [隠しファイル] チェックボックスを使用して属 性を指定できます。
 注:ファイル転送時に既定以外のアクセス許可を指定するために、[サイトのプロパティ]>[転送]>[転送前にダウンロードオプションを表示する] を構成できます。この設定を有効にすると、ファイルをクライアントに 転送する前に、[ファイルダウンロードオプション] ダイアログボックス が表示されます。

詳細

- ・ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定
- ・ダウンロード時のファイル名の変更
- ・アップロード時のファイル名の変更
- ・ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定

5.2.6 [ディレクトリ属性] タブ([オプション] ダイアログボッ クス)

• 表示方法

FTPクライアントの [ツール] メニューから [オプション] を選択します。

このタブでは、新しく作成したディレクトリに対するデフォルトの許可を設定します。

オプション	説明
[作成時にデフォルトの ディレクトリ属性を設定]	このオプションを有効にすると、サーバ上に新しいディレ クトリが作成された時にディレクトリの許可を設定できま す。
[許可モード]	ホストに対して有効な値である3桁の数値を入力します。 注: 有効な数字の値は0から7です。

オプション

説明

ク]

[**所有者**] 、[**グルー** ユーザの各種類について付与する、読み取り、書き込み、 プ]、および[パブリッ または実行の許可を選択します。

詳細

ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定

5.3 FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更

5.3.1 FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更

[サイト プロパティ] ダイアログボックスを使って、特定のリモートサイトに接続する時にクライア ントが行う処理を設定します。

特定のサイトの設定を変更するには

我示方法

- 1. FTP クライアントを起動します。
- 1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)
- 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
- 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

γ×ε

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[**サイトプロパティ**]を選択しま す。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

- ・[全般] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・[接続] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- •[ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・[変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・[変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・[情報] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・FTP クライアントの全体設定の変更

5.3.2 [全般]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

〕 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)
- 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
- 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

S XE

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[**サイトプロパティ**]を選択しま す。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

指定されたサイトへの接続情報を提供するには、このタブを使用します。

オプションは次のとおりです。

 [FTP ア
 ログオンする FTP または SFTP サーバを入力します。ドメイン名、URL、ま

 ドレス
 たは IP アドレスを入力できます。

 [サーバ
 この値が [自動検出] に設定されていると、ほとんどの場合、サーバが FTP

 の種類]
 クライアントによって正しく識別されます。FTP クライアントが、接続先の

 サーバの種類を正常に識別していない場合は、この一覧から選択します。

 SFTP セッションでは、[自動検出] は使用できません。SFTP セッションでの

[ログオンの種類]

既定値は [UNIX] です。

[匿名]	FTP サーバにゲストとしてログオンする場合は、ユーザ名に[匿名] を使用します。(SFTP 接続では、anonymous ログオンは使用できませ ん)。
	このサーバに anonymous としてログオンする場合は、[パスワード] ボックスには、[オプション] ダイアログボックスの [全般] タブで指定 された anonymous パスワードが自動的に入力されます。既定以外の パスワードを使用するには、そのサイト固有のパスワードをここに入 力してください。
[ユーザ]	登録されたユーザ名を使用し、指定されたサーバにログオンします。
[ユーザ名]	FTP サーバの登録ユーザ名を入力します。
難読化テスト としてパスワー ドを保存	難読化されたテキストとしてパスワードを設定ファイルに保存し、こ のサーバにログオンする際に使用します。
[パスワード]	FTP サーバで登録されているユーザ名に FTP サーバで関連付けられて いるパスワードを、入力します。
[Windows の資 格情報を使用 する]	データ転送を実行するとき、FTP サーバのユーザ名およびパスワード ではなく、Windows の資格情報を使用します。このオプションを使用 できるのは、IBM System i (AS/400)およびIBM AS/400 (フォーマット 0)サーバ種類の場合のみです。

[セキュリティ] 指定されたサーバへの、セキュアな接続を構成します。

5.3.3 [接続]タブ ([サイトのプロパティ]ダイアログボックス)

1 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)
- 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
- 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

S XE

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューから[**サイトプロパティ**]を選択します。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブを使用すると、接続を維持するための設定や、待ち時間の間隔を指定するための設定を 構成できます。

<u>ج</u> ک

SFTP接続の場合、このタブで使用できる設定は[IPv6を使用する]のみです。

接続オプション

[パッシ ブモー ドを使 用する]	オンにすると、サーバとパッシブ (PASV) モードで通信するためにクライアン トから PASV コマンドを送信します。パッシブモードで通信すると、ディレ クトリー覧とファイル転送用に別々のデータ接続が確立されます。 ファイアウォールとの接続の問題を最小限にするために、パッシブモードを 使用します。
	passive モードをオフにしていて、ディレクトリ一覧が表示されなかったり、 「425 Can't open data connection」(データ接続を開くことができません) と いうエラーが返される場合は、このチェックボックスをオンにしてくださ い。
	IPV6 接続では EPSV が使用されます。
[キープア ライブの 送信間 隔]	ほとんどのサーバでは、「idle time」に、活動が検出されない場合にユーザ の FTP セッションを継続する時間を指定することができます。この時間を超 過すると、サーバとの接続が切断されます。この設定を使うと、指定された 間隔で NOOP コマンドをサーバに送信するようにクライアントに指示し、 サーバが不活動状態を理由に接続を切断してしまうのを防ぐことができま す。このチェックボックスを選択した場合は、NOOP コマンドの送信間隔を 秒数で指定してください。
[TCP ポート]	[TCP ポート] ボックスを使用して、FTP の標準以外の TCP サービスポート番 号 (ソケット) を指定します。既定値 (21) は、FTP の標準サービスポートで す。
[アカウ ント]	サーバに、ファイルアクセス用のアカウント名が必要であれば、ここに入力 します。大文字と小文字を区別するサーバの場合は、大文字と小文字を正し く入力してください。
	接続した時に[アカウント]ボックスがすでに記入されている場合は、ログオンの最後のlistitemとして自動的にアカウントタがサーバに送信されます

待ち時間 (秒数)

[接続] FTP サーバへの接続が確立されるまでの最大待ち時間を秒数で選択します。このボックスに0を入力すると、FTP クライアントが接続を試みる際の待ち時間の制限がなくなります。

 データパケットをホストとの間で転送する時の最大待ち時間を秒数で選択しま
 す。ここで指定された時間内に何も受信しない場合は、時間経過エラーが表示
 され、転送は中止されます。この場合は、転送を再試行してください。時間経 過エラーが繰り返される場合は、接続待ち時間の値を増やしてください。この ボックスに0を入力すると、FTP クライアントが応答を待機する際の待ち時間 の制限がなくなります。

その他の設定

[IPv6 を	ホストへの接続で IPv6 (Internet Protocol バージョン 6) と古い IPv4 プロトコ
使用す	ルのどちらを使用するかを指定します。既定では、クライアントは IPv6 を使
る]	用して接続を試み、IPv6 を使用できない場合は IPv4 を使用します。IPv6 が
	有効なクライアントコンピュータから IPv4 ネットワーク上のホストへの接続
	で問題が発生している場合は、この値を「無効」に変更する必要がありま
	す。

Initial この設定を使用すると、接続時にサーバに送信する umask の初期値を指定で
 umask きます。umask を使用すると、新たに作成されたファイルに設定された、既定の許可属性を変更できます。umask を指定すると、ログイン時に、クライアントから FTP サーバに次のものが送信されます。ここで、nnnn は、指定された unmask 値です。

SITE umask nnnn

umaskがFTPサーバでサポートされているSITEコマンドであるか調べるに は、FTPコマンドラインに次のコマンドを入力します:

QUOTE help site

注意:

FTP クライアントによって設定される umask は、サーバで設定される ユーザ許可より制限の少ないものにすることはできません。

[ツール] - [オプション] - [属性] - [アップロード時に既定属性を設定] を使 用してグローバルアップロード属性を構成した場合、このオプションは 使用できません。

SFTP 接続では、このオプションは使用できません。

5.3.4 [ディレクトリ]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

i 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

γ ×=

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューから[サイトプロパティ]を選択します。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブを使用すると、ディレクトリ一覧の表示方法を指定できます。オプションは次のとおりで す。

サーバ

[ホームディ レクトリ]	接続時に FTP クライアントが表示するサーバディレクトリを選択します。
[接続時に ディレクト リを表示す る]	このサイトに接続するたびに、サーバの作業ディレクトリに含まれるファ イルとフォルダを右画面に一覧表示するかどうかを指定します。サーバの ディレクトリを表示せずに別のサーバディレクトリに移動するには、[ツー ル] - [] - [移動]] コマンドを使うか、FTP コマンドラインで CD コマンドを 使う必要があります。
[ディレクト リを自動的 に更新す る]	CD コマンドの実行時またはサーバ上のファイルやディレクトリを追加ま たは削除する操作の実行時に、右画面に表示されるサーバのディレクトリ 一覧を更新するかどうかを指定します。

日付をロー カルシステ ムの形式に 変換	Windows のコントロールパネルの地域の設定で指定された形式で日付を 表示するかどうかを指定します。サーバ上で使用される形式で日付を表示 するには、このチェックボックスをオフにします。
[リンクを 処理する]	シンボリックリンクに対応したサーバに接続する場合のディレクトリー覧 の作成方法を指定します。このチェックボックスが選択されている場合、 サーバ画面はフォルダを正しく使って、ディレクトリを識別するシンボ リックリンクを表示します。この機能を必要とせず、ファイル一覧の新規 作成や更新の際の応答時間を短縮したい場合は、このチェックボックスを オフにしてください。
[ディレクト リ一覧に キャッシュ メモリを使 用する]	ローカル PC 上でディレクトリー覧にキャッシュメモリを使用するかどう かを指定します。ディレクトリー覧にキャッシュメモリを使うと、サーバ のディレクトリ間を移動する際のサーバ画面の表示が速くなりますが、 サーバファイルに加えた変更は反映されません。このチェックボックスが オフになっていると、表示を変更するたびにファイル一覧がサーバから更 新されます。 注意: [更新]コマンド ([F5]キー) を使うと、ファイル一覧にキャッシュメモ
	リを使用している場合でも、サーバに加えたすべての変更が常に表示され ます。
[ファイル 名だけを表 示する]	ディレクトリー覧に、ファイル名だけが含まれるかどうかを指定します。 クライアントがホストのディレクトリー覧を表示できない場合、この設定 を使って問題を解決できます。ファイル一覧の作成には、このチェック ボックスがオフになっている場合は FTP の LIST コマンドが使われ、 チェックボックスがオンになっている場合は NLST が使われます。
	この設定は SFTP 接続には適用されません。

[PWD コマ このオプションがオンになっていると、FTP クライアントは、サーバに
 ンドを送信 接続しても PWD コマンドを送信しません。この設定をオンにすると、ー
 しない] 部のホストで発生する接続上の問題を回避できることがあります。この設定がオンの場合は、接続中のサーバのディレクトリパスが、サーバ画面の
 タイトルバーに表示されなくなり、ツールバー左側の [別のフォルダへ移動] リストボックスに、ホストのディレクトリ情報が表示されなくなります。この場合、このリストボックスには、サーバ画面を選択している時も
 ローカル PC ワークステーションのディレクトリが表示されます。

注意: サーバに接続する前に、[F7]キーを押してコマンドウィンドウを表示 してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返さ れる場合は、この設定をオンにしてみてください。

この設定は SFTP 接続には適用されません。

[ファイルサーバによって認識されるワイルドカード文字を使用し、サーバの既定のの表示フィ表示フィルタを入力します。詳細については、「サーバファイルの一覧のルタ]フィルタリング」の項目を参照してください。SFTP 接続では、この機能は使用できません。

[LIST コマ FTP クライアント が FTP の LIST コマンドをサーバに送信する際に使うコ

ンドのパラ マンドパラメータを指定します。どのパラメータを指定すべきかは、接続

メータ] 先のサーバの種類によって異なります。この値を変更することによって解 決できる問題もあります。MDEL コマンドを使用する場合、LIST コマンド パラメータの変更は慎重に行ってください。

> ー部のシステムでは、サブフォルダのファイルが再帰的に一覧表示される 場合があります。

SFTP 接続では、この機能は使用できません。

[ディレクト	サーバに新しいディレクトリを作成する際に、ディレクトリのアクセス許
リの作成前	可を設定するダイアログボックスが必ず表示されるようにするには、この
に属性を表	オプションをオンにします。
示する]	

ローカル

[ホーム	FTP クライアントのホーム (既定の) フォルダへのパスを入力します。サイト
フォル	への接続が確立すると、ローカル作業フォルダは指定されたホームパスに自
ダ]	動的に設定され、[ダウンロード] コマンドを使って転送されるすべてのサーバ
	ファイルはこの場所に受信されます。
	このサイトについては、グローバルの[既定のローカルホーム] フォルダ設定
	は無視されます。

詳細

サーバファイルの一覧のフィルタリング

5.3.5 [変換]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

〕 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)
- 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
- 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

γ ×=

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[**サイトプロパティ**]を選択しま す。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

サーバから、またはサーバに送信されるテキストデータの文字フォーマットを制御するには、このタブを使用します。

🜢 重要

SFTP接続では、[変換]タブの設定は使用できません。

サーバに

[タブを空 白に置換 する]	空白は、アップロードされたファイルのタブ文字を置換します。
[タブの幅]	空白をタブにまたはタブを空白に置き換えた時に使用するタブストップの サイズを指定します。

[CTRL-Z	オンにすると、ファイル転送では Ctrl-Z (^z) がファイルの終止符とみなさ
を文末と	れ、送信時のファイルから削除されます。オフにすると、ファイルのディ
みなす]	レクトリ内の文字カウントが、ファイルの長さとして使用されます。
	(「Ctrl-Z」がテキストファイルの最後の文字である場合、FTP クライアン
	トは「Ctrl-Z」を送信しません)。

サーバから

[空白をタ ブに置換 する]	ダウンロードされたファイル内の、連続した空白をタブ文字に置換するに は、これを選択します。[タブの幅] ([サーバに] の下) に、1 つのタブに相当 する空白数を指定します。
[文末に CTRL-Z を 付加する]	ローカルコンピュータ上では、通常、テキストファイルは Ctrl-Z (^z) 文字 で終ります。サーバから受信したファイルに ^z 文字を加えたい場合は、 このオプションを選択します。Windows アプリケーションによっては、こ のマークを必要とするものがあります。
[行末の空 白を削除 する]	オンにすると、ローカルディスクの容量を節約できます。ホストテキスト ファイルの一部では、固定長レコードを使用して行を区切ります。その場 合、各行の末尾には空白が埋め込まれます。しかし、PC 用のほとんどの ワープロソフトは復帰/改行 (CR/LF) シーケンスを使って行および段落を区 切るため、区切り文字の前に空白を入れる必要がありません。

[サーバ上	6 桁の日付をサーバ上でどのように表示するかを指定します。ここで、MM
の日付表	は月、DD は日、YY は年を表しています。
示形式]	

追加のオプション

[文字セッ	[文字セット] ダイアログボックスを開き、サーバの文字セットと、
ト] ボタン	Windows または DOS のいずれかの文字セットの変換を構成します。

詳細

[文字セット] ダイアログボックス

5.3.6 [変換]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

i 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)

2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。

3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

γ ×=

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[**サイトプロパティ**]を選択しま す。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

サーバと PC 間のファイル転送中の、ファイル名と日付の処理方法を指定するには、このタブを使 用します。オプションは次のとおりです。

サーバからのダウンロードオプション

[サーバファイ ルの日付を保 持する]	ダウンロードされたファイルに関連付けられた、元の日付スタンプを 保持します。サーバから転送したファイルに転送日時を示す日付スタ ンプを関連付けたい場合は、このチェックボックスをオフにします。
	注意: [ディレクトリ]タブの[ファイル名だけを表示する]チェックボック スがオンになっている場合は、サーバファイルの日付は保持されませ ん。
	ファイルを Windows デスクトップまたは Windows エクスプローラ フォルダにドラッグする時、サーバファイルの日付は保持されませ ん。ファイルの日付を保持するには、FTP クライアントのローカル画 面にファイルをドラッグします。
	スクリプトで実行される転送の間に元のサーバの日付を保持するに は、スクリプトの起動時にサイト設定を読み込むか、スクリプトの先 頭に以下の行を追加します。 PRESERVE-FILE-DATE yes
[Windows ファ イル名を 8.3 形式で作成す る]	オンにすると、ホストファイルがDOS 8.3ファイル名形式で受信されま す。
	たとえば、 Longfilename .Document という名前のファイルは、PCに転 送された時に Longfile .doc に自動的に変換されます。
	注意: このチェックボックスを選択してワイルドカードによる転送を行 う際、2つの長いファイル名が同一のDOS 8.3形式名に変換される場合 に[既存のファイルがある場合]コマンドを[上書き]に設定すると、2番目 に転送されるファイルが最初のファイルを上書きしてしまいます。こ うした事態が起こらないようにするには、[既存のファイルがある場合] の設定を[別名を付ける]に変更します。
[途中終了した バイナリファ イルのダウン ロードを再開 する]	これを選択すると、FTP クライアントは、ファイルの転送が中断され てから、未転送となっている部分のダウンロードを再開します。
	詳細については、「未完了のサーバファイル転送の再開」の項目を参 照してください。
	SFTP 接続では、この機能は使用できません。

転送前にダウ ンロードオプ ションを表示 する	サーバから新規ファイルをダウンロードする前に、転送方式 (テキス ト、バイナリなど) およびファイルのプロパティ (読み取り専用、また は非表示) を問い合わせるには、このオプションを選択します。
[転送前に SITE コマンドを送 信する]	ファイルがダウンロードされる前に実行される SITE コマンドを入力し ます。FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの SITE コマ ンドが現在の FTP サーバでサポートされるかを調べます。 QUOTE help site この機能はSFTP接続では使用できません。

サーバへのアップロードオプション

[ファイル名の 拡張子を削除]	ホストに転送されるファイルの名前から拡張子を削除します。アップ ロードされたファイルの名前に 1 つ以上のドットが含まれる場合は、 最後のドットと、それ以降の文字はファイル名から削除されます。
[ファイル名の 前に文字を追 加する]	ホストヘコピーされるファイルの名前の前に指定した文字を追加しま す。例えば、この機能を使って、IBM ホストに転送する際のメンバ名 を指定できます。HP POSIX ホストに接続している場合、この値はピリ オドの後にスラッシュが付いたもの (./) に自動的に設定されます。
[サーバファイ ル名の文字数 を制限]	ホストに転送されるファイルの名前の文字数を制限します。この文字 数よりも長いファイル名は短縮されます。
長いファイル 名の大文字/小 文字の区別設 定	転送されたファイル名がDOS 8.3形式のファイル命名規則に適合してい ない場合にファイル名の大文字と小文字がどのように扱われるかを選 択します。
8.3形式ファイ ル名の大文字/ 小文字の設定	転送されたファイル名が DOS 8.3 形式のファイル命名規則に適合して いる場合にファイル名の大文字と小文字がどのように扱われるかを選 択します。
[MVS 上の領域 を計算する]	既定で、FTP クライアントは、ローカルのファイルサイズに基づき、 MVS システム上のトラックの数を計算して事前に割り当てます。この 機能を無効にする場合は、このオプションをオフにします。この設定 は、MVS ホストのみに適用されます。
[転送前に SITE ファイルがアップロードされる前に実行される SITE コマンドを入力します。FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの SITE コマンドが現在の FTP サーバでサポートされるかを調べます。
 QUOTE help site
 この機能はSFTP接続では使用できません。

[転送前にアッ サーバに新規ファイルをアップロードする前に、転送方式 (テキスト、
 プロードオプ バイナリなど) およびファイル権限の属性を問い合わせるには、このオションを表示 プションを選択します。
 する]

詳細

- ・既存のファイルの処理方法(転送モード)
- ・未完了のサーバファイル転送の再開
- ・[ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定

5.3.7 [情報]タブ ([サイト プロパティ]ダイアログボックス)

• 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

- 1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)
- 2. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスでサイトを選択します。
- 3. [プロパティ] ボタンをクリックします。

γ ×€

- ・サイトにすでに接続されている場合は、[接続]メニューの[**サイトプロパティ**]を選択しま す。
- ・接続時に、[**サイト**][プロパティ]ダイアログボックスを使って加えた変更の中には、次回 サイトに接続するまで有効にならないものがあります。

このタブには、現在のFTP クライアントの接続に関する情報が表示されます。このタブは、サイト に接続している場合のみ使用できます。

[リセット]をクリックすると、転送時間と転送効率に関するデータがゼロにリセットされます。

6. ファイルの転送

6.1 ファイルの転送

- ・FTP クライアントでのファイルの転送
- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・スマートファイル転送するファイルの種類の追加
- ・スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加
- ・既存のファイルの処理方法(転送モード)
- ・ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定
- ・2つのリモートサイト間でのファイルの転送
- ・ダウンロード時のファイル名の変更
- ・アップロード時のファイル名の変更
- ・未完了のサーバファイル転送の再開
- ・[文字セット] ダイアログボックス
- ・[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス
- ・[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス
- ・[ファイル置換の確認]ダイアログボックス

6.2 FTP クライアントでのファイルの転送

ドラッグしてドロップするだけで、ファイルをFTP クライアントに転送できます。個々のファイル、複数のファイル、およびフォルダ全体をドラッグできます。

FTP クライアントでファイルを転送するには

- 1. FTP サイトに接続します。
- 2. 転送方式を指定します ([ツール] -> [転送方式] コマンド)。
- 3. 既存のファイルの処理方法についてユーザ設定を行います。[**ツール**] [既存のファイルがある 場合] コマンド)。

∂ ×€

[**サイトプロパティ**]ダイアログボックスを使うと、ファイル転送をさらに詳細に設定する ことができます。ファイル転送の設定には、以下のサイト特有のプロパティを使用できま す。

- 4. 転送するファイルまたはフォルダおよび転送先を検索して見つけます。
- 5. 転送するファイルまたはフォルダを選択して、転送元の場所から目的の転送先へドラッグします。

γ ×€

FTP (またはSFTP) ファイル転送コマンドを使ってファイルを転送したい場合は、FTPコマン ドラインから直接、転送を開始することができます。

- ・サイトへの接続
- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・既存のファイルの処理方法(転送モード)
- ・ローカルPCファイルの表示
- ・サーバファイルの表示
- ・FTPコマンドラインの使用

6.3 ファイル転送方式の設定(転送方式)

[転送方式] には、転送に使用するファイルの種類を指定します。選択されている転送方式は、ス テータスバー、ツールバー、[転送方式] メニューに示されます。

[ツール] - [転送方式] をポイントし、使用したい転送方式をクリックします。

オプションは次のとおりです。

- ・[ASCII] テキストファイルには、[**テキストファイル**] を選択します。テキストデータは、[**文 字セット**] ダイアログボックスの設定に基づいて転送されます。
- •[バイナリ].exe ファイルや .doc ファイルなどのバイナリファイルを転送するには、 バイナリファイル 転送方式を使用します。バイナリファイルは、転送時に変換が行われません。
- ・Tenex (ローカル8) DECsystem-20など、1バイトが8ビットでないバイトを使用している サーバとの間でファイルを移動する場合は、Tenexを使用します (この転送方式は「ローカル8」としても知られています)。
- ・スマート FTPクライアントで、ソースファイルの拡張子に応じて使用する転送方式 ([ASCII]、[バイナリ]、[Tenex]、または[ユーザに尋ねる])を決定する場合は、[スマート]を 選択します。これを設定するには、[ツール]>[オプション]>[ファイルの種類]を選択します。

- ・[文字セット] ダイアログボックス
- ・スマートファイル転送するファイルの種類の追加
- ・スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加
- ・[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

6.4 スマートファイル転送するファイルの種類の追加

FTP クライアントで、ソースファイルの拡張子によって、使用する転送方式 ([テキストファイ ル]、[バイナリファイル]、[Tenex]、または [ユーザに尋ねる]) を決定する場合は、スマート転送方 式を使用します。スマートファイル転送方式を使用する時には、クライアントはスマートファイル 拡張子の一覧を参照してそのファイルに使用する転送方式を調べます。既定のスマートファイル拡 張子の一覧に拡張子を追加したり、既存の拡張子に関連付けられている転送方式を変更すること ができます。例えば、拡張子 ..docl を持つファイルにバイナリ転送方式を使用するように指定す ることなどができます。

スマートファイル転送するファイルの種類を新規に追加するには

- 1. [ツール] [オプション] コマンドを選択します。
- 2. [ファイルの種類] タブをクリックします。
- 3. [新規] をクリックします。
- 4. **[スマートファイル拡張子の追加]** ダイアログボックスの設定を使って、次のように新しい拡張 子とその拡張子を持つファイルの転送方法を定義します。

設定項目	操作
[ファイル の種類]	このファイルの種類を識別するファイル名の拡張子を入力するか、一 覧からファイルの種類を選択します。

[転送方式] この拡張子を持つファイルの転送方式を選択します。この設定により、この拡張子を持つファイルの保存方法と転送時のデータの取り扱い方法が決定されます。	設定項目	操作
	[転送方式]	この拡張子を持つファイルの転送方式を選択します。この設定によ り、この拡張子を持つファイルの保存方法と転送時のデータの取り扱 い方法が決定されます。

♀ ×€

- ・拡張子を持たないファイルの転送方法を定義するには、を [ファイルの種類] ボック スで選択してから、転送方法を選択します。
- ・拡張子が複数の種類のファイルを表している場合は、その拡張子の転送方法として [**ユーザに尋ねる**]を指定できます。

- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加
- ・[スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

6.5 スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追 加

スマートファイル転送する既定のファイルの種類は、未定義の拡張子を持つファイルに適用され ます。

スマートファイル転送する既定のファイルの種類を指定するには

- 1. [ツール] [オプション] コマンドを選択します。
- 2. [ファイルの種類] タブをクリックします。
- 3. [未定義拡張子の転送方式] で転送方式を選択します。

ି ×∓

ファイルの拡張子が同じでも、転送方法が異なる場合は、既定の種類を設定しないでください。**[未定義拡張子の転送方式]**を**[ユーザに尋ねる]**に設定してください。または、ファイルを転送する前に、使用したいファイルの転送方式を設定します。

詳細

- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・スマートファイル転送するファイルの種類の追加

6.6 既存のファイルの処理方法(転送モード)

転送モードを設定して、同じ名前を持つファイルが転送先に既に存在する場合に FTP クライアン トがどのように転送を処理するかを指定できます。現在の転送モードは、ステータスバーの転送方 式の隣に示されます。

[ツール] - [既存ファイルの処理] をポイントし、使用したい転送方式をクリックします。

[追加]	ダウンロードされたファイルを宛先ファイルに追加します。このオプショ ンはホストからの転送にのみ使用できます。
[ユーザ に尋ね る]	[ファイル置換の確認] ダイアログボックスを開き、ユーザが処理方法を決定 できます。

[キャン セル]	指定された名前のファイルが既に存在する場合に、ファイル転送をキャン セルします。そのファイルがワイルドカードセット (ワイルドカードまたは 複数のファイル名を指定して転送するファイル群) の1つである場合、重複 したファイルが見つかると残りのファイルは転送しません。
[上書 き]	転送先のファイルが上書きされます。
[省略]	このファイルは転送されません。この転送操作の対象として複数のファイ ルが指定されている場合は、それ以外のファイルに対して処理が続行され ます。
[更新]	転送するファイルが転送先のファイルより新しい場合にのみ、転送先の ファイルが上書きされます。

[別名を付 宛先ファイルに対し、一意の名前を自動的に作成します。転送中に変更さ ける] れたファイル名は、FTP コマンドウィンドウに表示されます。

ک ک

この設定は、無視される場合があります。[ファイル既存の場合に] コマンドを使用して指定し た値は、FTP クライアント内での転送にのみ適用されます。クライアントの表示ウィンドウか らデスクトップまたは開いている Windows エクスプローラウィンドウにドラッグ&ドロップ でファイルを転送する場合、ファイルがすでに存在する時は、FTP クライアントの構成に関係 なく、[ファイル置換の確認] ダイアログボックスが表示されます。オプションの現在の設定を 利用するには、ドラッグ ドロップによる転送を行う際は必ず Reflection ウィンドウを使用する ようにします。

詳細

- ・[ファイル置換の確認] ダイアログボックス
- ・FTP クライアントでのファイルの転送
- ・エラー処理に使用するコマンド

6.7 ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定

- 1. [サイトプロパティ] ダイアログボックスを開いて、[転送] タブをクリックします。
- 2. サーバから転送したすべてのファイルの元の時刻と日付を保持したい場合は、**[サーバファイ ルの日付を保持する]**を選択します。サーバから転送したファイルに転送日時を示すスタンプ を関連付けたい場合は、このチェックボックスをオフにします。

- ・FTP サイトまたは SFTP サイトの設定の変更
- ・[変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

6.82つのリモートサイト間でのファイルの転送

FTP クライアントを使うと、2 つのリモートサイト間でファイルをドラッグできます。

2つのリモートサイト間でファイルを転送するには

- 1.1 つ目のサーバに接続します。
- 2. [接続] [サイト2に接続] コマンドをクリックします。
- 2. サーバウィンドウに、両方のサイトのファイルとフォルダが表示されます。
- 3. ドラッグドロップを使用して、一方のサーバから他方のサーバへ直接ファイルを転送できま す。

∂ × €

- ・転送方式が[バイナリ]になっており、どちらの接続でもセキュリティ機能 (プロキシ サーバ、Secure Shell、ポート転送、sftpなど) を使用していない場合、データ転送 は、2つのサイト間のデータチャネル上で直接行われます。
- ・いずれかのサーバへの接続でセキュリティ機能を使用しているか、転送方式が[バイナ リ]でない場合、クライアントは、ファイルをPCワークステーション上の一時フォル ダにいったんダウンロードしてから、転送先のサイトにアップロードします。この時 作成される一時ファイルは、転送終了時に削除されます。

- ・FTP クライアントでのファイルの転送
- ・サイトへの接続
- ・[ユーザ設定] タブ ([オプション] ダイアログボックス)

6.9 ダウンロード時のファイル名の変更

[名前を付けてダウンロード] コマンドは、サーバウィンドウ内のファイルを右クリックすると表示 されます。サーバ上のファイルを PC ワークステーションに異なる名前でダウンロードしたい場 合、ドラッグ ドロップではなくこのコマンドを使用すると便利です。

異なる名前でファイルをダウンロードするには

- 1. ダウンロードするファイルを右クリックし、[名前を付けてダウンロード]を選択します。
- 2. [名前を付けてダウンロード] ダイアログボックスの [ダウンロード先でのファイル名] ボックス に、PC 上でファイルに対して使用したい名前を入力します。
- 3. [OK]を選択して転送を完了します。

ワイルドカード文字も使用できます。複数のファイルを同時にダウンロードし、すべてのファイル 名を変更できます。例えば、ディレクトリ内のすべての .htm ファイルを、PC にダウンロードし た時に .html に変更できます。

異なる名前で複数のファイルをダウンロードするには

- 1. ダウンロードするファイルの1つを右クリックし、**[名前を付けてダウンロード]** を選択しま す。
- [ダウンロード先でのファイル名] ダイアログボックスの [ダウンロードするファイル名] ボックスに、ファイル名の一部をワイルドカードに置き換えて入力します。ファイルを特定できる長さは残しておきます。
- 2.例えば、*.htm や *_info_??.text などです。
- 3. [名前を付けてダウンロード] ダイアログボックスの [ダウンロード先でのファイル名] ボックス でも、同様にワイルドカード置換を行い、PC で変更するファイル名の一部を変えます。
- 3.例えば、*.html や *_info_??.txt などです。
- 4. [OK]を選択して転送を完了します。

- ・サーバファイルの表示
- ・FTP クライアントでのファイルの転送

6.10 アップロード時のファイル名の変更

[サーバへのアップロード] コマンドは、FTP クライアントの左画面にあるファイルを右マウスボタ ンでクリックすると表示されます。ローカルファイルをサーバに転送し、サーバ上で異なるファイ ル名を使用したい場合、このコマンドはドラッグ ドロップによるファイル転送よりも便利です。

異なる名前でファイルをアップロードするには

- 1. アップロードするファイルを右クリックし、[**アップロード**]を選択します。
- 2. [アップロード] ダイアログボックスの [アップロード先でのファイル名] ボックスに、サーバ上 でファイルに対して使用したい名前を入力します。
- 3.2つのリモートサイトに接続している場合、[アップロード]ダイアログボックスには両方のサ イト名が表示されます。ここで、ファイルを転送するサイトを選択してください。

4. [OK]を選択して転送を完了します。

ワイルドカード文字も使用できます。複数のファイルを同時にアップロードし、すべてのファイル 名を変更できます。例えば、ディレクトリ内のすべての .htm ファイルを、サーバにアップロード した時に .html に変更できます。

異なる名前で複数のファイルをアップロードするには

- 1. アップロードするファイルの1つを右クリックし、[アップロード]を選択します。
- [アップロード先でのファイル名] ダイアログボックスの [アップロードするファイル名] ボックスに、ファイル名の一部をワイルドカードに置き換えて入力します。ファイルを特定できる長さは残しておきます。
- 2.例えば、*.htm や *_info_??.text などです。
- 3. [アップロード] ダイアログボックスの [アップロード先でのファイル名] ボックスでも、同様に ワイルドカード置換を行い、サーバで変更するファイル名の一部を変えます。
- 3. 例えば、*.html や *_info_??.txt などです。
- 4. [OK]を選択して転送を完了します。

- ・ローカルPCファイルの表示
- ・FTP クライアントでのファイルの転送

6.11 未完了のサーバファイル転送の再開

サーバファイルを PC にダウンロードする時に、雑音や遅延によるネットワーク接続の喪失などが 原因で、転送が完了しない場合があります。

۵ ×۲

SFTP接続では、この機能は使用できません。

ファイルの転送が完了されなかった場合は、自動再開機能を使って中断された時点から転送を再 開することができます。自動再開機能を使用できるのは、次の各条件が満たされている場合だけで す。

・FTP サーバが REST コマンドに対応

ファイル転送を自動再開するために FTP クライアントは REST (Restart) コマンドをサーバ に送ります。FTP サーバが REST コマンドに対応していない場合は、ファイル転送はファイ ルの最初から開始されます。各サイトについて、1 回目の自動再開が試行された後、FTP ク ライアントは結果を記憶します。REST コマンドに対応していないサーバに対してはファイ ル転送の自動再開を試みません。

特定のサーバがこの機能に対応しているかどうかを判定するには、コマンドラインで次の ように入力します。

quote help rest

rest が再起動コマンドとして識別される場合は、サーバはこの機能に対応しています。

・ファイル転送方式 (または種類) は、バイナリでなくてはなりません。

自動再開機能では、ソースファイルのサイズを未完了の転送先ファイルのサイズと比較し て、ソースファイルのどこから転送を再開するかを決定します。テキストファイル転送方式 で PC 上に作成されるファイルのサイズは、ソースファイルのサイズと異なる可能性があり ます。

・ファイル転送モードが「追加」以外

追加モードでファイルを転送する時は、FTP クライアントは既存の転送先ファイルサイズ を使ってソースファイル内の再開位置を決定することができません。

未完了の転送を再開するには

- 1. 必要ならば、ソースファイルがあるサーバに再接続します。
- 2. 上記の3つの状況を確認してください。
- 3. [サイトのプロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブで、[途中終了したバイナリファイル のダウンロードを再開する] を選択します。
- 4. サーバファイルのダウンロードを再開します。例えば、転送できなかったサーバファイルを 選択してから PC 上の転送先にドラッグします。
- 5. クライアントは、そのファイルに対して過去に不完全なファイル転送操作が行われたことを 検出し、ファイル全体に対して新たなファイル転送を開始する代わりに、中断された地点か ら不完全な転送を再開するオプションを提供します。
- 6. [再開] をクリックします。

- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・既存のファイルの処理方法(転送モード)
- ・[変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

6.12 [文字セット] ダイアログボックス

- 1. [FTP サイトに接続] ダイアログボックスで、サイトのひとつを選択して、[プロパティ] ボタン をクリックします
- 1.-または-
- 1. サイトにすでに接続されている場合は、**[接続] [サイトプロパティ]** コマンドをクリックしま す。
- 2. [変換] タブをクリックして、[文字セット] ボタンをクリックします。

文字変換の必要性は、変換元と変換先で使用されている文字セット間での相違の有無によって生じ ます。たいていの場合、変換は不要です。

- ・クライアントとサーバの両方で DOS 文字セットを使用している場合、文字変換は不要で す。
- ・クライアントで Windows 文字セットを使用し、サーバが ISO-Latin-1 (ISO ラテン-1) 文字 セットを使用している場合、文字変換は不要です。

FTP クライアントは、サーバの文字セットと Windows または DOS の文字セット間の変換を行う ことができます。これらの設定は、テキストファイルの転送時と、サーバから送信された文字を画 面に書き込む時に適用されます。

Ω メモ

SFTP接続では、この機能は使用できません。

オプションは次のとおりです。

[ファイル の変換]	テキストファイルの変換を有効にします。PC ファイルがサーバに送信さ れる際や、サーバから送信された文字がクライアントファイルに書き込ま れる際に文字変換が行われます。
[サーバ メッセージ の変換]	サーバから送信された文字を画面に表示する際に変換を有効にします。

[サーバの 日本語文字 セットの自 動認識]	文字変換を、ファイルまたはメッセージ内に含まれている日本語文字セットの種類に基づいて行うかどうかを指定します。このオプションは、サー バが「EUC」、「DEC 1983 漢字」、または「JIS X0208-1983」に設定さ れている時で、「ファイルを変換する」または「サーバメッセージを変換 する」のいずれかが選択されている時だけ使用可能です。[サーバ] に指定 した日本語文字セットを常時使用する場合はこのチェックボックスをオフ にします。
クライアン ト	[ファイルを変換する] の選択時にクライアント PC 上で使用する文字セッ トを指定します。 既定では、現在の Windows 文字セットが設定されてい ます。
[サーバ]	テキストファイルの転送時 ([ファイルを変換する]が選択されている場合) とサーバメッセージの変換時 ([サーバメッセージを変換する]が選択されて いる場合) に使用する文字セットを指定します。
[ISO-7/ NRC]	変換に使用する国別文字セット (NRC) を指定します。変換によって、 ASCII セットの文字のいくつかが特定の言語で使用されているアクセント 付き文字とシンボルに置き換えられます。このオプションは、サーバ文字 セットが「DEC補助文字」、「ISOラテン-1」、「HP Roman 8」のいずれ かであり、[Roman-8をISO-7に置換する]と[ISO-7をRoman-8に置換する] が選択されている、または[MCSをNRCに置換する]と[NRCをMCSに置換す る]が選択されている場合にのみ使用できます。

サーバに

これらのオプションは、[ファイルを変換する] または [サーバメッセージを変換する] のいずれかが 選択されている場合にのみ使用可能です。

[NRC を 8	[ISO-7/NRC]を [アメリカ] 以外の値に設定した場合、このオプションを
ビット文字に	選択すると、変換が可能なかぎり、8 ビット文字が相当する ISO-7 文字
置換する]	に変換されます。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御され ます
	このオプションは、 サーバ の文字セットが[HP Roman 8]に設定されてい
	る場合にのみ使用可能です。

[DEC 国際文 字を NRC に 置換する]	文字が DEC 国際文字セット (MCS) から現在選択されている国別文字 セット (NRC) に変換されるかどうかを指定します。この文字変換は、 [ISO-7/NRC] の値によって制御されます。 このオプションは、サーバの文字セットが「 DEC補助文字 」または 「 ISOラテン-1 」に設定されている場合にのみ使用可能です。
[半角カタカ ナを全角に置 換する]	文字が現在の半角カタカナの文字セットから全角カタカナの文字セット に変換されるかどうかを指定します。
	このオプションは、[サーバ] の文字セットが JIS タイプ (Shift-JIS 以外) のいずれか、2 つの DEC Kanji タイプ、および EUC (Unicode) に設定さ れている場合にのみ使用可能です。

サーバから

これらのオプションは、[**ファイルを変換する**] または [**サーバメッセージを変換する**] のいずれかが 選択されている場合にのみ使用可能です。

[NRC を 8 ビット文字 に置換す る]	[ISO-7/NRC] を [アメリカ] 以外の値に設定した場合、このオプションを選 択すると、ISO-7 文字が相当する 8 ビット文字に変換されます。この文字 変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。このオプションは、 [サーバ] の文字セットが [HP 8 ビット文字] に設定されている場合にのみ使 用可能です。
[NRC を DEC 国際 文字に置換 する]	文字が現在選択されている国別文字セット (NRC) から DEC 国際文字セット (MCS) に変換されるかどうかを指定します。この文字変換は、[ISO-7/NRC] の値によって制御されます。 このオプションは、[サーバ] の文字セットが [DEC 補助文字] または [ISO ラ

[全角カタ カナを半角 に置換す	文字が現在の全角カタカナの文字セットから半角カタカナの文字セットに 変換されるかどうかを指定します。
る]	変換時に使用する日本語文字セットは、[サーバ] の値で指定します。
	このオプションは、 [サーバ] の文字セットが JIS タイプ (Shift-JIS 以外) の いずれか、2 つの DEC Kanji タイプ、および EUC (Unicode) に設定されて いる場合にのみ使用可能です。

詳細

[変換]タブ([サイトプロパティ]ダイアログボックス))

6.13 [スマートファイル拡張子の追加]ダイアログボック ス

表示方法

1. [ツール] - [オプション] コマンドを選択します。

2. [ファイルの種類] タブで [新規作成] をクリックします。

スマートファイル転送方式を選択すると、指定の拡張子を持つファイルはすべてここで指定した転 送方式で転送されます。

[ファイルの 特定の転送方式に関連付けるファイルの拡張子を入力するか、一覧か 種類] らファイルの拡張子を選択します。 この拡張子を持つソースファイルに使用する転送方式を選択します。

詳細

[転送方式]

- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)
- ・スマートファイル転送するファイルの種類の追加
- ・スマートファイル転送する既定のファイルの種類の追加

6.14 [スマートファイル拡張子の追加] ダイアログボックス

[スマート] 転送方式が選択されていて、未定義拡張子のファイルを転送する場合に、このダイアロ グボックスが表示されます。この拡張子を持つソースファイルに使用する転送方式を指定します。

∂ ×€

設定ファイルを保存すると、その関連付けが[**スマート**]ファイル転送一覧に永続的に追加され ます。

オプションは次のとおりです。

[ASCII]	.txt 、 .html などのテキストファイルを転送する場合に ASCII 転送を使用 します。
[バイナ リ]	.exe 、 .doc などのバイナリファイルを転送する場合にバイナリ転送を使 用します。バイナリファイルは、転送時に変換が行われません。
[Tenex]	DECsystem-20 など、1 バイトが 8 ビットでないバイトを使用しているサー バとの間でファイルを移動する場合は、Tenex を使用します (この転送方式 は「ローカル 8」としても知られています)。

[必ずユー	その拡張子のファイルの処理方法を必ず尋ねられるようにする場合、この
ザに尋ね	オプションを選択します。例えば、異なるファイルの種類で同じファイル拡
る]	張子が使用される場合、このオプションを選択します。[必ずユーザに尋ね
	る] がそのファイルの種類にすでに指定されている場合、このオプションは
	使用できません。

詳細

- ・スマートファイル転送するファイルの種類の追加
- ・ファイル転送方式の設定(転送方式)

6.15 [ファイル置換の確認] ダイアログボックス

[ファイル既存の場合に] コマンドを [ユーザに尋ねる] に設定した場合は、転送しようとするクライ アントファイルまたはサーバファイルが転送先にすでに存在していると、このダイアログボックス が表示されます。オプションは次のとおりです。

[サーバファイルを ローカルファイルに 追加する]	ダウンロードされたファイルを宛先ファイルに追加します。こ のオプションはホストからの転送にのみ使用できます。
[ローカル/サーバファ イルを上書きする]	転送先のファイルが上書きされます。
[このファイルを省略 する]	このファイルは転送されません。この転送操作の対象として複 数のファイルが指定されている場合は、それ以外のファイルに 対して処理が続行されます。
[別名を付ける]	転送先フォルダで使用する新しいファイル名を入力して [OK] を クリックします。
[自動的に別名を付け る]	宛先ファイルに対し、一意の名前を自動的に作成します。転送 中に変更されたファイル名は、FTP コマンドウィンドウに表示 されます。

[古いローカル/サーバ	転送するファイルが転送先のファイルより新しい場合にのみ、
ファイルを更新する]	転送先のファイルが上書きされます。

詳細

既存のファイルの処理方法(転送モード)

7. ファイルとフォルダの管理

7.1 ファイルとフォルダの管理

- ・ファイルの操作
- ・ローカルフォルダの操作
- ・ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成
- ・サーバディレクトリの操作方法
- ・既定ホームディレクトリの設定
- ・ファイル名の文字について
- ・サーバファイルの一覧のフィルタリング
- ・ディレクトリ定義ウィザードの実行
- ・ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定
- ・[サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス
- •[サーバファイルのプロパティ]ダイアログボックス
- ・[フォルダへ移動] ダイアログボックス

7.2 ファイルの操作

[ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブ な画面上のフォルダとファイルに適用されます。これらのコマンドを使用すると、ディレクトリの 名前の変更、削除、および FTP クライアント内でその他のディレクトリ管理タスクを実行できま す。

また、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューのコマンドにアクセスできます。例えば、 ファイルに関する情報を取得するには、ファイルを右クリックし、[**プロパティ**]を選択します。

ファイルをダブルクリックして開くか、実行します。

サーバファイルの内容を表示したり、サーバ上のプログラムを実行したりするために、ファイ ルはサーバからWindowsユーザフォルダにコピーされます。

- ・ローカルフォルダの操作
- ・サーバディレクトリの操作方法
- ・ファイル名の文字について
- ・サーバファイルの一覧のフィルタリング

7.3 ローカルフォルダの操作

ローカル PC 上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアント の左画面を使用 します。コンピュータやローカルネットワーク上のディスクドライブを参照したり、新規フォルダ を作成したり、FTP クライアント内でその他のディレクトリ管理タスクを実行したりできます。 [ファイル] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタンは、現在アクティブ な画面上のフォルダとファイルに適用されます。

新しいフォルダは、[**ファイル**] メニューから、コンテキストメニュー (右クリック) から、または ツールバーから追加できます。フォルダへのショートカットを作成するには、コンテキストメ ニューを使用します。

ローカルディレクトリ構造を表示するには、メインウィンドウの左上隅にある [別のフォルダへ移動] リストボックスを使用します。コンピュータの階層における現在のフォルダの位置を見るに は、リストボックス右端の下向き矢印をクリックします。[ツール] メニューとツールバーでは、[1 つ上のフォルダへ] コマンドを使用できます。または、[ジャンプ] コマンドで、フォルダに直接移 動することもできます。

ローカルフォルダへ直接移動するには

- 1. [ツール] [ジャンプ] コマンドを選択します。
- 2. 開きたいディレクトリ名を入力します。
- 2. 例えば、J:\Payroll\July です。
- 3. [ローカルコンピュータ] を選択して、このフォルダが PC 上にあることを示します。

ک ک

ディレクトリパスにはUNC (Universal Naming Convention) 名を使用することができます。 UNC 名には 47 文字の制限がありますが、各名前には以下の文字を除き、いずれの文字 (大 文字と小文字の両方) でも含むことができます: ? "/| < > * :

を除く大文字と小文字を含む半角英数字 47 文字以内で、次の構文で指定します。

\\<コンピュータ名>\<共有名>\<パス名>

- ・ローカルPCファイルの表示
- ・既定ホームディレクトリの設定
- ・ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの作成

7.4 ローカルフォルダまたはファイルのショートカットの 作成

FTP クライアントを使ってローカルファイルのショートカットを作成するには

- 1. 左画面で、ショートカットを作成したいフォルダとファイルを選択します。
- 2. 右マウスボタンをクリックして、コンテキストメニューを開きます。
- 3. コンテキストメニューの [**ショートカットの作成**] をクリックして、選択したフォルダとファ イルそれぞれのショートカットを作成します。
- 3. ショートカットは PC 上の現在のフォルダに作成されます。

- ・ローカルフォルダの操作
- ・ファイルの操作
- ・ローカルPCファイルの表示

7.5 サーバディレクトリの操作方法

サーバ上のフォルダまたはファイルの操作を行うには、FTP クライアントの右画面を使用します。 リモートディレクトリを参照したり、新規フォルダを作成したり、ファイル一覧をフィルタリング したりできます。[**ファイル**] および [編集] メニューコマンドとツールバー上のほとんどのボタン は、現在アクティブな画面上のフォルダとファイルに適用されます。

新しいフォルダは、[**ファイル**] メニューから、コンテキストメニュー (右クリック) から、または ツールバーから追加できます。

リモートディレクトリ構造を表示するには、メインウィンドウの左上隅にある [別のフォルダへ移動] リストボックスを使用します。サーバサイトの階層における現在のディレクトリの位置を見る には、リストボックス右端の下向き矢印をクリックします。[ツール] メニューとツールバーでは、 [1 つ上のフォルダへ] コマンドを使用できます。または、[ジャンプ] コマンドで、リモートディレ クトリに直接移動することもできます。

リモートディレクトリへ直接移動するには

- 1. [ツール] [ジャンプ] コマンドを選択します。
- 2. 開きたいディレクトリ名を入力します。
- 2. サーバの構文に従って、ディレクトリ名を指定してください。
- 3. [サイト名] をクリックして、このディレクトリがサーバにあることを指定します。

- ・サーバファイルの表示
- ・既定ホームディレクトリの設定
- ・サーバファイルの一覧のフィルタリング
- ・ディレクトリ定義ウィザードの実行

7.6 既定ホームディレクトリの設定

既定ホームディレクトリは、FTP クライアントで既定で表示されるファイルを指定するために使用します。既定サーバディレクトリは、サイトへの初回接続時にサーバ画面に表示されるファイルを指定します。既定のローカルホームフォルダには2種類あります。1つは FTP クライアントのグローバル設定で、もう1つは接続する各サイトに特有のものです。サイト特有のローカルホームフォルダを構成したら、FTP クライアントのローカルウィンドウにはそのフォルダが表示され、サーバウィンドウには既定のサーバホームディレクトリが表示されます。

既定サーバディレクトリを設定するには

1. 右画面を使って、既定に設定したいサーバディレクトリを探します。

- 2. [接続] [サイトのプロパティ] を選択し、[ディレクトリ] タブをクリックします。
- 3. [サーバ] の下の [現在の設定] ボタンをクリックします。
- 3. これにより、現在のサーバの場所が [ホームディレクトリ] テキストボックスに入力されます。
 4. [OK] をクリックします。

∂ ×€

既定のサーバホームディレクトリを変更するには、使用するフォルダを右クリックし、[ホー ムディレクトリの設定]を選択して実行することもできます。

特有の再度の既定のローカルフォルダを設定するには

- 1. [FTP サイトに接続] ダイアログボックスで、サイトのひとつを選択して、[プロパティ] ボタン をクリックします
- 1.-または-
- 1. サイトにすでに接続されている場合は、[接続] [**サイトプロパティ**] コマンドをクリックしま す。
- 2. [ディレクトリ] タブをクリックします。
- 3. [ローカル] の下の [参照] をクリックして、既定に設定したい PC ディレクトリを選択します。
- 4. **[OK**] をクリックします。

FTP クライアントの既定のローカルフォルダを設定するには

- 1. [ツール] [オプション] コマンドを選択します。
- 2. [ディレクトリ] タブをクリックします。
- 3. [既定のローカルホームフォルダ] の下の [参照] をクリックして、既定に設定したい PC ディレ クトリを選択します。
- 4. **[OK**] をクリックします。

- ・[ディレクトリ]タブ([サイトのプロパティ]ダイアログボックス)
- ・[全般]タブ ([オプション]ダイアログボックス)
- ・ローカルフォルダの操作
- ・サーバディレクトリの操作方法

7.7 ファイル名の文字について

FTP クライアントは長いファイル名に対応しています。Windows の長いファイル名には空白を含むことはできますが、以下の文字を使用することはできません。

\ / : * ? " < > |

以下の長さの制限があります。

- ・最大パス (ファイル名を除く): 246 文字 (ドライブ名、: 文字および、文字を含む)。半角
 246 文字の制限は、終端ヌル文字を使用する標準 8.3 形式でのファイル名の追加を可能にします。
- ・最大ファイル名: 256 文字 (終端 null 文字を含む)
- ・有効な最長の名前 (パス + ファイル名): この値は、Windows の各オペレーティングシステム では少し違います。すべての Windows システムで有効になるように、パスは 259 文字以内 に収めてください。

空白を含むファイル名

FTP コマンドまたは SFTP コマンドを使用する場合は、空白を含むファイル名はどれも二重引用 符で囲む必要があります。引用符の使用規則については、「FTP または SFTP コマンド内の引用 符」の項目を参照してください。

禁止された文字を使用している、またはサーバファイル名が長すぎる場合

PC へのファイル転送で、FTP クライアントは、次の規則に基づいて PC 側で指定されたファイル 名が Windows で有効かどうかを自動的に確認します。

- ・すべての不正な文字を取り除きます。例えば、fast*lane は、fastlane になります。
- ・無効な文字は次のとおりです: \ / : * ? " < > |
- ・必要であればファイル名を切り詰めます。Windows では、長さに関する制約は適用されま せん。
- ・Windows のパスは、常時変更されません。サーバファイル名と受信側の Windows パスが 文字数制限を超える場合、サーバファイル名が切り詰められます。
- ・ファイル名がピリオドで始まる場合、ファイル名の最後から必要な数だけ文字を削除します。ファイル名にピリオドが入る場合、クライアントは、名前の最後のピリオドの位置を 判断し、そのピリオドの左側から必要な数だけ文字を削除します。

[サイトプロパティ] ダイアログボックスの [転送] タブで [Windows ファイル名を 8.3 形式で作成す る] オプションを選択しておくと、サーバサイトから転送したファイルのサーバファイル名が長す ぎるか無効な文字を含んでいる場合に、有効な DOS 名を自動的に付けることができます。

- ・FTP または SFTP コマンド内の引用符
- ・ファイルの操作
- ・[変換] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

7.8 サーバファイルの一覧のフィルタリング

ファイルフィルタを使用すると、サーバ上の指定したファイルだけを表示できます。既定のファイ ルフィルタまたは一時ファイルフィルタを指定することができます。サーバディレクトリにファイ ルが多数ある場合は、既定のフィルタを使って、ディレクトリ一覧の取得と表示にかかる時間を短 縮できます。

メモ

SFTP接続では、この機能は使用できません。

サーバに既定のファイルフィルタを指定するには

- 1. [接続] [サイトのプロパティ] を選択し、[ディレクトリ] タブをクリックします。
- 2. [ファイルの表示フィルタ] ボックスに、そのサイトのすべてのサーバディレクトリー覧に対し て既定の表示フィルタを入力します。
- 2. 例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が .txt で終わるものをすべて一覧 表示するには「*.txt」と入力します。そのサイトで実行しているサーバが認識できるワイ ルドカード文字を使用する必要があります。
- 3. [OK] を選択します。
- 3. FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。

一時ファイルフィルタを適用するには

- 1. [表示] [フィルタ] コマンドをクリックします。
- 2. [サーバの表示フィルタ] ダイアログボックスで表示フィルタを指定します。
- 2. 例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が .txt で終わるものをすべて一覧 表示するには「*.txt」と入力します。そのサイトで実行しているサーバが認識できるワイ ルドカード文字を使用する必要があります。
- 3. [**OK**] を選択します。
- 3. FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。

γ_{×τ}

- ・同じセッションで2つのサーバに接続している場合、[表示]メニューの[フィルタ]コマン ドで指定したフィルタは両方のサーバに適用されます。一方のサーバにのみフィルタを 適用したい場合は、そのサーバの表示ウィンドウを右クリックし、ショートカットメ ニューから [フィルタ] を選択します。
- ・表示フィルタを有効にすると、サーバウィンドウのタイトルバーにそのフィルタが表示 されます。
- ・現在のフォルダにあるすべてのファイルを一覧表示するように要求するには、「*」(ア スタリスク)を入力して表示フィルタを指定します。

- ・サーバディレクトリの操作方法
- ・[サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス
- ・[ディレクトリ] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)

7.9 ディレクトリ定義ウィザードの実行

[ディレクトリ定義ウィザード] では、認識されない種類の FTP サーバのディレクトリ形式を定義 することができます。このウィザードを使って、FTP クライアントウィンドウの右画面に正しく サーバディレクトリの一覧が表示されて解釈されるように、現在の FTP サイトでディレクトリ出 力情報のファイル名およびその他のフィールドを指定することができます。

$^{igodoldsymbol{ ho}}$ ×େ

FTPサイト上のファイルが正しく表示されている場合は、このウィザードを使用しないでくだ さい。

ディレクトリ定義ウィザードを使用するには

γ ×€

ディレクトリ定義ウィザードを使用するには、[**サーバの種類**]を[サイトプロパティ]ダイアログ ボックスの[**全般**]タブで[**自動検出**] (既定値) に設定しておく必要があります。

1. サイトに接続します。

2. [ツール] - [ディレクトリ定義ウィザード] コマンドを選択します。

3. ウィザードの指示に従って、listitemsを完了します。

γ ×€

ファイル名だけが必須フィールドです。他のフィールドは未定義のままでもかまいません。

- 4. フィールドの場所の指定を完了したとき、[完了] をクリックします。
- 4. FTP クライアント は、サーバディレクトリの一覧を自動的に更新します。
- 5. このディレクトリの一覧も正しくない場合は、満足できる結果が得られるまで、場所を変えて[ディレクトリ定義ウィザード]の実行を繰り返します。

詳細

FTP クライアントの問題解決

7.10 ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定

サーバ上のファイルのアクセス許可を、サーバウィンドウまたは FTP コマンドラインを使用して 変更できます。また、新しいファイルおよびディレクトリのグローバルな既定を構成することもで きます。個々のサイトでは、ユーザがファイルを転送したり、新しいディレクトリを作成したりす るたびに、このユーザのアクセス許可値をクエリするようにクライアントを構成できます。

サーバウィンドウを使用してファイルおよびディレクトリのアクセス許可を変更するに は

- 1. UNIX ホストまたは Linux ホストに接続します。
- 2. サーバウィンドウで、1 つまたは複数のファイルまたはディレクトリを選択します。
- 3. 選択したファイルまたはディレクトリを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 4. 次のいずれかの方法で、選択したファイルまたはディレクトリの属性を変更します。
 - 「許可モード] ボックスに、UNIX の chmod コマンドとして有効な3 桁の数値を入力します。有効な値の桁数は0~7 です。
 - •[所有者]、[グループ]、および [公開] で、各ユーザタイプの読み取り、書き込み、または 実行を許可するオプションを選択します。
- 5. **[OK**] をクリックします。

転送されたファイルまたは新たに作成されたディレクトリのグローバルな既定を構成す るには

- 1. [ツール] [オプション] に進みます。
- 2. アップロードおよびダウンロードされたファイルの既定のアクセス許可を設定するには、[属 性] タブを使用します。
- 3. 新たに作成されたディレクトリの既定のアクセス許可を設定するには、[ディレクトリ属性] タ ブを使用します。
- 4. **[OK**] をクリックします。

ファイルを転送またはディレクトリを作成するたびにアクセス許可を設定するには

1. [サイトのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。

- ・サーバ上でディレクトリを作成するたびにアクセス許可を設定するには、[ディレクトリ] タブをクリックして [ディレクトリ作成前に属性を表示] をオンにします。
- ・ファイルを転送するたびにアクセス許可を設定するには、[転送] タブをクリックして、以下のオプションのいずれか、または両方を選択します: [転送前にダウンロードオプションを表示する]、[転送前にアップロードオプションを表示する]。
- 2. **[OK**] をクリックします。

FTPコマンドラインを使用してファイルおよびディレクトリのアクセス許可を変更する には、以下の手順に従います

1. UNIX ホストまたは Linux ホストに接続します。

2. コマンドライン が表示されていない場合は、[F7] キーを押して表示します。

- 3. UNIX chmod コマンドと許可マスクの数値を入力します。
- 3. 例えば、次のコマンドは指定したファイルの属性を -rw-r--r-- に設定します。

chmod 644 myfile.htm

У ×ғ

ディレクトリに対する許可の変更は再帰的ではないので、ディレクトリ内のファイルには影響しません。

- ・FTPコマンドラインの使用
- •[サーバファイルのプロパティ]ダイアログボックス
- ・ダウンロードしたファイルの時刻と日付の設定
- ・ダウンロード時のファイル名の変更
- ・アップロード時のファイル名の変更
7.11 [サーバの表示フィルタ] ダイアログボックス

表示方法

FTPクライアントで、[表示]メニューから[フィルタ]コマンドを選択します。

[サーバの表示フィルタ]ダイアログボックスを使うと、リモートサイトのディレクトリー覧に特定の種類のサーバファイルだけを表示するよう要求できます。

ワイルドカードを入力します。例えば、現在のディレクトリにあるファイルのうち名前が .txt で 終わるものをすべて一覧表示するには「*.txt」と入力します。そのサイトで実行しているサーバ が認識できるワイルドカード文字を使用する必要があります。[OK] をクリックすると、右画面に あるサーバディレクトリー覧が更新されて、指定に合ったファイルだけが表示されます。

γ ×ε

- ・SFTP接続では、この機能は使用できません。
- ・表示フィルタを有効にすると、サーバウィンドウのタイトルバーにそのフィルタが表示 されます。
- ・現在のフォルダにあるすべてのファイルを一覧表示するように要求するには、「*」(ア スタリスク)を入力して表示フィルタを指定します。

7.12 [サーバ ファイルのプロパティ] ダイアログボックス

1 表示方法

1. FTP クライアントを起動します。

1. [FTPサイトに接続]ダイアログボックスが開きます。(FTPクライアントがすでに実行中で このダイアログボックスが開いていない場合は、[接続]>[接続]コマンドをクリックしま す。)

2. サイトに接続し、サーバウィンドウでファイルまたはフォルダを選択します。

3. [ファイル]メニューの[プロパティ]コマンドを選択します。

このダイアログボックスには、現在選択しているサーバのファイルまたはディレクトリに関する情報が表示されます。また、UNIX または Linux サーバの許可を設定するために使用することもできます。

ディレクトリに対する許可の変更は再帰的ではないので、ディレクトリ内のファイルには影響しま せん。

[属性]	現在の属性を表示します。
[許可モード]	UNIX chmod コマンドとして有効な 3 桁の数値を入力します。有 効な値の桁数は 0 ~ 7 です。

[所有者]、[グルー	ユーザの各種類について、現在選択されている項目に対する読み
プ]、および [公開]	取り、書き込み、または実行の許可を選択します。

詳細

- ・ファイルおよびディレクトリのアクセス許可の設定
- ・サーバディレクトリの操作方法

7.13 [フォルダへ移動] ダイアログボックス

i 表示方法

FTPクライアントの[ツール]メニューから、[移動]コマンドを選択します。

開きたいフォルダの名前とパスを入力します。

- ・[ローカルコンピュータ]をクリックして、ローカルコンピュータのパスを指定します。
- ・サーバに接続している場合、サーバ名が表示されます。このオプションをクリックして、 サーバのパスを指定します。

- ・ローカルフォルダの操作
- ・サーバディレクトリの操作方法

8. FTP クライアントの起動のカスタマイズ

8.1 FTP クライアントの起動のカスタマイズ

ショートカット、起動スイッチ、およびスクリプトファイルを使用して FTP クライアントの起動 方法をカスタマイズすることができます。Windows ショートカットを使用して、Reflection FTP ク ライアント とサーバにすばやく簡単にアクセスすることができます。次の操作を実行するショー トカットを作成できます。

・設定ファイルを開き、利用可能なサイトの一覧を表示する

・特定のホストサイトに接続する

- ・設定ファイルを読み込むショートカットの作成
- ・サイトに接続するショートカットの作成
- ・FTP クライアント起動スイッチ
- ・起動コマンドの例
- ・起動時にスクリプトファイルを実行する
- ・スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例

8.2 設定ファイルを読み込むショートカットの作成

FTP クライアント設定ファイルを読み込んで、[FTP サイトに接続] ダイアログボックス (利用可能 サイト一覧が表示されます) を自動的に開くショートカットを作成できます。

Reflection FTPクライアントを起動し、設定ファイルを読み込むショートカットを作成 するには

- 1. [ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。
- 2. (オプション)保存するファイルの新しい名前を入力します。
- 3. [設定の保存] ダイアログボックスの左下隅にある [ショートカットをデスクトップに保存する] オプションを選択します。
- 4. [保存] をクリックします。

詳細

- ・FTP クライアント設定ファイル
- ・[FTP サイトに接続] ダイアログボックス

8.3 サイトに接続するショートカットの作成

FTP クライアントを起動し、自動的にサイトに接続するショートカットを作成できます。

Reflection FTPクライアントを起動し、サイトに接続するショートカットを作成するに は

- 1. [FTP サイトに接続] ダイアログボックスは、FTP クライアントの起動時に開きます。また、 [接続] - [接続] を選択して開くこともできます。
- 2. 一覧で任意のサイトを右クリックし、[ショートカットの作成] を選択します。
- 2. ショートカットがデスクトップに作成されたことを示すメッセージが表示されます。
- 3. [OK] をクリックします。

詳細

[FTP サイトに接続] ダイアログボックス

8.4 FTP クライアント起動スイッチ

FTP クライアントを起動してコマンドラインパラメータを指定し、自動的に指定したサイトに接続する、指定した FTP スクリプトファイルを実行する、設定ファイルを使って接続する、または、URL で指定されたサーバに接続することができます。

- ・起動コマンドでショートカットを設定し、後でそのショートカットをダブルクリックして 自動的に起動コマンドが実行されるようにすることができます。ショートカットに指定す るプロパティによって、クライアントをウィンドウ内で実行する、最小化の状態で実行す る、または、デスクトップで実行するのかを決定します。
- •[スタート]-[ファイル名を指定して実行] コマンドを使用する時、[名前] ボックスに起動コ マンドを入力できます。

起動コマンドの構文

<実行ファイル>.exe [<サイト>] /<スイッチ> <パラメータ>

<実行ファイル>.exe	FTP 実行ファイルのパスと名前を指定します。次に例 を示します。 「FTP_INSTALL_FOLDERrftpc.exe」
<site></site>	設定ファイルに定義されているサイトを指定します。 クライアントの起動時にそのサイトのプロパティが使 用されます。サイト名に空白が含まれている場合 は、"ADA Home"のように引用符で囲んでください。
	<サイト> 引数を指定する場合は、常に最初の引数とし て指定します。 /w スイッチといっしょに指定すると、 <サイト> 引数は無視されます。
	Settings という名前の既定の設定ファイルに定義済み サイトが含まれていない場合は、 /RFW スイッチを使用 して、サイト定義が含まれている設定ファイルを指定 します。

こ実行する処理を指定し
-

起動スイッチ

/D <診断ファイル>	クライアントとサーバとの間のすべての通信、および 問題解決に使用できるその他の診断情報を指定された ファイルに記録します。指定された診断ファイルは 「My Documents」フォルダにあります。このファイル は、クライアントを起動するたびに更新されます。
/E	イベントをアプリケーションイベントログに記録しま す。注意: /D スイッチを使って作成した診断ファイルに は、このイベントログよりも詳細な情報が含まれてい ます。
/FMIGRATE	Reflection F-Secure 移行ウィザードを起動します。この ウィザードを使用して、F-Secure プロファイルを Reflection 設定ファイルに移行できます。
/L <ログファイル>	クライアントと接続先サーバとの間のすべての通信を 指定されたログファイルに記録します。このログファ イルはデータを累積的に保存するため、新しい情報は 既存の情報の後に追加されます。
/N	Reflection の起動画面を表示しないように設定します。
/RFS <スクリプトファイル>	指定されたスクリプトを実行します。スクリプトを QUIT コマンドで終了する場合は、スクリプトが完了す るとクライアントが終了します。
/RFW <設定ファイル>	指定した設定ファイルを使用して接続できるようにし ます。
/X <エクスポートファイル>	クライアントのメインウィンドウを起動せずに、[設定 のエクスポート] ダイアログボックスを直接起動しま す。

/W <URL>

<URL> パラメータで指定されたサーバに接続します。 構文は次のとおりです。

rftpc[.exe] /W ftp://
[username[:password]@]hostname[:port][/
directory]

詳細

起動コマンドの例

8.5 起動コマンドの例

次のコマンドは、FTP クライアント (Rftpc.exe)を起動して、既定の設定ファイルに定義されて いる West Coast という名前のサイトに接続します。

"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" "West Coast"

上の例では、パスの中に空白を含むフォルダ名がありますから、実行ファイルを引用符で囲む必 要があります。同様に、サイト名に空白が含まれていますから、引用符で囲まれています。

次のコマンドは、 /w スイッチを使って FTP サイトの URL を指定し、 /L スイッチを使ってクラ イアント/サーバ間のすべての通信を Ftpinfo.log という名前のログファイルに記録するように FTP クライアント (rftpc.exe)に指示します。

"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" /W ftp://ftp.myco.com /L Ftpinfo.log

次のコマンドは、設定ファイルを使用して接続し、スクリプトファイルを実行するよう FTP クラ イアントに指示します。 /RFW スイッチは設定ファイル Myfile.rfw を使って接続するように FTP クライアントに指示します。 /RFS スイッチはその設定ファイルで指定されているサーバに接続し た後スクリプトファイル Transfer.rfs を実行するように FTP クライアントに指示します。

"FTP_INSTALL_FOLDER\rftpc.exe" /RFW "C:\Mypath\Myfile.rfw" /RFS "C:\Mypath\Transfer.rfs"

詳細

FTP クライアント起動スイッチ

/?

8.6 起動時にスクリプトファイルを実行する

クライアントを起動し、スクリプトファイル内にあるすべてのコマンドを自動的に実行するコマン ドラインパラメータを指定できます。この方法を使用すると、一連のコマンドが自動的に実行され ます。この機能を使用すると、スクリプトの完了と同時にクライアントアプリケーションが終了し ます。

- ・起動コマンドでショートカットを設定しておけば、後でそれをダブルクリックしたときに 自動的に起動コマンドが実行します。ショートカットに指定するプロパティによって、クラ イアントをウィンドウ内で実行する、最小化の状態で実行する、または、デスクトップで 実行するのかを決定します。
- •[スタート]-[ファイル名を指定して実行] コマンドを使用する時、[開く] ボックスに起動コ マンドを入力できます。

スクリプトファイル実行用の起動コマンドの構文

<実行ファイル>.exe [<サイト>] /RFS <スクリプトファイル>

コマンドライン内では、引数はそれぞれ空白で区切ります。

<実行ファイル>.exe

FTP クライアント実行ファイルのパスと名前を指定します。

例:

"C:\Program Files\Micro Focus\Reflection\Rftpc.exe" <site>

定義済みのサイトを指定します。クライアントの起動時にそのサイトのプロパティが使用されます。FTP サイト名に空白が含まれている場合は、" ADA Home " のように引用符で囲んでください。

/RFS <スクリプトファイル>

FTP スクリプトファイルのパスと名前を指定します。スクリプトファイル名またはパスに空白が 含まれている場合は、 "C:\My Script Files\Get lab reports.rfs" のように引用符で囲みま す。

詳細

・FTP クライアント起動スイッチ

・スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動する例

8.7 スクリプトファイルといっしょにクライアントを起動 する例

次のコマンドは、FTP クライアントを起動して、「Central」という FTP サイトに接続し、 Upload.rfs という名前の FTP スクリプトファイルを実行します。

Rftpc.exe Central /RFS Upload.rfs

このコマンドは、FTP クライアントを起動して、「Central」という FTP サイトに自動的に接続します。このスクリプトの実行時、「Central」FTP サイトに対して定義されているプロパティが使用されます。



サイト名またはスクリプトファイル名に空白が含まれている場合は、次の例のようにその名前 を引用符で囲む必要があります。例:

Rftpc.exe "My Site" /RFS "Central files download.rfs"

- ・起動時にスクリプトファイルを実行する
- ・FTP スクリプト

9. FTP クライアントの問題解決

9.1 FTP クライアントの問題解決

- ・問題の原因を突き止める方法
- ・FTP クライアント接続の問題解決
- ・ファイル転送の問題解決
- ・FTP ディレクトリー覧の問題解決
- Secure Shell のログファイル
- ・FTP サイト間のファイル転送の問題解決
- ・FTP クライアントエラーメッセージ
- Windows Sockets のエラーメッセージ
- ・エラーメッセージ

9.2 問題の原因を突き止める方法

Reflection FTP クライアントで問題が発生した場合は、他のクライアントと動作を比較すると、問題の解決に役立つ場合があります。Microsoft FTP クライアントを使用して問題が発生した FTP サーバに接続し、このクライアントを使用して、問題の起こった操作をもう一度繰り返してみます。

別の FTP クライアントを使用しても同じ問題が繰り返し発生する場合は、以下のいずれかの原因 が考えられます。

- ・接続先のサーバが、ユーザが実行しようとしている FTP 操作に対応していない。
- ・接続先のサーバが正しく構成されていない。
- ・コマンドで間違った情報を指定している (例えば、ファイルを転送する際に、存在しないパ スやファイル名を指定するなど)。

Reflection FTP クライアントを使用する場合に限って問題が発生する (別の FTP クライアントを使用してサーバに接続した時には問題が発生しない) 場合は、問題解決法を参照してください。

- ・FTP クライアント接続の問題解決
- ・ファイル転送の問題解決
- ・FTP ディレクトリー覧の問題解決
- ・FTP サイト間のファイル転送の問題解決

9.3 FTP クライアント接続の問題解決

FTP クライアントを使用して接続する時の問題を解決するには、この項目を使用します。

接続の設定

- ・サーバ名、ユーザ名、およびパスワードが正しく入力されていますか? 大文字と小文字を区 別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく入力してください。
- ・承認されたユーザだけがサーバにアクセスできるように中継サーバまたは SOCKS プロキシ サーバを使用していますか? 使用している場合は、クライアントをファイアウォールまたは SOCKS プロキシサーバ経由で接続するように設定してください。
- ・接続を開く時、入力したサーバ名は HOSTS ファイルまたはドメインネームサーバ内で検索 されます。ローカルネットワーク上にドメインネームサーバが存在しないで、HOSTS ファ イルを使用していない場合は、次の例のように、サーバホストの完全な IP アドレスを指定 する必要があります。例えば: 124.24.36.85
- ・FTP サーバがリモートシステム上で動作していない場合は、接続できません。
- ・サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとしたとき 「接続待ち時間」というメッセージが表示された場合、[**サイトのプロパティ**] ダイアログ ボックスの [**接続**] タブの [**待ち時間** (秒)] の設定値を大きくします。
- FTP クライアントがサーバの種類を判断することができない場合、サーバディレクトリの 一覧が正しく表示されないことがあります。その後、[ディレクトリ定義ウィザード]を使っ て、ディレクトリ形式を変更できます。
- ・Secure Shell 接続の確立で問題が発生した場合は、Secure Shell のログの情報を確認して問題を解決してください。

接続時の問題解決

エラーメッセージ: ホストアドレスを取得できませんでした。

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- ・サーバに対して入力したホスト名または IP アドレスが無効です。ホスト名を入力し直して ください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく 入力してください。
- ・ホスト名は、HOSTS ファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、ホストサーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- ・IPv6 アドレスを入力しましたが、IPv6 対応機能が PC 上で有効になっていません。詳しく は、Microsoft にお問い合わせください。
- ・ローカルネットワークの外部にあるサーバに接続するためには、適切に構成された IP ルータ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、動作しているかどうかを確認してください。

エラーメッセージ: 接続時間が切れました。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとした時にこのメッ セージが表示される場合は、[接続待ち時間]の設定値を増やして、ログイン時のサーバの応答時間 を長くしてください。

接続時に Reflection FTP が停止します。

ー部のシステムでは、表示上の問題により接続時に Reflection FTP が停止することがあります が、この問題は、アニメーションの表示 (ディレクトリー覧取得中に表示される、懐中電灯が振ら れているアニメーションなど) をオフにすることで解決できます。アニメーションの表示をオフに するには、[ツール] - [オプション] コマンドを選択し、[ユーザ設定] タブで [アニメーションを使用 しない] をオンにします。

PWD コマンドにホストが応答しません。

既定では、サーバへの接続時に Reflection によって PWD コマンドが送信されますが、一部のサー バはこのコマンドに対応していません。サーバに接続する前に、[F7] キーを押してコマンドウィン ドウを表示してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返される場合は、 この設定をオンにしてみてください。接続時に PWD コマンドが送信されないようにするには、、 **[サイト プロパティ]** ダイアログボックスの **[ディレクトリ]** タブで、**[PWD コマンドを送信しない]** をオンにしてください。

エラーメッセージ: PASV がサーバによって実行されませんでした

既定では、クライアントは PASV コマンドを使用して接続します。このため、クライアントはディ レクトリー覧とファイル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確立します。これは、一部のファイア ウォールを介して接続する場合に必要です。サーバが PASV コマンドに対応していない場合は、 [サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続]]タブにある [passive モードを使用する] チェッ クボックスをオフにすることができます。

- ・安全な FTP クライアント接続
- ・[接続] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・ディレクトリ定義ウィザードの実行
- Secure Shell のログファイル

9.4 ファイル転送の問題解決

FTP または SFTP クライアントを使ってファイルを転送するとき問題が発生した場合は、次の対処 方法を参考にしてください。

- ・ファイルを転送する前にサーバに接続する必要があります。
- ・転送したファイルを使用できない場合 (圧縮ファイルを解凍できない、実行可能ファイルを 実行できない、テキストファイルを読み取れない等)、ファイル転送を行う前に正しいファ イル転送方式を選択したかどうかを確認してください。
- ・サーバ上の転送先ディレクトリに対する書き込み権を持っていない場合は、サーバへの転 送が異常終了することがあります。
- ・サーバ上のファイルを PC に転送しようとして「アクセスが拒否されました」という内容の メッセージが表示される場合は、受信を試みているファイルと同じ名前の読み取り専用 ファイルが PC の転送先ディレクトリにあるか、PC ディレクトリに対する書き込み権があ りません。
- •2つのリモートホスト間でファイルを転送しようとした時にエラーメッセージが表示され た場合は、送信側または受信側のサーバがこの機能に対応するように構成されていない可 能性があります。
- ・転送したテキストファイルに誤った文字が含まれている場合は、文字変換を行い、転送元ファイルの文字が転送先で正しく読み取れるようにする必要があります。FTP クライアントでは、必要に応じて、サーバの文字セットと Windows または DOS の文字セットとの間で文字変換を行えます。文字変換を行うと、転送元ファイルの文字が転送先で読み取れる文字に変換されます。例えば、Windows のアプリケーションで DOS の文字セットを使用するサーバからファイルを転送する場合、または言語特有のアクセントが付いた文字や記号を含むテキストファイルを転送したい場合、文字変換オプションを設定して、ファイルの転送中に変換を行う必要があります。詳細については、「[文字セット]ダイアログボックス」の項目を参照してください。
- ・ファイル名に空白、引用符、またはワイルドカード文字が含まれており、ファイルの転送 に支障がある場合は、「FTP または SFTP コマンド内の引用符」の項目を参照してくださ い。
- ・ファイル転送を中止しているとき問題が発生した場合は、サーバを再接続する必要があります。サーバによっては、サーバファイルを受信中に転送を中止すると接続が切断されることがあります。
- ・[既存のファイルがある場合]の設定は、Reflection FTP クライアント内での転送にのみ適用 されます。Reflection クライアントの表示ウィンドウからデスクトップまたは開いている Windows エクスプローラウィンドウにドラッグ ドロップでファイルを転送する場合、同じ 名前のファイルが選択した転送先にすでに存在する時は、FTP クライアントの設定に関係 なく、[ファイル置換の確認] ダイアログボックスが表示されます。FTP クライアントオプ ションの現在の設定を利用するには、ドラッグ & ドロップによる転送を行う際は必ず FTP クライアントウィンドウを使用するようにします。

9.5 FTP ディレクトリー覧の問題解決

FTP または SFTP サイトのディレクトリー覧を取得できない場合は、次の項目を参照してください。

ディレクトリー覧を取得するときの問題、またはサーバがエラー「425 Can't open data connection」(データ接続を開くことができません)を返す場合

サーバウィンドウまたはコマンドウィンドウにディレクトリー覧が表示されない場合は、サーバ が PASV コマンドに対応していない可能性があります。[サイトのプロパティ] ダイアログボックス の [接続] タブにある [パッシブモードを使用する] 設定をオフにしてみてください。

サーバディレクトリ内のすべてのファイルを表示できない場合

このサイトのサーバディレクトリー覧に既定のワイルドカードフィルタが指定されていることが考 えられます。ワイルドカードフィルタを使うと、ワイルドカードで指定した種類のファイルだけが ディレクトリー覧に表示されます。例えば、フィルタとして *.txt を指定すると、txt で終る ファイルだけがディレクトリー覧に表示されます。

- ・サーバディレクトリー覧用の既定ワイルドカードフィルタは、[**サイトのプロパティ**]ダイア ログボックスにある [**ディレクトリ**] タブで設定します。
- ・ワイルドカードフィルタを使用している時は、FTP サイト画面 (右画面) のタイトルバーに フィルタが表示されます。
- ・サーバディレクトリー覧の既定ワイルドカードフィルタを一時的に上書きするには、[表示]
 -[フィルタ]を使用します。ディレクトリ内のすべてのファイルおよびフォルダを表示する
 には * (アスタリスク)を入力します。

SFTP を使用して UNIX サーバに接続する時に間違ったサーバファイルまたは空のサー バファイルが表示される場合

SFTP を使用して接続しておりサーバウィンドウに何も表示されないか、または正しく表示されな い場合は、[**所定の形式によるリモートディレクトリー覧を使用**] 設定 (**[-サイト プロパティ**] - [**セ キュリティ**] - [Secure Shell]) を変更してみてください。この設定では、サーバから送信されたデー ター覧スタイルのうち、どれを使用して FTP クライアントの右ウィンドウに表示するディレクト リを作成するかを指定します。この設定が (既定の) オフの場合、FTP クライアントは標準的な UNIX 形式のデータ表示を使用します。このオプションがオンの場合、FTP クライアントは構造化 されたデーター覧を使用します。

サーバに接続する時に「The system cannot find the path specified」(指定されたパスが 見つかりません)というエラーメッセージが表示される場合

このエラーは、FTP クライアントが存在しないローカルファイルパスを検索しようとしているこ とを示している可能性があります。コンピュータ上にフォルダパスが存在することを、ローカルの [ホーム] フォルダ 設定で確認してください。この設定を確認または編集するには、[サイトのプロ パティ] ダイアログボックスを開いて、[ディレクトリ] をクリックし、[ローカル] の [ホームフォル ダ] を見つけます。

詳細

ディレクトリ定義ウィザードの実行

9.6 Secure Shell のログファイル

Reflection では、最後に行った Secure Shell 接続に関する情報がログファイルに記録されます。次のどちらかの方法を使って、FTP クライアントのこのログを表示します。

- ・ログ記録を開始して ([ツール] [記録の開始])、ログ情報をファイルに送信します。
- ・FTP コマンドウィンドウを開いて (**[表示] [コマンドウィンドウ**])、画面にログを表示しま す。

∂ ×€

[記録内容]オプションを使用して、Secure Shellのログファイルにどの程度の情報を記録す るかを指定できます。この設定は、 [Secure Shellの設定] ダイアログボックスの [全 般] タブで行います。

9.7 FTP サイト間のファイル転送の問題解決

2 つのリモートホスト間でファイルを転送しようとした時に以下のいずれかのエラーメッセージが 表示された場合は、送信側または受信側のサーバがこの機能に対応するように設定されていない 可能性があります。

- ・500 Illegal PORT command (不正な PORT コマンドです)
- 501 IP address for data destination does not match client's (データの宛先の IP アドレスが クライアントのアドレスに一致しません)
- ・425 Can't open data connection (データ接続を開くことができません)
- 502 PASV command not implemented by this server (PASV コマンドがこのサーバによって 実装されていません)

FTP クライアントでこの問題が発生すると、エラーが受領されてから、まずローカル PC に、続い てターゲットサイトに転送を試行します。転送が正常に完了した場合でも、転送の完了前にエラー メッセージが表示されます。

サイト間の直接転送に対応していないサーバ間で頻繁に転送を行う必要がある場合は、すべてのサ イト間転送で最初にファイルをローカルマシンにコピーしてから転送先サーバにコピーするよう に FTP クライアントを設定できます。このように設定しておけば、上記のエラーメッセージが表 示されずにサイト間の転送を行うことができます。

すべてのサイト間転送で、最初にファイルをローカルコンピュータにコピーするには

1. [ツール] - [オプション] コマンドを選択します。

2. [ユーザ設定] タブで、[サイト間の転送を、強制的にローカルマシンを経由して行う] を選択して [OK] をクリックします。

サイト間の直接転送に対応するようにサーバを設定する詳細については、以下を参照してください。

送信サーバの設定

サイト間の転送機能では、バイナリファイルを送信する FTP サーバは、クライアントの IP とは異 なる IP アドレスへの PORT コマンドを Reflection FTP クライアントから受け付ける必要がありま す(サーバによっては、セキュリティ上の理由からこの対応機能を無効にしている場合がありま す)。PORT コマンドは、データの送信先の TCP PORT を指定します。この PORT コマンドの使用 を送信サーバが受け付けない場合、2 つのサーバエラーメッセージが表示されます。通常、送信 サーバから「500 Illegal PORT command」または「501 IP address for data destination does not match client's」が表示され、続いて受信サーバから「425 Can't open data connection」が表示さ れます。また、データの受信の前にファイルの索引が作成されるので、受信サーバ上に 0 バイト のファイルが作成されます。サイト間の転送を実行できるようにするには、送信サーバの管理者に 問い合わせて、別の IP アドレスへの PORT コマンドをサーバ上で有効にできるかどうかを確認し ます。

受信サーバの設定

サイト間の転送では、バイナリファイルを受信する FTP サーバは、Reflection FTP クライアント から PASV コマンドを受け付けて、送信サーバに渡す PORT 情報を返す必要があります。受信サー バが PASV コマンドを受け付けない場合、次のエラーメッセージが表示されてサイト間の転送は失 敗します。「502 PASV command not implemented by this server」。サイト間の転送を実行でき るようにするには、受信サーバの管理者に問い合わせて、PASV をサーバ上で有効にできるかどう かを確認します。

詳細

2つのリモートサイト間でのファイルの転送

9.8 FTP クライアントエラーメッセージ

以下に、表示される FTP クライアントのエラーメッセージの一覧を示し、その問題の対応策について説明します。

コマンドラインエラーです。サーバにコマンド (PWD、CD、DIR、LS、QUOTE <command> など) を発行しましたが、現在そのサーバにログインされていません。サーバに接続してください。

アクセスが拒否されました.

保護されたファイルやフォルダにはアクセスできません。実行を試みた操作に対する適切な権利 を持っていることを確認してください。

すでにサイトに接続されています。

コマンドラインエラーです。 OPEN または PASSTHRU コマンドを実行しましたが、サーバにすで にログインしています。 CLOSE コマンドを使用して現在の接続を切断してから、新しい接続を 行ってください。

接続がタイムアウトしました。

サーバへ接続した後、FTPクライアントは、サーバからの応答を最高 <n> 秒間待ちます。指定の 時間内に何も受信されなければ、このメッセージが表示されます。その場合は、もう一度接続し 直してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、接続待ち時間の値を増やし、ロ グイン時にサーバが応答する時間を延ばしてください。これを行うには、[接続] タブを開いて [待 ち時間 (秒)] の [接続] テキストボックスを編集するか、コマンドラインで SET TIMEOUT-CONNECT と入力します。

ホストアドレスを取得できませんでした。

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- ・サーバに対して入力したホスト名またはIPアドレスが無効です。ホスト名を入力し直して ください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく 入力してください。
- ・ホスト名は、HOSTSファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、サーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- ・ローカルネットワークの外部にあるFTPサーバまたはSFTPサーバに接続するためには、適切に構成されたIPルータ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、動作しているかどうかを確認してください。

コマンド <コマンド> には、これ以上の引数が必要です。

コマンドラインエラーです。入力したコマンドには、1 つ以上の引数が必要です。使用可能な FTP コマンドの一覧を表示するには、FTP コマンドラインに help と入力します。特定のコマン ドの構文を表示するには、 help <コマンド> と入力します。詳細は、オンラインヘルプを参照し てください。

ファイルがすでに存在しています。

クライアントへのファイル転送が失敗しました。これは、[**ファイル既存の場合に**]のファイル転 送モードが[**キャンセル**]に設定されている場合に、PC上にすでに存在する同名のサーバファイル を指定したためです。

メモリが不足しています。

ローカルコンピュータのメモリが不足しています。メッセージが示すように、現在実行している 他の不要な Windows アプリケーションを終了してから、もう一度試してみてください。

接続時間が切れました。

サーバに接続後、クライアントはデータパケットの送受信を\<n>秒待ちます。指定の時間内に何 も受信されなければ、このメッセージが表示されます。その場合は、もう一度接続し直してくだ さい。これを行うには、[接続] タブを開いて [待ち時間 (秒)] の [セッション] テキストボックスを 編集するか、コマンドラインで SET TIMEOUT-SESSION を使用します(接続待ち時間は別の [接続] テキストボックスで管理されます)。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。ログイン時のサーバ応答時間を長く設定 するには、この値を大きくします。

<コマンド>は、不明なコマンドです。「help」と入力してコマンドの一覧を表示してください。

コマンドラインエラーです。入力したコマンドは認識されません。使用可能な FTP コマンドの一 覧を表示するには、FTP コマンドラインに help と入力します。 特定のコマンドの構文を表示す るには、 help <コマンド名> と入力します。 またはコマンドの解説の項目を参照してください。

502 PASV command not implemented by this server (PASV コマンドがこのサーバによって実装されていません)

サーバがPASVに対応していないというエラーメッセージが表示される場合は、[パッシブモード を使用する]チェックボックスをオフにしてください。既定ではこの設定はオンになっています。 この設定は、一部のファイアウォールを介した接続に対応しています。

- ・サイトへの接続
- ・[接続] タブ ([サイト プロパティ] ダイアログボックス)
- ・コマンドの解説

9.9 Windows Sockets のエラーメッセージ

以下に、Reflection FTP クライアントセッションの実行時に表示される可能性のある Windows Sockets のエラーメッセージの一覧を示し、エラー状況の解決方法を説明します。Windows と使 用している TCP/IP スタック間にあるネットワークインタフェース層でエラーが発生すると、 Windows Sockets ライブラリによって次のエラーメッセージ (すべて「WINSOCK エラー:」で始ま る) が返されます。Windows Socketsライブラリ (Wsock32.dll というモジュールに入っています) は、Windowsオペレーティングシステムに含まれています。

ネットワーク製品の Windows Sockets の実装状態によっては、サーバに接続した際に、次に挙げ るいくつかの理由によってこのメッセージが表示されます。

- ・ファイル転送を開始しようとした場合、あるいはディレクトリ操作 (ディレクトリの変更または現在のディレクトリの更新など)を実行しようとした場合。ファイルを転送、またはディレクトリー覧を表示しようとした時にこのエラーメッセージが表示される場合は、使用しているネットワーク製品に FTP クライアントが対応していないということです。
- ・FTP クライアントをもう1つ起動し、同じサーバに接続しようとした場合。接続しようとした時にこのエラーメッセージが表示される場合は、使用しているネットワーク製品では、特定のサーバとの接続を一度に1セッションしか持てないことを示しています。この場合は、複数のFTP クライアントを起動し、別々に同じサーバに接続することはできません。

接続が拒否されました。

ホスト側の問題によって接続できませんでした。ホストが停止しているか、またはサーバが稼動していないことが考えられます。 しばらく待ってから、もう一度接続してみてください。

接続はピアによってリセットされました。

ファイルの転送中に、リモートホストがサーバ接続をリセットしました。サーバとの接続を切断し、接続し直してから、もう一度 転送してみてください。

接続時間が切れました。

ネットワークソフトウェアが接続を確立する前に、サーバへの接続待ち時間が切れてしまいました。サーバが稼動していない可能 性があります。しばらく待ってから、もう一度接続してみてください。

ネットワークがダウンしています。

Windows Socketsがネットワークサブシステムの障害を検出しました。ネットワークを再起動してください。

ネットワークに接続できません。

現時点では、このホストからネットワークに接続できません。このエラーは、IP ルータ (ゲートウェイ)を使用して、ローカル ネットワークの外部にあるサーバに接続しようとしている場合に発生します。このメッセージは、ゲートウェイから転送先のネッ トワークへの経路上に存在する IP ルータのいずれか 1 つが停止していることを示しています。ゲートウェイと転送先ネット ワークとの間をチェックできるシステム管理者に連絡してください。

バッファ空き領域がありません。

接続数が多すぎます。このエラーは、サーバへの接続、ファイル転送、またはサーバディレクトリの情報を要求している場合に発 生します。サーバへの他の不要な接続を終了するか、Windows Sockets を使用しているアプリケーションを閉じて、もう一度操 作を行ってみてください。ネットワークで構成されているバッファ容量を増やす方法については、ネットワーク製品に付属のマ ニュアルを参照してください。

この操作はソケットに対してサポートされません。

クライアントは、ファイル転送またはディレクトリー覧表示を実行する前に、データセッションを開かなければなりません。デー タセッションは、ネットワークの Windows Sockets の実装で開くことはできません。

ソフトウェアによって接続が中断されました。

サーバとの間でファイル転送を実行している間に、サーバ接続に使用されている仮想回線が、時間切れまたはその他の理由 (ホストが停止したか、FTPサーバまたはSFTPサーバが稼動していないなど) で強制終了されました。サーバとの接続を切断し、接続し 直してから、もう一度転送してみてください。

開かれているファイルの数が多すぎます。

この問題を解決するためには、Windowsを終了し、Config.sysファイルのFiles=の設定値を増やし、PCを再起動してください。 それでもまだこのメッセージが表示される場合は、開いている他の不要なクライアントセッションを終了して、もう一度接続して みてください。それでもこのメッセージが表示される場合は、Wsock32.dllの提供元にお問い合わせください。

詳細

FTPクライアントエラーメッセージ

以下の原因によってこのメッセージが表示されます。

- ・サーバに対して入力したホスト名またはIPアドレスが無効です。ホスト名を入力し直して ください。大文字と小文字を区別するサーバに接続する場合は、大文字と小文字を正しく 入力してください。
- ・ホスト名は、HOSTSファイルまたはドメインネームサーバを使って処理されます。ドメインネームサーバとして機能するコンピュータは動作していますか? PC 上の HOSTS ファイルは壊れていませんか? ドメインネームサーバまたは HOSTS ファイルを使用していなければ、ホストサーバの IP アドレスを完全な形で指定しなければなりません。たとえば、「124.24.36.85」のように指定してください。
- ・IPv6アドレスを入力しましたが、IPv6対応機能がPC上で有効になっていません。詳しく は、Microsoft にお問い合わせください。
- ・ローカルネットワークの外部にあるサーバに接続するためには、適切に構成されたIPルー タ (ゲートウェイ) がなければなりません。ルータとして機能するコンピュータが起動し、 動作しているかどうかを確認してください。

接続時間が切れました。

サーバの応答時間は、サイト間の距離に左右されます。サーバに接続しようとした時にこのメッ セージが表示される場合は、[接続待ち時間]の設定値を増やして、ログイン時のサーバの応答時 間を長くしてください。

接続時に Reflection FTP が停止します。

ー部のシステムでは、表示上の問題により接続時にReflection FTPが停止することがあります が、この問題は、アニメーションの表示 (ディレクトリー覧取得中に表示される、懐中電灯が振 られているアニメーションなど)をオフにすることで解決できます。アニメーションの表示をオ フにするには、[ツール]-[オプション] コマンドを選択し、[ユーザ設定] タブで [アニメーション を使用しない] をオンにします。

PWD コマンドにホストが応答しません。

既定では、サーバへの接続時にReflectionによってPWDコマンドが送信されますが、一部のサー バはこのコマンドに対応していません。サーバに接続する前に、[F7] キーを押してコマンドウィ ンドウを表示してください。Reflection が PWD コマンドを送信した後にエラーが返される場合 は、この設定をオンにしてみてください。接続時に PWD コマンドが送信されないようにするに は、、[**サイト プロパティ**] ダイアログボックスの [**ディレクトリ**] タブで、[**PWD コマンドを送信 しない**] をオンにしてください。

PASV がサーバによって実行されません。

既定では、クライアントはPASVコマンドを使用して接続します。このため、クライアントはディ レクトリー覧とファイル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確立します。これは、一部のファイ アウォールを介して接続する場合に必要です。サーバが PASV コマンドに対応していない場合 は、[サイト プロパティ] ダイアログボックスの [接続]]タブにある [passive モードを使用する] チェックボックスをオフにすることができます。

サーバがエラー「425 can't establish data connection」(データ接続を確立できません)を返す場合

サーバウィンドウまたはコマンドウィンドウにディレクトリー覧が表示されない場合は、サーバ がPASVコマンドに対応していない可能性があります。[**サイトのプロパティ**] ダイアログボックス の [接続] タブにある [**パッシブモードを使用する**] 設定をオフにしてみてください。

システムがパスを検出できません。

このエラーは、FTPクライアントが存在しないローカルファイルパスを検索しようとしているこ とを示している可能性があります。コンピュータ上にフォルダパスが存在することを、ローカル の [ホーム] フォルダ 設定で確認してください。この設定を確認または編集するには、[サイトの プロパティ] ダイアログボックスを開いて、[ディレクトリ] をクリックし、[ローカル] の [ホーム フォルダ] を見つけます。

10.FTP コマンドラインの使用

10.1 FTP コマンドラインの使用

- ・FTP コマンドウィンドウ
- ・コマンドウィンドウのクリア
- ・FTPコマンドラインの使用
- ・FTP および SFTP コマンド構文
- ・FTP または SFTP コマンド内の引用符

10.2 FTP コマンドウィンドウ

FTP クライアントコマンドウィンドウは、サーバとの間で送受信するデータを表示し、また FTP コマンドラインを含みます。 これによって FTP または SFTP コマンドを入力できます。[表示]>[コ マンドウィンドウ]を使って、コマンドウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

ウィンドウに表示されるクライアントとサーバ間の通信が区別できるように色分けされています。 例えば、Windows の既定色を使用している場合は、以下のようになります。

表示色	意味
black	サーバから受信したコマンド状況メッセージ (コマンド状況メッセージは、ク ライアントが送信した FTP コマンドまたは SFTP コマンドに対するサーバの 応答です)
薄い紺	FTP コマンドラインに入力された Reflection FTP または Reflection SFTP のコ マンド
濃い青	サーバから受信したデータチャネル応答で、通常はファイル一覧。接続が確 立された後、この色は推定されるサーバの種類を表示するためにも使われま す。
緑	FTP クライアント がサーバに送信しているクライアント FTP または SFTP コ マンド

表示色 意味

エラーメッセージ

ک ک

赤

- ・Windowsのコントロールパネルの画面の背景色が青、緑、黒、または赤に設定されている場合、クライアントは通信データ表示ウィンドウのテキストで使用する色を、ウィンドウの背景に対してよく見える色に変更します。サーバが受信したメッセージの表示色の既定値は、現在のWindowsのテキストの色になります。
- ・同じFTPクライアントウィンドウで2つのサイトに接続する場合、クライアントとサーバ 間の通信状態をコマンドラインで確認することはできますが、コマンドを入力すること はできません。2つ目のサーバとの間で送受信されるコマンドには、[サーバ2]という文 字列が先頭に付けられます。出力が複数行にわたる場合 (ディレクトリー覧や複数行のバ ナー表示など)、この文字列は最初の行にだけ付けられます。

説明

- ・FTPコマンドラインの使用
- ・コマンドウィンドウのクリア
- ・FTP および SFTP コマンド構文
- ・コマンドの解説

10.3 コマンドウィンドウのクリア

FTP クライアントコマンドウィンドウをクリアするには

コマンドウィンドウで右マウスボタンをクリックし、[**すべてクリア**]を選択します。

詳細

FTP コマンドウィンドウ

10.4 FTPコマンドラインの使用

FTP クライアントコマンドラインは、サーバと通信する手段の1つです。FTP コマンドラインに FTP または SFTP コマンドを入力して、FTP サーバと PC 間でファイルを移動することができま す。

・[表示] - [コマンドウィンドウ] をクリックしてコマンドウィンドウを開きます。

FTP コマンドラインがコマンドウィンドウの下部に表示されます。

コマンドを入力するには

- 1. コマンドラインをクリックするか、[Shift] + [F7] を押してカーソルをコマンドラインに移動します。
- 2. 接続の種類に従って、FTP または SFTP コマンドを入力します。
- 3. キーを押してコマンドを実行します。

FTP クライアントは、現在のセッションから最大 50 個のコマンドを保持します。コマンドライン の右側のドロップダウン矢印を使用して、この一覧からコマンドを呼び出すことができます。

∂ ×€

同じFTPクライアントウィンドウで2つのサイトに接続する場合、クライアントとサーバ間の通 信状態をコマンドラインで確認することはできますが、コマンドを入力することはできませ ん。2つ目のサーバとの間で送受信されるコマンドには、[[サーバ 2]]という文字列が先頭に付 けられます。出力が複数行にわたる場合 (ディレクトリー覧や複数行のバナー表示など)、この 文字列は最初の行にだけ付けられます。

説明

- ・FTP および SFTP コマンド構文
- ・FTP スクリプト
- ・コマンドの解説

10.5 FTP および SFTP コマンド構文

- ・FTP コマンドの索引
- ・SFTP コマンドの索引

FTP コマンドラインに入力するコマンドとキーワードでは、大文字と小文字を区別する必要はありません。しかし、FTP サーバコンピュータによっては、パスワード、ディレクトリ名、ファイル 名、および、その他のサーバ特有の情報で、大文字と小文字を区別する場合があります。

FTP クライアントは省略した形のコマンドを受け入れるため、他のコマンドと区別するために最 小限必要な 部分を入力するだけで済みます。例えば、 GET コマンドは G; と省略できます。した がって、サーバファイル jokes.old の内容を表示したい場合は、FTP コマンドラインに g jokes.old と入力します。

本ガイドのコマンドリファレンスでは、以下の規則が適用します。

- ・パラメータが山括弧(())で囲まれている場合、それらのパラメータは、コマンドに必ず追加しなければならない文字列であることを表わしています。例えば、
 <クラィアントファイル> は、特定のファイルを参照する完全なパスをユーザが入力しなければならないことを意味します。パラメータを入力する時には、山括弧を入力しないようにしてください。
- ・オプションを一度に1つだけ指定できる場合、それらのオプションは縦線で区切ります。 例えば、 <サーバ名> | <IP アドレス> は、どちらか一方のオプションを使用できますが、両 方を同時に使用することはできないことを意味しています。
- ・大括弧 ([]) で囲まれているパラメータは、オプションとして加えることのできるコマンドの 構成要素を示します。つまり、このような一対の大括弧で囲まれている情報は、いずれも 必要に応じてコマンドに入れることができますが、必須というわけではありません。以下 は、PC ディレクトリを指定してもしなくてもかまわない LCD コマンドの例です。

lcd [<pc ディレクトリ>]

- ・FTP または SFTP コマンド内の引用符
- ・FTP コマンドラインの使用
- ・FTP スクリプト
- ・FTPコマンドラインの使用

10.6 FTP または SFTP コマンド内の引用符

コマンドで引数が1つしか使用されない場合は、引用符は必要ありません。次に例を示します。

CD Travel Agents

複数の引数を使用するコマンドでは、空白を含む引数は二重引用符で囲む必要があります。例え ば、 Account History というサーバファイルを PC に転送し、 Accthist.txt という名前にする 場合、以下のコマンドを入力します。

GET "Account History" TO Accthist.txt

引数が二重引用符で始まる場合、引数のすべての二重引用符を二重にする必要があります。例え ば、「Remembering You」というサーバファイルを表示するには、以下のいずれかのコマンドを入 力します。

GET ""Remembering You""
11. FTP スクリプト

11.1 FTP スクリプト

FTP クライアント転送の自動化オプション

- ・FTP クライアントスクリプト
- ・スクリプトの記録
- ・スクリプトの実行
- ・スクリプトの編集
- ・FTP クライアントのスクリプトファイル形式
- ・スクリプトの収録機能で捕捉される操作
- ・スクリプト内のパスワードの機密保持
- ・エラー処理に使用するコマンド
- ・バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行
- ・スクリプトのログファイルを作成する場合

11.2 FTP クライアントスクリプト

FTP クライアントスクリプトによって自動的に接続およびファイル転送操作を実行できます。たと えば、サーバとの間でファイルを自動的に転送できます。FTP クライアントと直接に対話する必要 なしに自動転送を行うことができます。

スクリプトファイルは、一連の FTP (または SFTP) コマンドを納めた ASCII テキストファイルで す。コマンドは、1 行に 1 つずつ書きます。スクリプトは、スクリプト収録機能を使って作成でき ます。また、テキストエディタ (メモ帳など)を使っても、新しいスクリプトを作成したり、既存の スクリプトを変更できます。

FTPクライアントスクリプトの収録機能を使うと、操作がそのままコマンドとして収録され、プロ グラムを書くことなくスクリプトを作成し、後で再生することができます。スクリプトを使って、 ファイル転送オプションの設定、FTP サイトへの接続、ファイルの転送など、多くの作業を自動 化できます。

スクリプトを実行すると、スクリプトの中のコマンドは FTP コマンドラインから入力した時と同じように実行されます。

- ・スクリプトの記録
- ・スクリプトの実行
- ・スクリプトの編集
- ・FTP クライアントのスクリプトファイル形式

11.3 スクリプトの記録

FTPクライアントスクリプトの収録機能を使うと、操作がそのままコマンドとして収録され、プロ グラムを書くことなくスクリプトを作成し、後で再生することができます。スクリプトを使って、 ファイル転送オプションの設定、FTP サイトへの接続、ファイルの転送など、多くの作業を自動 化できます。

スクリプトを記録するには

- 1. [スクリプト] [収録の開始] コマンドを選択します。
- 1. スクリプトの収録機能を使用中は、ステータスバーにビデオカメラのアイコンが表示されま す。
- 2. 記録する操作を実行します。
- 3. [スクリプト] [収録の終了] コマンドを選択します。
- 4. [**スクリプトの保存**] ダイアログボックスの [**ファイル名**] ボックスに、スクリプトの名前を入力 します。
- 4. スクリプトファイルの既定の拡張子は .rfs です。
- 5. [保存] をクリックします。

∀×€

同じセッション内で2つのサイトに接続している場合、スクリプトは収録できません。

- ・スクリプトの実行
- ・スクリプトの編集
- ・スクリプトの収録機能で捕捉される操作
- ・FTP スクリプト

11.4 スクリプトの実行

1. [スクリプト] - [スクリプトの実行] コマンドを選択します。

2. [スクリプトの実行] ダイアログボックスから、実行するスクリプトを選択します。

3. [開く]をクリックして、選択したスクリプトを再生します。

詳細

- ・バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行
- ・スクリプトのログファイルを作成する場合
- ・FTP クライアントスクリプト

11.5 スクリプトの編集

- 1. [スクリプト] [スクリプトの編集] コマンドを選択します。
- 2. [スクリプトの編集] ダイアログボックスから、編集するスクリプトを選択します。
- 3. [開く]をクリックして、ファイルをメモ帳で開きます。

- ・FTP クライアントのスクリプトファイル形式
- ・スクリプト内のパスワードの機密保持
- ・エラー処理に使用するコマンド
- ・FTP クライアントスクリプト

11.6 FTP クライアントのスクリプトファイル形式

スクリプトファイルは、一連の FTP (または SFTP) コマンドを納めた ASCII テキストファイルで す。

- ・コマンドは、1行に1つずつ書きます。
- ・コマンドの前に空白やタブを挿入してもかまいません。
- ・コメントにはセミコロン文字 (;) を使用します。FTP クライアントはコメントのテキストを 無視します。

また、コメントを使用してコード行の内容を説明できます。次に例を示します。

```
;Las líneas siguientes conectan con el servidor y cambian
;los directorios de trabajo a PREIMPRENTA (cliente) y
;a IMPRENTA (servidor). open forum thomasp XOYRCNEL973L9L9603760NM0770L35L7NM087PM79
lcd c:\prepress
cd /press
```

コメントは、コマンドの後に追加することもできます。次に例を示します。

```
set transfer-disposition unique \ ; do not overwrite files mput script is s*.doc \ ; copy the .DOC files
```

ନ ଜ ×∓

セミコロンは、-Bオプションを使ってsftpコマンドに提供されたスクリプト内のコメントには 使用できません。これらのバッチファイル内のコメントに印を付けるには、番号記号 (#)を使 用します。

- ・スクリプトの編集
- ・スクリプト内のパスワードの機密保持
- ・エラー処理に使用するコマンド
- ・FTP クライアントスクリプト

11.7 スクリプトの収録機能で捕捉される操作

スクリプトの収録機能がオンになっている間に実行される接続およびファイル転送処理はほとん ど収録されますが、グラフィカルユーザインタフェース (GUI)を使った構成オプションの変更な ど、収録されないものもあります。ファイル転送と文字変換の構成をスクリプトに収録するには、 コマンドラインに SET パラメータを入力するか、スクリプトを編集して SET パラメータを追加 します。

γ ×€

同じセッション内で2つのサイトに接続している場合、スクリプトは収録できません。

次の各操作によって FTP スクリプトコマンドが収録されます。

- ・コマンドウィンドウ内に入力されたすべてのコマンドが収録されます。
- ・グラフィカルユーザインターフェイス (GUI) を使って実行するファイル操作。どの FTP コ マンドが収録されたか確認するには、次の表を参照してください。

FTP コマン ド	GUI 操作
OPEN	FTP サイトを開く ([開く] ツールバーボタンまたはメニューを使用)
閉じる	FTP サイトを閉じる
CD	サイト画面のフォルダをクリック (または [フォルダへ移動] ダイアロ グボックスを使用)
LCD	ローカル画面のフォルダをクリック
DELETE*	サイト画面のファイルを削除
LDEL*	ローカル画面のファイルを削除
RDALL*	サイト画面のフォルダを削除
LRDALL*	ローカル画面のフォルダを削除
メリーラン ド	サイト画面にフォルダを作成
LMD	ローカル画面にフォルダを作成
GET*	サイト画面からローカル画面へファイルをドラッグ
< [なし] >	サイト画面から [Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュータ] フォルダにファイルをドラッグ
CPDIR*	サイト画面からローカル画面へフォルダをドラッグ
< [なし] >	サイト画面から [Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュータ] フォルダにフォルダをドラッグ
PUT*	ローカル画面からサイト画面へファイルをドラッグ
PUT*	[Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュー タ] フォルダからサイト画面へファイルをドラッグ
LCPDIR*	ローカル画面からサイト画面へフォルダをドラッグ

FTP コマン ド	GUI 操作
LCPDIR*	[Windows エクスプローラ]、[デスクトップ]、または [マイコンピュー タ] フォルダからサイト画面へフォルダをドラッグ

* 複数回選択するとこのFTPコマンドが複数回実行されます。

γ×€ ・open <servername> <username> <password> コマンドを入力した場合、 <password> が、難読化されたテキストとしてスクリプトファイルに保存されます。例: open ftp.myco.com joe WPD61190003929K14806KN70652L0739LL00875N440274 ・コマンドの入力時にサーバがエラーメッセージを返す場合、そのエラーメッセージはス クリプトのコメント行として記録されます。例: cd /users/bobc ; 550 /users/bobc: このようなファイルまたはディレクトリはありません。

詳細

- ・コマンドの解説
- SET
- ・スクリプトの記録

・FTP クライアントスクリプト

11.8 スクリプト内のパスワードの機密保持

スクリプトに、FTP 接続を確立するためのパスワードを含めることができます (SFTP 接続の場合 はできません)。テキストエディタを使ってスクリプトを作成する際に、スクリプトに OPEN コマ ンドを完全な形式 (open <servername> <username> <password>) で組み込むか、あるいは PASSTHRU コマンドを組み込む場合、手動で追加するパスワードは、エディタ内では普通のテキ スト文字として表示されます。パスワードの機密性を強化するために、次に挙げるいずれかの方法 を使用してください。

- ・スクリプト収録機能を用いて、サーバへの接続を収録します。パスワードは、難読化され たテキストとしてスクリプトファイルに保存されます。スクリプトが実行され、接続が行 われると、クライアントはパスワードを解読し、それをサーバに送信します。
- ・スクリプトを編集して、OPEN コマンドの最後のパラメータである <パスワード> パラメー タを削除します。OPEN コマンドの構文は、open <servername> <username> でなければな りません。その後、スクリプトが実行され、接続が行われると、クライアントはパスワー ドの入力を求めるメッセージを表示します。また、<ユーザ名> パラメータを省略すること もできます。省略すると、クライアントはユーザ名とパスワードの両方の入力を求めるメッ セージを表示します。

- ・スクリプトの記録
- ・スクリプトの編集
- ・FTP クライアントのスクリプトファイル形式
- ・FTP クライアントスクリプト

11.9 エラー処理に使用するコマンド

スクリプトファイル内に CONTINUE コマンドを組み込むと、ワイルドカードを使用してファイル の転送やローカルファイルの削除を行う時にエラーが発生した場合、どのように処理すればよい かを FTP クライアントに指示できます。CONTINUE を ON に設定すると、エラーが発生しても、 ワイルドカードの指定を満たすファイルがすべて転送されるか削除されるまで、ファイルの転送や ローカルファイルの削除が引き続き行われます。一方、CONTINUE を OFF に設定すると、転送や 削除などの操作はエラーが発生した時点で打ち切られます。また、ABORT-ON-ERROR を NO に設 定していないかぎり、エラーが発生するとスクリプトファイルの実行も停止されます。

ABORT-ON-ERROR パラメータは、コマンドの実行でエラーが発生した場合に、スクリプトの実行 を停止するかどうかを指定します。ABORT-ON-ERROR が YES に設定されている場合は、コマン ド実行の結果として FTP クライアントまたはサーバからエラーが返されると、いつもスクリプト の実行が中止されます。

ABORT-ON-ERROR を NO に設定する場合は、特に注意が必要です。エラーの後で続けてコマンドを実行すると、予期せぬ結果を招くことがあります。

- ・コマンドの解説
- CONTINUE
- ・スクリプトのログファイルを作成する場合
- ・既存のファイルの処理方法(転送モード)

11.10 バックグラウンドタスクとしてのスクリプトの実行

次の手順で、FTP クライアントがユーザとのやりとりなしでバックグラウンドで実行されるよう に、スクリプトを作成して、FTP クライアントを構成することができます。手順は次のとおりで す。

- ・ショートカットを作成して起動コマンドが自動的にスクリプトを実行するようにします。 [実行] ボックスで [最小化] を選択して、FTP クライアントがデスクトップ上で最小化された 状態で実行されることを指定します。
- ・特定のサイトに接続するために必要なユーザ名、パスワード、中継設定が保存されている サイトに接続するスクリプトを使用します。これによって、クライアントが接続情報を要求 する必要がなくなります。
- ・QUIT コマンドを組み込むと、スクリプトが完了した時にクライアントを終了させることが できます。
- ・次のSET パラメータを使って、クライアントのメッセージとプロンプトが表示されないようにします。

設定	使用法
QUIET-STATUS	YES に設定して接続と転送の進行状況ダイアログボックスと ディレクトリ定義ウィザードが表示されないようにします。
SMART-TYPE- DEFAULT	ASKUSER に設定しないでください。ASKUSER に設定する と、未定義の拡張子を持つファイルの転送時にその転送方式を ユーザに尋ねることになります。
TRANSFER- DISPOSITION	PROMPT に設定しないでください。PROMPT に設定すると、 転送先に存在するファイルの処理方法をユーザに尋ねること になります。
CONFIRM-DELETE	NO に設定し、フォルダまたはファイルを削除する前にユーザ に確認しないようにします。
RESUME- PARTIAL- TRANSFERS	ASKUSER に設定しないでください。ASKUSER に設定する と、クライアントは未完了のサーバファイルのダウンロードを 検出した場合に、その転送を再開するかどうかをユーザに尋ね ます。

- ・スクリプトの実行
- ・FTP クライアント設定の保存
- ・サイトに接続するショートカットの作成
- ・FTP クライアント起動スイッチ
- ・起動時にスクリプトファイルを実行する
- SET

11.11 スクリプトのログファイルを作成する場合

スクリプトファイルを実行する起動コマンドを使ってクライアントを起動する場合には、実行され たコマンドの結果の記録を保存するログファイルを作成するようにクライアントに指示するコマ ンドラインスイッチを含むことができます。

クライアントアプリケーション内からスクリプトファイルを実行してログファイルを作成するに は、[**ツール**] - [記録の開始] コマンドを選択してから、[スクリプト] - [スクリプトの実行] コマンド をクリックします。

FTP オートメーション API を使用して FTP クライアントアプリケーションを制御する場合、 StartLog メソッドと StopLog メソッドを使用して記録を制御できます

- ・FTP クライアント起動スイッチ
- ・起動時にスクリプトファイルを実行する
- ・FTP クライアント転送の自動化オプション

12. コマンドの解説

12.1 コマンドの解説

コマンドライン上およびスクリプト内で使用可能なコマンドは、行った接続の種類によって異な ります。

🌢 ヒント

コマンドトピックを開いたとき、トピックの上部でどの一覧がリンクされているかを調べるこ とによって、コマンドがFTPまたはSFTPもしくはその両方で利用可能かどうかがわかります。

このセクションの内容

- ・FTP コマンド
- ・SFTP コマンド

12.2 FTP コマンド

12.2.1 FTP コマンド

この一覧のコマンドは、FTP クライアントのコマンドラインまたはスクリプトで使用できます (Secure Shell SFTP 接続の場合は、この一覧のコマンドではなく、SFTP コマンドを使用します)。 次のリンクを使用して、コマンドの詳しい説明を表示することができます。

使用可能なコマンド:

- ACCOUNT
- APPEND
- [ASCII]
- BINARY
- CD
- CHMOD
- CLOSE
- CONNECT
- CONTINUE
- CPDIR
- DELETE
- DIR
- 接続解除
- DISPLAY
- ・終了
- GET
- HELP
- LCD
- LCPDIR
- LDEL
- LDIR
- LMD
- LRD
- LRDALL
- LRENAME
- LS
- LTYPE
- ・メリーランド
- MDEL
- MGET
- MPUT
- OPEN
- PASSTHRU

- PUT
- PWD
- QUIT
- QUOTE
- RD
- RDALL
- REGET
- RENAME
- SET

SET パラメータの解説

SETパラメータとそれに対応するインタフェース設定

サイト固有のファイル転送用 SET パラメータ

ASCII-SERVER-TYPE SET パラメータの値

NATIONAL-REPLACEMENT-SET パラメータの値

ABORT-ON-ERROR Script Sample

- SITE
- SMART
- ・システム
- TENEX
- TYPE
- VERIFY

12.2.2 ACCOUNT

構文: account <アカウント名>

FTP コマンドの索引

サーバによっては (例えば、一部の IBM FTP サーバなど)、ユーザが利用しようとしているアカウ ントの名前を要求するものがあります。このようなサーバでは、アカウント名を入力しないかぎ り、ファイルを操作することはできません。Reflection FTPの OPENコマンドに< アカウント >パラ メータを付けてサーバに接続する場合は、ログインの際にサーバがアカウンの入力を求めるメッ セージを表示しないかぎり、アカウント名は実際にはサーバに送信されません。サーバがアカウ ント名を必要としていても、ログインの際にその名前を要求しない場合は、ACCOUNT コマンドを 使用して、利用したいアカウントをサーバに明確に通知してください。

ログインしたユーザが利用できるアカウントを指定し
ます。大文字と小文字を区別するサーバでは、アカウ
ントを指定する際に大文字と小文字を正しく入力して
ください。

12.2.3 APPEND

構文: append <クライアントファイル> [to] [<サーバファイル>]

FTP コマンドの索引

APPEND コマンドは、ファイルを FTP サーバに送信し、それを現在のサーバファイルに追加しま す。既存のサーバファイルがない場合は、このコマンドを実行すると、PUT コマンドと同じよう に機能し、サーバに新規のファイルを作成します。

<クライア FTP サーバに送信する PC ファイルを指定します。 ントファ イル>

to <サー	PC ファイルを追加するサーバファイルを指定します。このオプションを省略
バファイ	すると、PC ファイルの内容は、PC ファイルと同じ名前を持つサーバファイ
16>	ルに追加されます。指定されたサーバファイルがない場合は、新たに作成さ
	れます。キーワード TO は省略してもかまいません。

例

以下のコマンドは、PC ファイルを同じ名前のサーバファイルに追加します。

APPEND WHATSNEW.DOC

このコマンドは、PC ファイルを指定さたサーバファイルに追加します。

APPEND WHATSNEW.DOC TO DOCUMENT.TXT

12.2.4 CLOSE

構文: close

FTP コマンドの索引

CLOSE コマンドは、FTP サーバへの接続を切断します。

CLOSE の代わりに、EXIT または QUIT を使用することもできます。

12.2.5 CONNECT

構文: connect [<サーバ名>]

FTP コマンドの索引

CONNECT コマンドは、FTP サーバへの接続を確立します。サイトを指定しなかった場合は、サイト指定用のダイアログボックスが表示されます。OPEN と異なり、このコマンドでは、ユーザ名とパスワードの入力は求められません。ユーザ名とパスワードは、手動で入力する必要があります。 例えば、以下の一連のコマンドは、中継サーバ (ファイアウォール) を介さずに FTP サーバに接続します。

CONNECT <サーバ> USER <ユーザ名> PASS <パスワード>

パスワードはコマンドウィンドウに直接入力するため、画面上にそのまま表示されることに注意 してください。OPEN コマンドではパスワード入力用のダイアログボックスが表示され、画面上に パスワードがそのまま表示されることはないため、通常は OPEN コマンドを使用することをお勧 めします。CONNECT コマンドは、ファイアウォールを介した接続で問題を調査する場合に使用し てください。

12.2.6 CONTINUE

構文: continue [on | off]

FTP コマンドの索引

CONTINUE コマンドは、FTP コマンドラインで実行されたワイルドカードによるファイル転送の 最中に発生したエラーを無視するように、Reflection FTP に指示しま。この場合は、エラーが発生 しなかったかのように、ワイルドカードに一致するすべてのファイルが転送されるまで、ファイル 転送が続行されます。

引数を持たない **CONTINUE** は、次に続く MGET または MPUT コマンドに対するエラーだけを無視 するように指定します。

CONTINUE コマンドは、MGET ブロックまたは MPUT ブロックを構成するコマンド (LIST、 GET、PUT、CD など) にのみ適用されます。これらのコマンドのいずれかでエラーが発生した場 合、スクリプトは、MGET ブロックまたは MPUT ブロックを構成するコマンドの全体を完了して から停止します。スクリプトから後続のコマンドを処理できるようにするには、SET ABORT_ON_ERRORをNOに変更します。

CONTINUE コマンドは、ドラッグ&ドロップのファイル操作には適用されません。

の間で、あたかも次に行われるすべての MGET および MPUT コマンドの前に日付がCONTINUE コマンドを実行したかのように、ファイル転送中に発生したすべ
てのエラーを無視するよう Reflection FTP に指示します。

off

on オプションの指定を取り消します。

例

以下のコマンドは、次の MPUT コマンドで発生するすべてのエラーを無視するように Reflection FTP に指示します。[CONTINUE]がない場合、転送時にエラーが発生すると、MPUTコマンドの実行は中断されます。

CONTINUE MPUT ACCT*.TXT

その他の例については、ABORT_ON_ERROR Script Sampleを参照してください。

12.2.7 CPDIR

構文: cpdir <サーバディレクトリ> [<PC のパス>] [askuser | cancel | overwrite | skip]

FTP コマンドの索引

CPDIR コマンドは、指定したサーバディレクトリを PC にコピーします。PC ディレクトリが指定 されていない場合、サーバディレクトリは現在の PC パスにコピーされます。

サーバディレクトリ	サーバディレクトリの名前を指定します。
PC のパス	PC ドライブおよびホルダを指定します。

askuser cancel	ターゲットフォルダがすでに存在する場合にどうするか
overwrite skip	を指定します。ASKUSER は既定値です。

12.2.8 DELETE

構文: delete <サーバファイル>

FTP コマンドの索引

DELETE コマンドは、FTP サーバ上にある特定のファイル指定と一致するファイルを削除します。

∀ ×€

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバ	削除するサーバファイルの名前を指定します。ファイルへの完全なディレクト
ファイル	リパスを指定することもできます。UNIX FTP サーバのような一部のシステム
>	では、ディレクトリやファイル名を指定する際に大文字/小文字の区別が重要
	になります。

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリから MEMO.DOC を削除します。

DELETE MEMO.DOC

次のコマンドは、UNIX FTP サーバの /<ユーザ名>/jill jones ディレクトリから budget.new ファイ ルを削除します。

DELETE /<ユーザ名>/jill jones/budget.new

12.2.9 DIR

構文: dir [<サーバファイル指定>]

FTP コマンドの索引

DIR コマンドは、特定のファイル指定と一致するサーバファイルの詳細な一覧を表示します(LS コ マンドはサーバファイルの簡易情報を表示します)。

<サーバ	FTP サーバ上のディレクトリ、ファイル、またはファイルグループを指定し
ファイル	ます。このオプションを使用しない場合は、現在のサーバディレクトリの内
指定>	容が表示されます。 <サーバファイル指定> の構文は、FTPサーバによって異な
	ります。

例

次のコマンドは、VAX/VMS 上の FTP サーバの現在のディレクトリにある実行可能ファイルの一覧 を表示します。

DIR *.EXE

12.2.10 接続解除

構文: disconnect

FTP コマンドの索引

DISCONNECT コマンドは、FTP サーバへの接続を切断します。

DISCONNECT の代わりに、CLOSE、EXIT、または QUIT を使用することもできます。

12.2.11 DISPLAY

構文: display <文字列>

FTP コマンドの索引

DISPLAY コマンドは、FTP サーバから受信したかのように、データをコマンドウィンドウに表示 します。

<文 <文字列> パラメータは、どのような文字列でもかまいません。

字列

文字列は1行ごとに表示されます。指定された文字列が長くて、Reflection FTP ウィンドウ内に入りきらない場合、文字列は次の行に折り返されず、文字列の末 尾にある文字は表示されません。例えば、ウィンドウの幅が50桁で <文字列>の長 さが60文字の場合は、文字列の最後の10文字は表示されません。

例

DISPLAY コマンドを使用して、現在行われているプロセスに関するメッセージや覚え書きを表示 することができます。例えば、以下のコマンドを実行すると、次にログインが実行されるというこ とを示すメッセージを表示します。

DISPLAY Next process is logon to bigben.timer.london

12.2.12 HELP

構文: help [<コマンド>]

FTP コマンドの索引

HELP コマンドは、Reflection FTP コマンドに関する簡単な説明を表示します。FTP コマンドラインに HELP <コマンド> と入力すると、特定の FTP コマンドに関する情報が表示されます。説明なしで FTP コマンドを一覧表示するには、コマンドラインに HELP と入力します。

多くの FTP サーバでは、コマンドラインに QUOTE HELP と入力して、サーバが認識するコマンドの一覧を表示することができます。 QUOTE HELP <コマンド> と入力すると、そのコマンドの詳細情報を得ることができます。詳細については、QUOTE を参照してください。

🖓 🗴 E

HELPコマンドは、SFTP接続を行った場合でもFTPコマンドの一覧を表示します。SFTP セッション中に利用可能なコマンドの一覧については、ここをクリックしてください。

12.2.13 LCPDIR

構文: lcpdir <pc ドライブ/フォルダ> [<サーバフォルダ>] [askuser | cancel | overwrite | skip]

FTP コマンドの索引

LCPDIR コマンドは、指定した PC のフォルダをサーバにコピーします。サーバのフォルダが指定 されていない場合は、PC のフォルダは現在のサーバのパスにコピーされます。

pc ドライブ\フォルダ	ローカルフォルダを指定します。ファイルまたはパスが空白を 含む場合、引用符を使用します。例: lcpdir "d:\Asian Travel\China"
<サーバフォルダ>	ローカルフォルダを指定します。

askuser cancel	サーバ上にターゲットフォルダがすでに存在する場合にどうす
overwrite skip	るかを指定します。ASKUSER は既定値です。

12.2.14 LDEL

構文: ldel <pc ファイル指定>

FTP コマンドの索引

LDEL コマンドは、PC 上にある指定したファイルを削除します。ワイルドカードはサポートされ ていません。

∂ ×€

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<pc th="" ファイル<=""><th>削除する PC ファイルの名前を指定します。ファイル指定にファイルへ</th></pc>	削除する PC ファイルの名前を指定します。ファイル指定にファイルへ
指定>	の絶対パスを入れることができます。

例

次のコマンドは、PC 上の European Travel フォルダ内の France フォルダから Map.bmp ファイル を削除します。

LDEL \European Travel\France\map.bmp

12.2.15 LDIR

構文: ldir <pc ファイル指定>

FTP コマンドの索引

LDIR コマンドは、ファイル指定の条件に一致する PC ファイルの一覧を表示します。

<pc ファイ PC 上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。こ ル指定> のオプションを使用しない場合は、現在の PC フォルダの内容が表示され ます。

例

次のコマンドは、指定した PC のフォルダにある、OLD DATA という名前で何らかの拡張子を持つ ファイルをすべて一覧表示します。

LDIR D:\Results\Old Data.*

12.2.16 LMD

構文: 1md <pc ディレクトリ>

FTP コマンドの索引

LMD コマンドは、PC 上に新しいフォルダを作成します。

<pc フォル フォルダを作成するドライブ (現在のドライブ以外に作成したい場合) と ダ> フォルダ名を指定します。

例

次のコマンドは、現在の PC ドライブにフォルダ MUSIC を作成します。

LMD \Music

12.2.17 LRD

構文: 1rd <pc ディレクトリ>

FTP コマンドの索引

LRD コマンドは、PC フォルダとそのフォルダ内のすべてのフォルダとファイルを削除します。 LRD の同義語として LRDALL を使用できます。

♀ メモ SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

 <pc フォル</td>
 削除するディレクトリの場所と名前を指定します。 <フォルダ> の指定は、

 ダ>
 PCの規則に準じます。

例

次のコマンドは、J ドライブ上の CASES フォルダから TRIAL DATES フォルダを削除します。

LRD J:\Cases\Trial Dates

12.2.18 LRDALL

構文: lrdall <pc フォルダ>

FTP コマンドの索引

LRDALL コマンドは、PC フォルダとそのフォルダ内のすべてのフォルダとファイルを削除します。

LRDALL の同義語として LRD を使用できます。

∂ ×€

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<pc フォルダ> 削除するディレクトリの場所と名前を指定します。

例

次のコマンドは、J ドライブ上の CASES フォルダから TRIAL DATES フォルダを削除します。

LRD J:\Cases\Trial Dates

12.2.19 LRENAME

構文: lrename <pc filename> <new filename>

FTP コマンドの索引

LRENAME コマンドは、ローカルファイル名を指定された新しい名前に変更します。

変更したい PC ファイル名を指定します。この指定にはこのファイルが保存さ
れている PC ドライブとフォルダ名を含むことができます。ファイルの場所や
ファイル名に空白が含まれている場合は、ファイル名を二重引用符で囲まな
ければなりません。例えば、 "D:\To do\Work assignments" です。

<新規	新しいファイル名を指定します。名前を変更するファイルが使用中のローカル
ファイル	ドライブとフォルダにない場合は、その保存場所を <新規ファイル名> に含む
名>	ことが必要です。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用しま
	す。例: "D:\To do\Work assignments"

例

次のコマンドは、C ドライブ上の現在のフォルダから D ドライブ上の ARCHIVE フォルダ内のファ イル名を Stories.txt から Fairy tales に変更します。

LRENAME D:\Archive\Stories.txt "D:\Archive\Fairy tales"

12.2.20 LTYPE

構文: ltype <クライアントファイル>

FTP コマンドの索引

LTYPE コマンドは、FTP コマンドウィンドウに PC ファイルの内容を表示します。

<クライアントファ	PC ファイルの場所と名前を指定します。	ワイルドカードで指定す
イル>	ることはできません。	

例

次のコマンドは、PC の J ドライブの SUBJECTS フォルダにあるファイル COM.doc の内容を表示 します。

LTYPE J:\Subjects\Com.doc

12.2.21 メリーランド

構文: md <サーバフォルダ>

FTP コマンドの索引

MD コマンドは、サーバ上に新しいフォルダを作成します。

<サーバフォルダ> 新しいフォルダの名前と場所を指定します。

例

次のコマンドは、FTP UNIX サーバドライブの現在のフォルダに Films というフォルダを作成します。

MD Films

12.2.22 MDEL

構文: mdel <サーバファイル指定>

MDEL コマンドは、ファイル指定の条件に一致する 1 つまたは複数のファイルを FTP サーバから 削除します。

MDEL は、サーバワイルドカード文字を使って複数のファイルをサーバから削除できる点で、 DELETE とは異なります。FTP サーバが複数ファイルを削除するためのワイルドカードに対応して いる必要があります。

∂ ×€

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバ	1 つまたは複数 (サーバワイルドカードを使用する場合) のサーバファイルを
ファイル	指定します。ファイルへの完全なディレクトリパスを指定することもできま
指定>	す。UNIX FTP サーバのような一部のシステムでは、ディレクトリやファイル
	名を指定する際に大文字/小文字の区別が重要になります。

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリからすべてのファイルを削除します。

MDEL *

次のコマンドは、名前が「.htm」で終わるすべてのファイルを現在のサーバディレクトリから削除 します。

MDEL *.htm

例については、ABORT_ON_ERRORスクリプトサンプルを参照してください。

12.2.23 OPEN

構文: open [<サーバ名> [<ユーザ名> [<パスワード> [<アカウント>]]]]

FTP コマンドの索引

OPEN コマンドは、FTP サーバに接続し、指定されたサーバ名、ユーザ名、およびパスワードを使用してログインを試みます。大文字と小文字を区別するサーバでは、パラメータの値に大文字と小文字を正しく入力してください。OPEN コマンドでパラメータが指定されていない場合、ログイン情報を入力するように要求されます。

1 つのパラメータだけある場合、パラメータは、 <サーバ名> でなければなりません。2 番目のパラ メータを追加する場合、そのパラメータは、 <ユーザ名> でなければなりません。3 つのパラメータ を使用する場合、3 番目のパラメータは、 <パスワード> でなければなりません。

∂ ×€

中継サーバを使用してFTPサーバへログインする場合は、PASSTHRUコマンドを使用してサー バへ接続してください。

<サーバ名>	サーバを指定します。これは、IP アドレス、URL、ま たはホストファイルからの名前にできます。
<username></username>	現在の FTP サーバに登録されている有効なユーザ名を 指定します。anonymous 接続時には、ユーザ名は通常 「anonymous」となります。
<パスワード>	<ユーザ名> のユーザに割り当てられたパスワードを指 定します。ほとんどの anonymous FTP サーバでは、パ スワードに自分の電子メールアドレスを入力するよう になっています。

<アカウント>	ユーザ <ユーザ名> が利用できるアカウントを指定しま す。通常 anonymous FTP サーバは、アカウントの入力 を要求しないので、このパラメータは無視してもかま いません。
	<アカウント> パラメータを含む OPEN コマンドを実行 すると、ログインの際にサーバがアカウントの入力を 求めるメッセージを表示しないかぎり、アカウント名 はサーバに送信されません。サーバがアカウント名を 必要としていても、ログインの際にその名前を要求し ない場合は、ACCOUNT コマンドを使用して、利用した いアカウントをサーバに明確に通知してください。

例

次のコマンドは、FTP サーバに anonymous で接続し、パスワードとして電子メールアドレスを指 定します。

OPEN ftp.acme.com anonymous jackie@mycompany.com

次のコマンドは、ユーザ Jackie を Headquarters FTP サーバに接続します。パスワードパラメータ は指定されていないため、ログイン時にパスワードを入力するように求められます。

OPEN Headquarters Jackie

12.2.24 PASSTHRU

構文1: passthru <中継サーバ名> <ユーザ名>@<サーバ名> <パスワード>

構文2:

passthru <中継サーバ名> <中継ユーザ名> <中継パスワード> <ユーザ名>@<サーバ名> <パスワード>

構文3:

passthru <中継サーバ名> <中継ユーザ名> <中継パスワード> <サーバ名> <ユーザ名> <パスワード>

FTP コマンドの索引

PASSTHRU コマンドは、指定された中継サーバを使用して FTP サーバへ接続します。2 種類の中継サーバに対応しています。Reflection FTP は、指定された PASSTHRU コマンドの構文に基づいて、それぞれ別のコマンドを送信して中継サーバにログインし、FTP サーバに接続します。

どの形式の PASSTHRU コマンドを使用する場合でも、すべてのパラメータを指定する必要があり ます。パラメータに "" (ヌル値) を指定すると、その値を入力するように求めるダイアログボックス が表示されます。大文字と小文字を区別するサーバでは、パラメータの値に大文字と小文字を正し く入力してください。

ନ୍ଧ 🖓

PASSTHRUコマンドを使用して接続するFTPサーバにアカウント名が必要な場合は、ACCOUNT コマンドを使用して、使用したいアカウントをFTPサーバに通知してください。

構文1

中継サーバが中継パスワードを必要としない ユーザ名@サーバ名 スタイルのサーバである (認証を行わない) 場合は、この形式の PASSTHRU コマンドを使用してください。

この形式のPASSTHRUコマンドは、 <中継サーバ名> で指定された中継サーバに、現在のFTPサーバのユーザ名とサーバ名を username@servernameの形式で送信します。中継サーバは、この情報を用いて指定された FTP サーバへ接続します。

<中継サーバ名>	中継サーバの接続名を指定します。FTP クライアント
	で中継サーバ名の指定を求めるには、このパラメータ
	に "" (ヌル値) を指定します。
<ユーザ名>@<サーバ名>	引数の <ユーザ名> 部分に、FTP サーバに登録された有 効なユーザ名を指定します。
---------------	--
	引数の <サーバ名> 部分に、FTP サーバの接続名を指定 します。

<パスワード>	FTP サーバ上のユーザ <ユーザ名> に割り当てられたパ
	スワードを指定します。FTP クライアントでユーザの
	パスワードの指定を求めるには、このパラメータに ""
	(ヌル値) を指定します。

構文2

この形式の PASSTHRU マンドは、ユーザ名@サーバ名 形式の中継サーバが、FTP サーバへ接続する前に中継サーバでユーザを認証するように設定されている場合に使用してください。

この形式の PASSTHRU コマンドを使用すると、FTP サーバへ接続する <ユーザ名@サーバ名> 形式の 中継サーバにログインすることができます。このコマンドは、 <中継サーバ名> で指定された中継 サーバにログインします。ログインコマンドは、 <中継ユーザ名> と <中継パスワード> に基づいて、 中継サーバのユーザ名とパスワードを提供します。中継サーバ上で一度ユーザが認証されると、 FTP <ユーザ名> および FTP <サーバ名> が中継サーバに送信されます。この情報は、 ユーザ名@サーバ名 の形式で指定されます。中継サーバはこの情報と FTP サーバの <パスワード> を

ユーザ名@サーバ名の形式で指定されより。中継サーバはこの情報とFTP サーバの <パスワード> を 使用して、FTP サーバへ接続します。

構文 3

この形式の **PASSTHRU** コマンドを使用すると、FTP サーバに接続する SITE サーバ名形式の中継 サーバにログインすることができます。

Reflection FTP は、 <中継サーバ名> で指定された中継サーバにログインするコマンドを送信しま す。ログインコマンドは、 <中継ユーザ名> と <中継パスワード> に基づいて、中継サーバのユーザ名 とパスワードを提供します。一度接続されると、サイトコマンドが中継サーバに送信され、FTP サーバへの接続に必要な設定 (<サーバ名> 、 <ユーザ名> 、および <パスワード>) を送ります。中継 サーバは、この情報を用いて FTP サーバへ接続します。

12.2.25 QUOTE

構文: quote <文字列>

FTP コマンドの索引

QUOTE コマンドは、FTP サーバに文字列を送信します。Reflection FTP クライアントが対応して いない FTP サーバにコマンドを発行するには、**QUOTE** コマンドを使用してください。

多くの FTP サーバでは、 QUOTE HELP と入力すると、サーバが認識するコマンドの一覧を表示で きます。 QUOTE HELP <コマンド> と入力すると、そのコマンドに関する詳細な情報が表示されるこ とがあります。

<立字 サーバに送信する文字列を指定します。QUOTE コマンドで使用できる文字列 列> は、FTP サーバによって異なります。詳細については、サーバに付属するマ ニュアルを参照してください。

例

例えば、VAX/VMS FTP サーバ上にサブディレクトリ FIFE を作成するには、次のコマンドを使用 します。

QUOTE MKD MAYBERRY\$USERS:[BARNEY.FIFE]

12.2.26 RD

構文: rd <サーバフォルダ>

FTP コマンドの索引

RD コマンドは、サーバ上の空のディレクトリを削除します。

ک ک

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバ 削除するディレクトリの場所と名前を指定します。フォルダを削除する前

フォルダ> に、そのフォルダ内のフォルダとファイルを削除する必要があります。

例

次のコマンドは、現在のサーバから Articles フォルダを削除します。

RD Articles

12.2.27 RDALL

RDALL

構文: rdall <サーバフォルダ>

FTP コマンドの索引

RDALL コマンドは、指定されたサーバフォルダとそのフォルダ内にあるすべてのフォルダとファ イルを削除します。

ତ ×େ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

 <サーバディ</th>
 削除するディレクトリの場所と名前を指定します。UNIX FTP サーバなどの

 レクトリ>
 ように、サーバによっては、ディレクトリを指定する場合に大文字と小文

 字を区別するものがあります。

例

次のコマンドは、現在のサーバの場所から Maps ディレクトリを削除します。

RDALL Maps

次のコマンドは、Travel/Europe フォルダから Destinations フォルダを削除します。

RDALL /Travel/Europe/Destinations

12.2.28 REGET

構文: reget <サーバファイル> [to] [<クライアントファイル>]

FTP コマンドの索引

REGET コマンドは、FTP サーバから PC へのファイル転送で未完了のものを自動的に再開しま す。クライアントは、ダウンロードが中断された位置からファイル転送を自動的に再開します。

PC 上に部分ファイルが見つからない場合は、クライアントは GET を実行して、指定されたサーバ ファイル全体を最初から転送します。ローカルフォルダに転送ファイルと同じ名前のファイルがす でに存在する場合は、そのローカルファイルは上書きされます。

∂ ×€

REGETコマンドは、バイナリファイル転送でしか使用できません。REGET コマンドを使う前 に、必要ならば BINARY コマンドを使って、[ツール] メニューで指定されている既定のファイ ル転送方式を上書きしてください。

<サーバ PC に転送するサーバファイル名を指定します。

ファイル>

to <クラ 作成する PC ファイル名を指定します。

イアント

ファイル> ほとんどの REGET 処理では、このオプションを省略できます。このオプ ションを省略すると、クライアントファイルは、サーバファイルと同じ名前 になります。

> 中断されたファイル転送でダウンロードファイルに PC 上で新しい名前を付けるように指定している場合は、必ずその名前を <クライアントファイル> に 指定してください。これによって、クライアントが確実に PC 上で部分ファ イルを見つけて、転送を再開できるようになります。

キーワード TO は省略してもかまいません。

12.2.29 SET

SET パラメータの解説

以下のパラメータは、SET コマンドとともに使用します。設定は別途に記載がないかぎり、サイト 固有です。

SET パラメータ	値	説明
ABORT-ON-ERROR	はい いいえ (既定 値: はい)	コマンドの実行でエラーが発生した場合 に、スクリプトの実行を停止するかどう かを指定します。例として ABORT_ON_ERRORスクリプトサンプル を参照してください。
ACCOUNT	<文字列> (既定値: な し)	FTP サーバでログインするアカウント名 を指定します。この設定は SFTP 接続に は適用されません。
ANONYMOUS	YES NO (既定値: NO)	YES に設定すると、クライアントは、 anonymous ログインをユーザ名 「anonymous」を使って実行します。

SET パラメータ	值	説明
ASCII-CLIENT- TYPE	<値> (既定値: WINDOWS)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES に設定されていると、テキストファイル 転送時にクライアント PC で使用する文 字セットを指定します。次の値を使用で きます: PC-ENGLISH (IBM PC 拡張文 字)、PC-SLAVIC (DOS 852 コードペー ジ)、WINDOWS、WINDOWS-ANSI、 WINDOWS-LATIN-2、WINDOWS- CYRILLIC、WINDOWS-GREEK、 YUASCII。この設定は SFTP 接続には適 用されません。
ASCII-SERVER- TYPE	<値> (既定値: DEC 補助)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES に設定されていると、テキストファイル 転送時に使用する FTP サーバ文字セッ トを指定します。使用可能な値。この設 定は SFTP 接続には適用されません。
AUTO-SERVER- UPDATE	はい いいえ (既定 値: はい)	このグローバルパラメータでは、サーバ 上のディレクトリまたはファイルを追加 または削除する操作が行われた時に右画 面に表示されているサーバディレクトリ の一覧を更新するかどうかを指定しま す。
CLIENT-HOME- DIRECTORY	<文字列>	ローカル PC のホーム (既定値) ディレク トリのパスを指定します。この設定値が 設定されていない場合、グローバルの [既定のローカルホームディレクトリ] 設 定が使用されます。
CONFIRM-DELETE	はい いいえ (既定 値: はい)	このグローバルパラメータでは、ファイ ルを削除する前にクライアントが確認を とるかどうかを指定します。
CREATE-SERVER- UPPER	YES NO (既定値: NO)	サーバに転送するすべてのファイルに大 文字のファイル名を付けるかどうかを指 定します。

SET パラメータ	值	説明
CREATE-8.3- FILENAMES	YES NO (既定値: NO)	クライアントに転送するファイルが 8.3 ファイル命名規則を使用するかどかを指 定します。
CTRL-Z-EOF	YES NO (既定値: NO)	サーバへのテキストファイル転送に適用 します。このパラメータを YES に設定す ると、ファイル転送時にファイル終了を 示すマークとして「Ctrl-Z」が使用さ れ、送信中のファイルからそのマークを 削除しますNO に設定すると、ファイル のディレクトリエントリ内の文字カウン トが、ファイルの長さとして使用されま す。この設定は SFTP 接続には適用され ません。
DELETE-TRAILING- SPACES	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送時に 行末にある空白を削除するかどうかを指 定します。この設定は SFTP 接続には適 用されません。
EMAIL-ADDRESS	<文字列> (既定値: な し)	このグローバルパラメータでは、イン ターネットの電子メールアドレスを指定 します。接続が開始されると、多くの anonymous FTP サイトでは、電子メー ルアドレスを入力するように要求しま す。このアドレスは、外来者としてログ インする際のパスワードとして使用され ます。SFTP セッションでは、 anonymous 接続は使用できません。
FULL-TO-HALF- FROM-SERVER	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送に適 用します。DEC 漢字や JIS 漢字で記述さ れたメッセージやファイルをサーバから 受信する際に、全角カタカナから半角カ タカナに変換したい場合は、このパラ メータの値を YES に設定します。変換時 にどの漢字コードを使用するかは、 ASCII-SERVER-TYPE パラメータで指定 します。

SET パラメータ	值	説明
HALF-TO-FULL-TO- SERVER	YES NO (既定値: NO)	サーバへのテキストファイル転送に適用 します。サーバに送信する際に、DEC 漢 字か JIS 漢字で記述されたファイルを半 角カタカナから全角カタカナに変換した い場合は、このパラメータの値を YES に設定します。変換時にどの漢字コード を使用するかは、ASCII-SERVER-TYPE パラメータで指定します。
ISO7-TO-ROMAN8	YES NO (既定値: NO	TRANSLATE-FILES が YES のとき、サー バからのテキストファイル転送に適用し ます。PC で受信する際に ISO-7 文字の ファイルを NRC で記述されたファイル を 8 ビット文字に変換したい場合は、こ のパラメータの値を YES に設定します。 文字の変換は、NATIONAL- REPLACEMENT-SET パラメータで指定し ます。
KANJI-AUTO- DETECT	YES NO (既定値: NO)	サーバから受信したテキストファイルや メッセージで使用されている漢字コード の種類 (JIS、EUC、または DEC) をクラ イアントが自動的に認識し、その検出し た漢字コードを文字変換に使用するかど うかを指定します。
MCS-TO-NRC	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES が YES であるとき、 サーバにテキストファイル転送する際に どのようにコード変換を行うかを定義し ます。YES に設定すると、DEC 国際文字 セットを現在の国別文字セットに変換し ます。文字の変換は、NATIONAL- REPLACEMENT-SET 値で指定します。

SET パラメータ	值	説明
NATIONAL- REPLACEMENT- SET	<値> (既定値: USASCII)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES である場合に使用できます。必要に応じ て、このパラメータをホストが使用して いる設定に適合するように指定します。 PC ファイルをサーバに送信した時や、 サーバから送信された文字がローカル ファイルや画面に書き込まれる時に、ク ライアントとサーバとの間でコード変換 が行われます。使用可能な値。この設定 は SFTP 接続には適用されません。
NRC-TO-MCS	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES および (または) TRANSLATE-DIRECTORY-LISTING が YES であるとき、FTP サーバから PC へのテ キストファイルの転送時に行われる文字 セット変換を指定します。YES に設定す ると、現在の NRC 設定から DEC 国際文 字設定にコード変換されます。文字の変 換は、NATIONAL-REPLACEMENT-SET 値で指定します。この設定は SFTP 接続 には適用されません。
PASSIVE	はい いいえ (既定 値: はい)	サーバと passive (PASV) モードで通信 するためにクライアントから PASV コマ ンドを送信するかどうかを指定します。 PASSIVE を YES に設定すると、FTP ク ライアントはディレクトリー覧とファイ ル転送にそれぞれ異なるデータ接続を確 立します。一部のファイアウォールでは passive モードにすることが必要ですこ の設定は SFTP 接続には適用されませ ん。

SET パラメータ	值	説明
PASSTHROUGH- AUTHENTICATION	YES NO (既定値: NO)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。中継サーバにログイ ンするためにユーザ名とパスワードが必 要な場合は、PASSTHROUGH- AUTHENTICATION を YES に設定しま す。この設定は、USE-PASSTHROUGH- SERVER を NO に設定しているか、 PASSTHROUGH-SERVER-STYLE を SITE- SERVERNAME に設定している場合は無 視されます。
PASSTHROUGH- PASSWORD	<文字列> (既定値: な し)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。この設定は、ローカ ルネットワーク上の中継サーバのパス ワードを指定します。大文字と小文字を 区別するサーバでは、大文字と小文字を 正しく入力してください。
PASSTHROUGH- SERVER-STYLE	<値> (既定値: SITE- SERVERNAME)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。FTP クライアント は、指定したサーバの種類によってそれ ぞれ異なるコマンドを送信して中継サー バヘログインし、FTP サーバに接続しま す。
PASSTHROUGH- SERVERNAME	<文字列> (既定値: な し)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。この設定は、FTP サーバにログインするために使用する ローカルネットワーク上の中継サーバ名 を指定します。

SET パラメータ	値	説明
PASSTHROUGH- USERNAME	<文字列> (既定値: な し)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。この設定を使って、 ローカルネットワークの中継サーバに登 録されてい有効なユーザ名を指定しま す。大文字と小文字を区別するサーバで は、PASSTHROUGH-USERNAME の値を 入力する際に大文字と小文字を正しく入 力してください。
PASSWORD	<文字列> (既定値: な し)	現在の FTP サーバ上でのパスワードを 指定します。
PORT-NUMBER	0 ~ 65535 (既定値: 0)	非標準の TCP サービスポート番号また は FTP ソケットを指定します。既定値 の 0 を指定すると、FTP クライアントは 基本設定の FTP サービスポート (番号 21) を使用します。この設定は SFTP 接 続には適用されません。
PRESERVE-FILE- DATE	YES NO (既定値: NO)	サーバからダウンロードしたファイルの 元の日付を保持するかどうかを指定しま す。サーバから転送されたファイルの日 付を転送日付にする場合は、このパラ メータを NO に設定します。
PROXY-SERVER	<value></value>	この読み取り専用パラメータは、FTP ク ライアントが中継サーバと SOCKS プロ キシサーバのいずれを使ってサイトに接 続するかを示します。可能な値は、 PROXY SERVER と SOCKS PROXY で す。
QUIET-STATUS	YES NO (既定値: NO)	このグローバルパラメータは、接続進行 状況、転送進行状況、およびエラー通知 を含むダイアログボックスの表示をしな いようにします。

SET パラメータ	値	説明
RESUME-PARTIAL- TRANSFERS	ALWAYS NEVER ASKUSER (既定值: ASKUSER)	このセッション固有パラメータは、 BINARY 形式でサーバからファイルをダ ウンロードする場合に使用します。サー バファイルをダウンロードする時、FTP クライアントはそのファイルの前回のダ ウンロードが未完了であったかどうかを 調べます。クライアントが未完了のダウ ンロードを検出した時にユーザに尋ねる かどうかをこのパラメータで指定しま す。自動再開機能では、ソースファイル のサイズを未完了の転送先ファイルのサ イズと比較して、ソースファイルのどこ から転送を再開するかを決定します。 ローカル PC 上に作成されたファイルの サイズがソースファイルのサイズに一致 するように、バイナリファイル転送方式 を使ってください。
ROMAN8-TO-ISO7	YES NO (既定値: NO)	TRANSLATE-FILES が YES のとき、サー バへのテキストファイル転送に適用しま す。サーバに転送する際に 8 ビット文字 で記述されたファイルを NRC 設定の ファイルに変換したい場合は、このパラ メータの値を YES に設定します。この設 定は SFTP 接続には適用されません。
SAVE-PASSWORD	YES NO (既定値: NO)	サイトパスワードを保存するかどうか指 定します。
SAVE- PASSTHROUGH- PASSWORD	YES NO (既定值: NO)	このグローバルな中継サーバプロパティ を変更するには、サイトに接続されてい る必要があります。NO に設定すると、 中継パスワードは保存されません。

SET パラメータ	值	説明
SERVER-HOME- DIRECTORY	<文字列>	現在接続されている FTP または SFTP サ イトのホーム (既定値) ディレクトリのパ スを指定します。この FTP または SFTP サイトに接続されると、サーバの作業 ディレクトリ指定されたホームパスに自 動的に設定されます。値が指定されてい ない場合、ユーザのホームディレクトリ が使用されます。
SERVERNAME	<文字列> (既定値: な し)	ログインするサーバの名前を指定しま す。サーバ名は、Hosts ファイルまたは ドメインネームサーバで検索されます。 ローカルネットワーク上にドメインネー ムサーバが存在しないで、HOSTS ファ イルを使用していない場合は、完全な IP アドレスを指定する必要があります。指 定した値は、現在のセッションで次回に 接続する時にも使用されます。
SMART-ASCII- TYPES	(既定値: txt,bat,htm,html,ini)	このグローバルパラメータは、 TRANSFER-METHOD が SMART に設置 されたときに ASCII 転送方式を使って転 送するファイルを識別するために使用す るファイル拡張子をすべて指定します。 ファイル拡張子の一覧を指定するには、 各拡張子をカンマで区切ります。次に例 を示します。 SET SMART-ASCII-TYPES txt,bat,htm,html,ini
SMART-BINARY- TYPES	<文字列> (既定值: exe、gif、jpg、 wav)	このグローバルパラメータは、 TRANSFER-METHOD が SMART に設置 されたときにバイナリ転送方式を使って 転送するファイルを識別するために使用 するファイル拡張子をすべて指定しま す。ファイル拡張子の一覧を指定するに は、各拡張子をカンマで区切ります。次 に例を示します。 SET SMART-BINARY- TYPES exe,gif,jpg,wav

SET パラメータ	值	説明
SMART-TENEX- TYPES	<文字列> (既定値: な し)	このグローバルパラメータは、 TRANSFER-METHOD が SMART に設置 されたときに Tenex (ローカル 8) 転送方 式を使って転送するファイルを識別する ために使用するファイル拡張子をすべて 指定します。ファイル拡張子の一覧を指 定するには、各拡張子をカンマで区切り ます。次に例を示します。 SET SMART- TENEX-TYPES edd,gol,mmd,lad
SMART-TYPE- DEFAULT	ASCII BINARY TENEX ASK USER (既定値: ユーザに尋 ねる	このグローバルパラメータでは、 TRANSFER-METHOD が SMART に設定 された時にソースファイルの拡張子が SMART-ASCII-TYPE、SMART-BINARY- TYPE、SMART-TENEX-TYPE のいずれと しても定義されていない場合の既定の転 送方式を指定します。スマートファイル 転送時、どのファイル転送方式にも関連 付けられていない拡張子を持つソース ファイルは SMART-TYPE-DEFAULT で指 定されている転送方式で転送されます。
SPACES-PER-TAB	1-20 (既定値: 8)	テキストファイル転送に適用します。1 つのタブ文字に変換される連続する空白 の数 (SPACES-TO-TABS) または1つのタ ブ文字から変換さる連続する空白の数 (TABS-TO-SPACES) を指定します。この 設定は SFTP 接続には適用されません。
SPACES-TO-TABS	YES NO (既定値: NO)	ホストからのテキストファイル転送に適 用します。このパラメータを YES に設定 すると、テキストファイルの受信時に、 連続する空白文字をタブで置き換えま す。1 つのタブあたりの空白の数は、 SPACES-PER-TAB パラメータで制御され ます。この設定は SFTP 接続には適用さ れません。

SET パラメータ	值	説明
TABS-TO-SPACES	はい いいえ (既定 値: はい)	このパラメータを YES に設定すると、 サーバへのテキストファイルの転送時に ローカルファイル内にあるタブコードが サーバファイル内でいくつかの空白文字 に変換されます。FTP クライアントは、 各タブコードを適切な数の空白文字 (空 白の数は SPACES-PER-TAB パラメータ で指定) で置き換えて埋めます。この設 定は SFTP 接続には適用されません。
TIME-LOGGED-IN	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、サー バにログインした時刻を示します。時間 データがどのように表示されるかは、 Windows のコントロールパネルにある [地域] - [時刻] タブで指定されている時間 の形式によります。
TIME-SINCE- LOGIN	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、サー バにログインしている時間を示します。 時間データがどのように表示されるか は、Windows のコントロールパネルに ある [地域] - [時刻] タブで指定されてい る時間の形式によります。
TIMEOUT- CONNECT	0 ~ 65535 (既定値: 120)	クライアントがサーバへ接続する際に、 接続を断念するまでの待ち時間を秒単位 で指定します。このパラメータを 0 に設 定すると、FTP クライアントは接続が完 了するまで永久に待ち続けます。この設 定は SFTP 接続には適用されません。
TIMEOUT-SESSION	0 - 65535 (既定値: 120)	データパケットをホストとの間で転送す る時の最大待ち時間を秒数で指定しま す。指定した時間内に何も受信しない場 合、時間経過エラーが表示され、転送は 中止されます。このパラメータを 0 に設 定すると、FTP クライアントは接続が完 了するまで永久に待ち続けます。この設 定は SFTP 接続には適用されません。

SET パラメータ	值	説明
TRANSFER-8.3- CASE	LOWER UPPER PRESERVE (既定値: LOWER)	アップロードするファイル名が DOS 8.3 形式ファイル名の命名規則に準拠する場 合、ホストに送信するファイルの名前に おける大文字/小文字の設定をどのよう に処理するかを決定します。CREATE- SERVER-UPPER が YES に設定されてい る場合は、この設定は無視されます。
TRANSFER- DISPOSITION	<値> (既定値: OVERWRITE)	このグローバルパラメータでは、クライ アントまたはサーバファイルが転送先に すでに存在する場合の処理方法を指定し ます。可能な値は、APPEND、 PROMPT、CANCEL、OVERWRITE、 SKIP、UPDATE、UNIQUE です。UPDATE は、転送するファイルが転送先のファイ ルより新しい場合にのみ、転送先のファ イルを上書きするようクライアントに指 示します。UNIQUE は、新規の固有の名 前を付けるようクライアントに指示しま す。
TRANSFER- ELAPSED-TIME	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、最後 に行われたファイル転送が終了するまで にかかった時間を示します。時間データ がどのように表示されるかは、Windows のコントロールパネルにある [地域] - [時 刻] タブで指定されている時間の形式に よります。
TRANSFER- METHOD	<値> (既定値: SMART)	このグローバルパラメータでは、クライ アントのファイル転送方式を指定しま す。可能な値は、ASCII、BINARY、 TENEX、SMART です。
TRANSFER-SPEED	(読み込み専用)	これは読み取り専用パラメータで、最後 に行われたファイル転送の速度を示しま す。値は、1 秒間に転送されるデータを KB 単位で表示します。

SET パラメータ	値	説明
TRANSLATE- DIRECTORY- LISTING	YES NO (既定値: NO)	サーバから送信された文字を画面に表示 する際に文字の変換を行うかどうかを指 定します。この設定を使って、FTP クラ イアントユーザインターフェイス上の サーバディレクトリの一覧に表示される ファイル名を変換することができます。 このパラメータを「はい」に設定する と、以下の SET パラメータも有効になり ます: SET ASCII-CLIENT-TYPE、SET ASCII-SERVER-TYPE、SET NATIONAL- REPLACEMENT、ISO7-TO-ROMAN8、お よび SET NRC-TO-MCS。この設定は SFTP 接続には適用されません。
TRANSLATE-FILES	YES NO (既定値: NO)	テキストファイルの変換を有効にするか どうかを指定します。YES に設定する と、PC ファイルがサーバに送信される 際や、サーバから送信された文字がクラ イアントファイルに書き込まれる際に、 クライアントとサーバの間でコード変換 が行われます。このパラメータを「は い」に設定すると、以下の SET パラメー タも有効になります: SET ASCII-CLIENT- TYPE、SET ASCII-SERVER-TYPE、SET NATIONAL-REPLACEMENT、SET ISO7- TO-ROMAN8、SET ROMAN8-TO-ISO7、 SET NRC-TO-MCS、および SET MCS-TO- NRC。この設定は SFTP 接続には適用さ れません。

SET パラメータ	值	説明
USE- PASSTHROUGH- SERVER	YES NO (既定値: NO)	現在の FTP サイトに接続する時に中継 サーバを使用するかどうかを指定しま す。YES に設定している場合、FTP クラ イアントは次のグローバル設定を使って 中継サーバに接続します: PASSTHROUGH-SERVER-STYLE、 PASSTHROUGH-SERVERNAME、 PASSTHROUGH-USERNAME、 PASSTHROUGH-PASSWORD、および PASSTHROUGH-AUTHENTICATION。
USE-SOCKS	YES NO (既定値: NO)	現在のサイトに接続する際に、SOCKS プロキシサーバを使用するかどうかを指 定します。YES と設定すると、FTP クラ イアントは SOCKS プロキシサーバを使 用します。
USERNAME	< [、] 文字列> (既定値: な し)	現在のサーバに登録されている有効な ユーザ名を指定します。大文字と小文字 を区別しているサーバでは、大文字と小 文字を正しく入力してください。
WRITE-CTRLZ	YES NO (既定値: NO)	サーバからのテキストファイル転送に適 用します。このパラメータを YES に設定 すると、FTP クライアントは受信したテ キストファイルの最後にファイル終端 マーク (^Z) を自動的に付加します。

SET パラメータとそれに対応するインタフェース設定

SET パラメータは、SET コマンドとともに使用します。次の表は、FTP クライアントのユーザイン タフェースで対応している設定を示しています。

SET パラメータ	対応するインタフェース
ABORT-ON-ERROR	これに対応するダイアログボックスはあ りません。
ACCOUNT	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [接続] タブにある [アカウント] ボック ス

SET パラメータ	対応するインタフェース
ANONYMOUS	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [全般] タブにある [anonymous] オプ ション
ASCII-CLIENT-TYPE	[文字セット] ダイアログボックスの [クラ イアント] 文字セット
ASCII-SERVER-TYPE	[文字セット] ダイアログボックスの [サー バ] 文字セット
AUTO-SERVER-UPDATE	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [ディレクトリ] タブにある [ディレクト リを自動的に更新する] チェックボックス
CLIENT-HOME-DIRECTORY	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [ディレクトリ] タブにある [ローカル] の [ホームフォルダ] ボックス
CONFIRM-DELETE	[オプション] ダイアログボックスの [ユー ザ設定] タブにある [ファイル削除の確認 ダイアログボックスを表示する] チェック ボックス
CREATE-SERVER-UPPER	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [転送] タブにある [8.3 形式ファイル名 の大文字/小文字の設定] リストボックス
CREATE-8.3-FILENAMES	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [転送] タブにある [Windows ファイル 名を 8.3 形式で作成する] チェックボック ス
CTRL-Z-EOF	[サイトプロパティ]ダイアログボックスの [変換]タブにある[サーバに]の[CTRL-Zを 文末とみなす]チェックボックス
DELETE-TRAILING-SPACES	[サイトプロパティ]ダイアログボックスの [変換] タブにある[行末の空白を削除する] チェックボックス
EMAIL-ADDRESS	[オプション] ダイアログボックスの [全般] タブにある [anonymous パスワード] テキ ストボックス

SET パラメータ	対応するインタフェース
FULL-TO-HALF-FROM-SERVER	[文字セット] ダイアログボックスの [全角 カタカナを半角に置換する] チェックボッ クス
HALF-TO-FULL-TO-SERVER	[文字セット] ダイアログボックスの [半角 カタカナを全角に置換する] チェックボッ クス
ISO7-TO-ROMAN8	[文字セット] ダイアログボックスの [NRC を 8 ビット文字に置換する] チェックボッ クス
KANJI-AUTO-DETECT	[文字セット] ダイアログボックスの [サー バの日本語文字セットを自動認識する] チェックボックス
MCS-TO-NRC	[文字セット] ダイアログボックスの [DEC 国際文字を NRC に置換する] チェック ボックス
NATIONAL-REPLACEMENT-SET	[文字セット] ダイアログボックスの [ISO-7/NRC] セット
NRC-TO-MCS	[文字セット] ダイアログボックスの [NRC を DEC 国際文字に置換する] チェック ボックス
PASSIVE	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [接続] タブにある [<mark>passive モードを使</mark> 用する] チェックボックス
PASSTHROUGH-AUTHENTICATION	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ファイアウォール] タブにあ る [ファイアウォールを使用する] チェッ クボックス
PASSTHROUGH-SERVERNAME	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ファイアウォール] タブにあ る [サーバ名] ボックス
PASSTHROUGH-USERNAME	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ファイアウォール] タブにあ る [ユーザ名] ボックス

SET パラメータ	対応するインタフェース
PASSWORD	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [全般] タブにある [パスワード] ボック ス
PORT-NUMBER	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [接続] タブにある [TCP ポート] ボック ス
PRESERVE-FILE-DATE	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [転送] タブにある [サーバファイルの日 付を保持する] チェックボックス
PROXY-SERVER	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスのファイアウォール設定および SOCK 設定に基づく読み取り専用の値。
QUIET-STATUS	[オプション] ダイアログボックスの [ユー ザ設定] タブにある [進行状況ウィンドウ を表示しない] チェックボックス
ROMAN8-TO-ISO7	[文字セット] ダイアログボックスの [8 ビ ット文字を NRC に置換する] チェック ボックス
SAVE-PASSWORD	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [全般] タブにある [パスワードを保存] チェックボックス
SAVE-PASSTHROUGH-PASSWORD	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ファイアウォール] タブにあ る [パスワードを保存] チェックボックス
SERVER-HOME- DIRECTORY_SERVER_HOME_DIRECTORY	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [ディレクトリ] タブにある [ホームディ レクトリ] ボックス
SERVERNAME_SERVERNAME	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [全般] タブにある [FTP アドレス] ボッ クス
SMART-ASCII-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファ イルの種類] タブのスマートファイル転送 方式

SET パラメータ	対応するインタフェース
SMART-BINARY-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファ イルの種類] タブのスマートファイル転送 方式
SMART-TENEX-TYPES	[オプション] ダイアログボックスの [ファ イルの種類] タブのスマートファイル転送 方式
SMART-TYPE-DEFAULT	[オプション] ダイアログボックスの [ファ イルの種類] タブの [未定義拡張子の転送 方式] グループボックス
SPACES-PER-TAB	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [変換] タブにある [タブの幅] ボックス
SPACES-TO-TABS	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [変換] タブにある [空白をタブに置換す る] チェックボックス
TABS-TO-SPACES	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [変換] タブにある [タブを空白に置換す る] チェックボックス
TIME-LOGGED-IN	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [情報] タブにある [接続日と時刻]
TIME-SINCE-LOGIN	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [情報] タブにある [通信時間]
TIMEOUT-CONNECT	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [接続] タブにある [接続] ボックス
TIMEOUT-SESSION	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [接続 タブにある [セッション] ボック ス
TRANSFER-8.3-CASE	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [転送] タブにある [サーバへのアップ ロードオプション] の [8.3 形式ファイル名 の大文字/小文字の設定] ボックス
TRANSFER-DISPOSITION	[ツール] メニューの [ファイル既存の場合 に] コマンド

SET パラメータ	対応するインタフェース
TRANSFER-ELAPSED-TIME	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [情報] タブにある [前回の転送時間]
TRANSFER-METHOD	[ツール] メニューの [転送方式] コマンド
TRANSFER-SPEED	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [情報] タブにある [前回の転送効率]
TRANSLATE-FILES	[文字セット] ダイアログボックスの [ファ イルを変換する] チェックボックス
USE-PASSTHROUGH-SERVER	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスのファイアウォール設定によっ て制御されます。
USE-SOCKS	[セキュリティのプロパティ] ダイアログ ボックスの SOCKS 構成によって制御され ます。
USERNAME	[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [全般] タブにある [ユーザ名] ボックス

SET パラメータ

WRITE-CTRLZ

対応するインタフェース

[サイト プロパティ] ダイアログボックス の [変換] タブにある [**サーバから**] の [**文末 に CTRL-Z を付加する**] チェックボックス

Site_Specificファイル転送SETパラメータ

ファイル転送の詳細設定用 SET パラメータ

サーバにファイルを送信する時の転送オプション

- CREATE-SERVER-UPPER
- TRANSFER-8.3-CASE
- サーバからファイルを受信する時の転送オプション
 - PRESERVE-FILE-DATE
 - CREATE-8.3-FILENAMES

テキストファイル転送時の文字変換用 SET パラメータ

コード変換に使用される文字セット

- ASCII-CLIENT-TYPE
- ASCII-SERVER-TYPE
- NATIONAL-REPLACEMENT-SET

サーバへのファイル転送時の変換オプション

- MCS-TO-NRC
- ROMAN8-TO-IS07

サーバからのファイル受信時の変換オプション

- IS07-TO-ROMAN8
- NRC-TO-MCS

ASCII SERVER TYPE SETパラメータ値

ASCII-SERVER-TYPE SET パラメータ <値> は、以下のいずれかに設定できます。

DEC-SUPPLEMENTAL	ISO-LATIN-2	BIG-5	DEC-Hebrew
ISO-LATIN-1	ISO-LATIN-5	CCDC	7-Bit-Hebrew
PC-ENGLISH	ISO-LATIN-6	GB-Chinese	DEC-Cyrillic
PC-MULTILINGUAL	ISO-LATIN-7	KS-5601- Korean	HP-Turkish
HP-ROMAN-8	ISO-LATIN-8	HP-Greek	DEC-Turkish
PC-SLAVIC	ISO-LATIN-9	DEC-Greek	PC-Spanish
PC-CYRILLIC-855	SHIFT-JIS	PC-Greek	PC-Turkish
PC-MODERN-TURKISH	JIS-X0208-1990	YUASCII	SBIG-5
PC-PORTUGUESE	JIS-X0208-1983	PC-Cyrillic	THAI-988- TISO
PC-ICELANDIC	JIS-C6226-1978	JIS-Katakana	THAI-TISO
PC-CANADIAN- FRENCH	DEC-1983-KANJI	NEC-N88	THAI-KU
PC-ARABIC	DEC-1978-KANJI	PC-Hebrew	THAI-PRIME
PC-NORDIC	EUC	HP-Hebrew	HP-Hebrew
PC-MODERN-GREEK	PC-MODERN- GREEK		

NATIONAL-REPLACEMENT-SET パラメータの値

NATIONAL-REPLACEMENT-SET SET パラメータ <値> は、以下のいずれかに設定できます。

USASCII	GERMAN
DANISH	SWISS-GERMAN
DUTCH	ITALIAN
CANADIAN-ENGLISH	SPANISH-LATIN

FINNISH	NORWEGIAN
FLEMISH	PORTUGUESE
FRENCH	SPANISH-EUROPEAN
CANADIAN-FRENCH	SWEDISH

ABORT-ON-ERROR Script Sample

次のサンプルコードでは、**ABORT-ON-ERROR** を NO に設定してから MGET を使用し、YES に戻し てから MDEL または PUT を使用しています。

SET ABORT-ON-ERROR NO CD /home/user1/reports CONTINUE ON MGET june*.rpt CD /home/user2/reports MGET june*.rpt SET ABORT-ON-ERROR YES MDEL june*.rpt CD /home/user1/reports MDEL june*.rpt SET ABORT-ON-ERROR NO CD /home/yearly CONTINUE MGET ye20*.rpt,ye20*.txt SET ABORT-ON-ERROR YES CD /tmp PUT ye2000.txt PUT ye2000.txt APPEND

12.2.30 SITE

構文: site <引数>

FTP コマンドの索引

SITE コマンドは、サーバが認識できる SITE コマンドをサーバに送信します。

FTP コマンドラインで次のコマンドを入力して、どの SITE コマンドが現在の FTP サーバで理解さ れるかを調べます。

QUOTE help site

サーバが QUOTE コマンドに対応していれば、そのサーバが理解する SITE コマンドの一覧が返さ れます。サーバの応答はコマンドウィンドウに表示されます。

<argument> FTP サーバが理解する SITE コマンドを指定します。

例

次のコマンドは、サーバの無活動待ち時間の設定内容を返すように要求します。

SITE idle

サーバの応答は、次のようにコマンドウィンドウに表示されます。次に例を示します。

200 Current IDLE time limit is 900 seconds; max 7200

次のコマンドは、無活動待ち時間を1800秒に設定します。

SITE idle 1800

12.2.31 システム

構文: system

FTP コマンドの索引

SYSTEM コマンドは、使用している FTP サーバのオペレーティングシステム情報を表示します。 この情報は、FTP コマンドウィンドウに表示されます。

例えば、FTP コマンドラインに SYSTEM と入力すると、以下のように表示されます。

215 UNIX Type: L8

12.2.32 TYPE

構文: type <サーバファイル>

FTP コマンドの索引

TYPE コマンドは、サーバファイルの内容を FTP コマンドウィンドウに表示します。

<サーバファイ サーバファイルの場所と名前を指定します。ワイルドカードで指定する

ル> ことはできません。

例

次のコマンドは、FTP サーバの /Users/boris フォルダにある hardware.txt ファイルをコマンド ウィンドウに表示します。

TYPE /Users/boris/hardware.txt

12.2.33 VERIFY

構文: verify [コマンド] [<SETパラメータ>] [changed]

FTP コマンドの索引

VERIFY コマンドは、1 つまたは複数の SET パラメータの値に関する情報を表示します。パラメー タがない場合、VERIFY コマンドは、Reflection のすべての SET パラメータの現在の値を表示しま す。

<set パラメータ> 特定のSETパラメータの値を表示します。

例

次のコマンドは、現在の NATIONAL-REPLACEMENT-SET の設定を表示します。

VERIFY NATIONAL-REPLACEMENT-SET

次のコマンドは、現在の SET パラメータ値の完全な一覧を作成します。

VERIFY

12.3.1 SFTP コマンド

使用可能なコマンド:

- [ASCII]
- BINARY
- BYE
- CD
- CHMOD
- ・終了
- GET
- LCD
- LLS
- LMKDIR
- LPWD
- LS
- MGET
- MKDIR
- MPUT
- PROGRESS
- PUT
- PWD
- QUIT
- RENAME
- RM
- RMDIR
- SET
- SMART
- TENEX

12.3.2 [ASCII]

構文: ascii

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

ASCII コマンドは現在のファイル転送方式を ASCII 方式に変更します。テキストファイルをサーバ と PC との間で移動する場合は、この転送方式を使用してください。

12.3.3 BINARY

構文: binary

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

BINARY コマンドは、現在のファイル転送方式をバイナリ (イメージ) 方式に変更します。.EXE ファイルや圧縮ファイルなどのバイナリファイルを 2 台の PC 間で (サーバを経由して)、または 2 台のサーバ間で (PC を経由して) 転送するには、この転送方式を使用してください。

12.3.4 BYE

構文: bye

SFTP コマンドの索引

BYE コマンドはサーバへの接続を切断します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

12.3.5 CD

構文: cd <サーバディレクトリ>

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

CD コマンドは、FTP サーバの作業ディレクトリを変更します。

<サーバディレクトリ> サーバのディレクトリを指定します。

例

次のコマンドは、UNIX システム上の「Asian Artists」ディレクトリに変更します。

CD Asian Artists

次のコマンドは、VAX/VMS システム上のディレクトリに変更します。

CD SYS\$USERS:[ARNOLD.DOCS]

12.3.6 CHMOD

構文: chmod <許可マスク数値> <サーバファイルまたはディレクトリ>

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

CHMOD コマンドは、ファイルまたはディレクトリに関連付けられているアクセス許可を変更します。

<許可マス UNIX chmod コマンドとして有効な 3 桁の数値を指定します。有効な値の桁 2数値> 数は 0 ~ 7 です。ヒント: アクセス許可の設定に使用するマスクを確認する には、サーバファイルを右クリックし、[プロパティ]を選択します。プロパ ティダイアログボックスに、3 桁のマスクおよび関連付けられているアクセ ス許可が表示されます。アクセス許可を変更すると、マスク値は自動的に更 新されます。

<サーバ FTP サーバ上のファイルまたはディレクトリを指定します。サーバの構文に

ファイル 従って、ファイル名またはディレクトリ名を指定してください。

または

ディレク

トリ>

例

このコマンドは、指定したファイルの属性を -rw-r--r-- に設定します。

chmod 644 myfile.htm

12.3.7 終了

構文: exit

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

EXIT コマンドはサーバへの接続を切断します。

12.3.8 GET

構文: get <サーバファイル> [to] [<クライアントファイル>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

Getコマンドは、サーバから PC にファイルを転送します。GETコマンドではワイルドカードはサ ポートされていません。ワイルドカードは普通の文字として扱われ、ファイル名の一部とみなされ ます。複数ファイルを転送する場合は、MGET コマンドを使用します。

GETコマンドを使用する前に、必要ならば、ASCII、BINARY、TENEX2、またはSMARTコマンドを 使って[ツール]メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の SET パラメータによって影響されます。詳細については、こ こをクリックしてください。

<サーバファイル> サーバディレクトリの名前を指定します。

to <クライアントファイル >	作成する PC ファイル名を指定します。このオプションを省 略すると、クライアントファイルにはサーバファイルと同じ 名前が付けられます。キーワード TO は省略してもかまいま せん。
append askuser cancel overwrite	転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定し ます。このオプションを省略すると、設定されている
skip unique	TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

以下の例では、サーバファイル MEMO.DOC をサーバから PC に転送し、PC ファイルにも同じ名 前を付けます。

GET MEMO.DOC

以下の例では、VAX/VMS 上の FTP のサーバファイル MORTGAGE.PAPERS を PC に転送し、PC ファイルに MORTGAGE.TXT という名前を付けます。

GET MORTGAGE.PAPERS MORTGAGE.TXT

12.3.9 LCD

構文: lcd [<pc ドライブ/フォルダ> | ..]

FTP コマンドの索引SFTP コマンドの索引

LCD コマンドは、PC 上の別のフォルダを開きます。

<フォルダ>を指定しないと、LCD コマンドは現在の PC フォルダのパスを表示します。

フォルダを変更するには、FTP コマンドラインにフォルダ名を「 LCD F:\Documents 」のように入 力してから、Return キーを押します。

<pc th="" ドライブ\フォル<=""><th>変更先のドライブ (現在のドライブと異なる場合) およびフォルダ</th></pc>	変更先のドライブ (現在のドライブと異なる場合) およびフォルダ
ダ>	を指定します。
例

次のコマンドは、現在のフォルダをドライブ D: の Asian Travel フォルダ内の China フォルダに変 更します。

LCD d:\Asian Travel\China

12.3.10 LLS

構文: 11s <pc ファイル指定>

SFTP コマンドの索引

LLS コマンドは、ファイル指定の条件に一致する PC ファイルの一覧を表示します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は LDIR コマンドを使用します。

<pc th="" ファイ<=""><th>PC 上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。こ</th></pc>	PC 上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。こ
ル指定>	のオプションを使用しない場合は、現在の PC フォルダの内容が表示され
	ます。

例

次のコマンドは、現在の PC フォルダにある .DOC という拡張子を持つファイルの一覧を表示します。

LLS *.Doc

12.3.11 LMKDIR

構文: 1mkdir <pc ディレクトリ>

SFTP コマンドの索引

LMKDIR コマンドは、PC 上に新しいフォルダを作成します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は LMD コマンドを使用します。

<pc フォル フォルダを作成するドライブ (現在のドライブ以外に作成したい場合) と ダ> フォルダ名を指定します。

例

次のコマンドは、現在の PC ドライブにフォルダ MUSIC を作成します。

LMKDIR \Music

12.3.12 LPWD

構文: lpwd [<pc ドライブ/フォルダ> | ..]

SFTP コマンドの索引

LPWD コマンドは、PC 上の別のフォルダを開きます。

<フォルダ> を指定しないと、LPWD コマンドは現在の PC フォルダのパスを表示します。

フォルダを変更するには、FTP コマンドラインにフォルダ名を「LPWD F:\Documents」のように 入力してから、Return キーを押します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は LCD コマンドを使用します。

<pc ドライブ\フォル 変更先のドライブ (現在のドライブと異なる場合) およびフォルダ ダ> を指定します。 例

次のコマンドは、現在のフォルダをドライブ D: の Asian Travel フォルダ内の China フォルダに変更します。

LPWD d:\Asian Travel\China

12.3.13 LS

構文: 1s [<サーバファイル指定>]

FTP コマンドの索引

LS コマンドは、ファイル指定の条件に一致するサーバファイルの簡易一覧を表示します(DIR コマンドはサーバファイルの詳細一覧を表示します)。

<サーバファ	サーバ上のフォルダ、ファイル、またはファイルグループを指定します。
イル指定>	このオプションを使用しない場合は、現在のサーバフォルダの内容が表示
	されます。

例

次の例では、UNIX FTP サーバ上の現在のディレクトリにある全ファイルの名前が一覧表示されます。

LS *.*

12.3.14 MGET

構文: mget <サーバファイル指定> [to] [<pc ファイル指定>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

MGET コマンドは、ファイル指定の条件に一致する 1 つ以上のファイルを FTP サーバから PC に 転送します。ワイルドカードを使用して複数のファイルを転送できます。ほとんどのサーバでは、 <サーバファイル指定> にワイルドカードを使用することができます。ただし、サーバが LS コマン ドでのワイルドカードの使用に対応していない場合は、MGET でワイルドカードを使用すると、 現在のディレクトリにあるすべてのファイルが転送される場合があります。

Reflectionクライアントは、SFTPセッション内の**MGET**をサポートしますが、SFTPサーバがワ イルドカード指定を正しく解釈しない場合があるため、ワイルドカード文字を使用する転送を テストする必要があります。

MGETコマンドを使用する前に、必要ならば、ASCII、BINARY、TENEX、またはSMARTコマンド を使って[ツール]メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の SET パラメータによって影響されます。詳細については、こ こをクリックしてください。

<サーバファイル指定> (サーバ側のワイルドカードを使用して) PC に転送する 1 つ以上 のサーバファイルを指定します。他のオプションを付けずに < サーバファイル指定> を指定すると、PC ファイルにはサーバファ イルと同じ名前が付けられます。

to <pc th="" ファイル指定<=""><th>ファイルを受信する PC フォルダ、または作成する PC ファイル</th></pc>	ファイルを受信する PC フォルダ、または作成する PC ファイル
>	の名前を指定します。キーワード TO は省略してもかまいませ
	ん。このオプションを省略すると、サーバファイルは現在のフォ
	ルダに転送されます。
	<サーバファイル指定> で複数のファイルを指定する場合、通常
	<pc ファイル指定=""> はディレクトリパスでなければなりません。</pc>
	複数のサーバファイルを 1 つの PC ファイルにまとめたい場合
	は、 <pc ファイル指定=""> にファイル名を指定し、APPEND オプ</pc>
	ションを使用します。
	ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。
	例:
	MGET*。* "C:\My documents*.*"

```
append | askuser
| cancel |
overwrite | skip
| unique
```

転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定しま す。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

この例では、拡張子 .Doc を持つすべてのファイルを FTP サーバから PC の現在のディレクトリに 転送します。

MGET *.Doc

この例では、文字「A」を転送されるファイル名に追加します。例えば、「test.txt」は「Atest.txt」になります。

MGET *.* A*.*

その他の例については、ABORT_ON_ERROR Script Sampleを参照してください。

12.3.15 MKDIR

構文: mkdir <サーバフォルダ>

SFTP コマンドの索引

MKDIR コマンドは、サーバ上に新しいフォルダを作成します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は MD コマンドを使用しま す。

<サーバフォルダ> 新しいフォルダの名前と場所を指定します。

例

次のコマンドは、FTP UNIX サーバドライブの現在のフォルダに Films というフォルダを作成します。

MKDIR Films

12.3.16 MPUT

構文: mput <pc ファイル指定> [to] [<サーバファイル指定>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

MPUT コマンドは、ファイル指定の条件に一致する1つ以上のファイルを PC から FTP サーバに 転送します。ワイルドカードを使用して複数のファイルを転送できます。

∂ ×€

Reflectionクライアントは、SFTPセッション内の**MPUT**をサポートしますが、SFTPサーバがワ イルドカード指定を正しく解釈しない場合があるため、ワイルドカード文字を使用する転送を テストする必要があります。

MPUT コマンドを使用する前に、必要ならば、ASCII、BINARY、TENEX、または SMART コマンド を使って [ツール] メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の SET パラメータによって影響されます。詳細については、ここをクリックしてください。

<pc ファイル指定=""></pc>	単一の PC ファイルまたはワイルドカードを使って複数のファイ ルを指定して、サーバに転送します。ファイルはサーバの現在の ディレクトリに置かれ、PC ファイルと同じ名前が付けられま す。
	テキストボックスでPCワイルドカード文字(?と*文字)を使って、 複数のファイルを送信することができます。例えば、現在のディ レクトリにある .TXT のファイル拡張子が付いているすべての ファイルを送信するには、コマンド MPUT *.Txt を使用します。
	ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用符を使用します。例:
	MPUT "C:\My documents*.*"

to <サーバファイル指 定>	PC ファイルを受信するための 1 つまたは複数 (サーバワイルド カードを使用する場合) のサーバファイルを指定します。この名 前のファイルが存在しない場合は、転送時に作成されます。 <サーバファイル指定> に値を指定しないと、サーバファイルには PCファイルと同じ名前が付けられます。
	キーワード TO は省略してもかまいません。

```
append | askuser
| cancel |
overwrite | skip
| unique
```

転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定しま す。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

次の例では、PC 上の現在のフォルダ内の Meeting Notes フォルダに .doc 拡張子を持つファイル を転送し、そのファイルを現在のサーバフォルダに保存します。転送先のサーバフォルダ内のファ イルと同じ名前を持つソース PC ファイルは転送されません。

MPUT "Meeting Notes*.Doc" skip

次の例では、サーバに転送されるファイル名の前に文字「A」を追加します。例えば、 「Sample.htm」は「ASample.htm」になります。

MPUT *.htm A*.htm

最後の例では、サーバにコピーされる PC ファイルのファイル拡張子を削除します。

MPUT *.* *.

12.3.17 PROGRESS

構文: progress

SFTP コマンドの索引

進行状況メータの表示を切り替えます。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

12.3.18 PUT

構文: put <クライアントファイル> [to] [<サーバファイル>] [append | askuser | cancel | overwrite | skip | unique]

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

PUT コマンドは、PC からサーバにファイルを転送します。

PUT コマンドは、ワイルドカードに対応していません。ワイルドカードを使用して複数のファイ ルを転送する場合は、PUT の代わりに MPUT コマンドを使用してください。

[PUT]コマンドを使用する前に、必要ならば、ASCII、BINARY、TENEX、またはSMARTコマンドを 使って[ツール]メニューで指定された既定のファイル転送方式を上書きします。

転送処理は、サイトに特有な各種の SET パラメータによって影響されます。詳細については、ここをクリックしてください。

<クライアントファイル>	PCの名前を指定します。ファイルまたはパスが空白を含む 場合、引用符を使用します。
to <サーバファイル>	作成するサーバファイルの名前を指定します。サーバファイ ル名を省略すると、サーバファイルには、PC ファイルと同 じ名前が付けられます。キーワード TO は省略してもかまい ません。

```
append | askuser |
cancel | overwrite |
skip | unique
```

転送先ファイルがすでに存在する場合にどうするかを指定し ます。このオプションを省略すると、設定されている TRANSFER-DISPOSITION の値が既定値になります。

例

以下の例では、PC からサーバにファイル MEMO.DOC を転送します。

PUT Memo.doc

以下の例では、PC から VAX/VMS FTP サーバにファイル HAPPY.ME を転送し、VMS ファイルに HAPPY.BIRTHDAY という名前を付けます。

PUT HAPPY.ME TO HAPPY.BIRTHDAY

その他の例については、ABORT_ON_ERROR Script Sampleを参照してください。

12.3.19 PWD

構文: pwd

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

PWD コマンドは、現在開いているサーバのフォルダを表示します。そのフォルダ名と保存場所が FTP コマンドウィンドウに表示されます。

12.3.20 QUIT

構文: quit

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

QUIT コマンドはサーバへの接続を切断します。

$^{igodoldsymbol{ ho}}$ ×େ

Windowsコマンドラインから /RFS スイッチを使用してスクリプトを実行し、QUITコマンドで スクリプトを終了する場合は、スクリプトが完了するとFTPクライアントが自動的に終了しま す。

12.3.21 RENAME

構文: rename <サーバファイル名> <新規ファイル名>

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

RENAME コマンドは、サーバファイル名を指定された新しい名前に変更します。サーバによって は、RENAME を使って、ファイルの新しい名前と新しい保存場所を指定できるものもあります。 この場合は、ファイルは新しい場所に移され、新しい名前が付けられます。

<サーバ	変更したいサーバファイル名を指定します。この指定には、ファイルが保存さ
ファイル	れているサーバフォルダ名を含むことができます。ファイルまたはパスが空白
名>	を含む場合、引用符を使用します。例えば、 "/Maps/North America" です。

<新規 新しいファイル名を指定します。ファイルまたはパスが空白を含む場合、引用 ファイル 符を使用します。次に例を示します。

名>

"D:\To do\Work assignments"

サーバによっては、名前を変更するファイルのパスを省略すると、ファイルが 現在のサーバフォルダに移動されて新しい名前が付けられるものがあります。 RENAME を使ってファイルを移動する場合は、新しい保存場所とファイル名 を指定してください。

例

次のコマンドは、サーバ上の現在のフォルダにあるファイル名 Map of Canada を Canada に変更 します。

RENAME "Map of Canada" Canada

次のコマンドは、サーバ上の Maps フォルダから Europe フォルダにあるファイル名 England を Great Britain に変更します。

RENAME /Maps/Europe/England "/Maps/Europe/Great Britain"

12.3.22 RM

構文: rm <サーバファイル>

SFTP コマンドの索引

RM コマンドは、SFTP サーバ上にある特定のファイル指定と一致するファイルを削除します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。FTP 接続の場合は DELETE コマンドを使用 します。

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバ	削除するサーバファイルの名前を指定します。ファイルへの完全なディレク
ファイル	トリパスを指定することもできます。一部のシステムでは、ディレクトリ名と
>	ファイル名を指定するときに大文字と小文字を区別する必要があります。

例

次のコマンドは、現在のサーバディレクトリから MEMO.DOC を削除します。

RM MEMO.DOC

12.3.23 RMDIR

構文: rmdir <サーバフォルダ>

SFTP コマンドの索引

RMDIR コマンドは、サーバ上の空のディレクトリを削除します。

このコマンドは、SFTP 接続の場合のみ使用できます。

𝒡 メモ

SETパラメータCONFIRM-DELETEがYESに設定されている場合は、削除する前に、削除してよいかどうかをユーザに確認します。

<サーバ 削除するディレクトリの場所と名前を指定します。

マォルダ バのオペレーティングシステムの規則に従って指定しなければなりません。
フォルダを削除する前に、そのフォルダ内のフォルダとファイルを削除する

必要があります。

例

次のコマンドは、現在のサーバから Articles フォルダを削除します。

RMDIR Articles

12.3.24 SET

構文: set <SETパラメータ> <値>

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

SET コマンドは、Reflection を構成する場合に使用します。使用できるオプションの一覧について は、SET パラメータ を参照してください。

例

以下のコマンドは、各種のファイル転送パラメータを初期化します。

```
SET TABS-TO-SPACES NO
SET TRANSFER-DISPOSITION Overwrite
SET TRANSFER-METHOD Ascii
SET TRANSLATE-FILES NO
```

詳細

- ・SET パラメータの解説
- ・SET パラメータとそれに対応するインタフェース設定
- ・サイト固有のファイル転送用 SET パラメータ

12.3.25 SMART

構文: smart

FTP コマンドの索引SFTP コマンドの索引

SMART コマンドは、現在の FTP ファイル転送方式をスマート方式に変更します。

転送するファイルの種類によって FTP クライアントが使用する転送方式 (テキストファイル、バイ ナリファイル、Tenex) を自動的に決めるように設定するには、スマート転送方式を使用します。 FTP クライアントはソースファイル拡張子を使用して、転送されるファイルの種類を決定します。 スマートファイル転送の設定には、[オプション] ダイアログボックスの [ファイルの種類] タブの設 定を使用します。

12.3.26 TENEX

構文: tenex

FTP コマンドの索引

SFTP コマンドの索引

TENEXI コマンドは現在のファイル転送方式を「ローカル 8」方式に変更します。DECsystem-20 など、1 バイトが 8 ビットでないバイトを使用しているサーバとの間でファイルを移動する場合 は、この転送方式を使用します。

13. 保証と著作権

© 2023 Open Text

Open Text、関連会社、およびライセンサ(「Micro Focus」)の製品およびサービスに対する保証 は、当該製品およびサービスに付属する保証書に明示的に規定されたものに限られます。本書のい かなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。Open Text は、本書に技術 的または編集上の誤りまたは不備があっても責任を負わないものとします。本書の内容は、将来予 告なしに変更されることがあります。

機密情報が含まれています。別途指定されている場合を除き、所有、使用、またはコピーには有効 なライセンスが必要です。FAR 12.211および12.212に準拠して、市販コンピュータソフトウェア、 コンピュータソフトウェアマニュアル、および市販品のテクニカルデータは、ベンダーの規格商 用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスされます。

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、およびFIPSコンプライアンスの詳細については、https://www.microfocus.com/legalを参照してください。